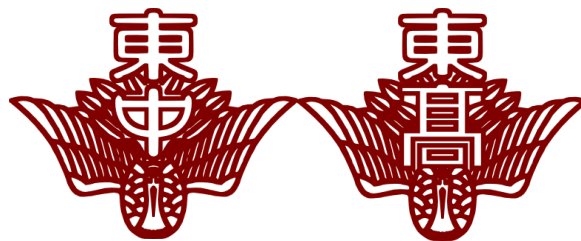


令和4年度 文部科学省指定

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）
コンソーシアム構築支援事業

研究開発実施報告書
（第2年次）



令和5年3月

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校

長崎県立長崎東高等学校

巻頭言

長崎県立長崎東中学校長

長崎県立長崎東高等学校長

鶴 田 栄 次

令和4年度（2022年度）は、「コロナとの共生」がスタートし、感染者数が増加する時期も厳しい行動制限はありませんでした。11月にカタールで開催されたワールドカップでは、ドイツやスペインを撃破した日本代表の姿だけでなく、マスクをせずに大声で応援している各国のサポーターたちの姿も注目を浴びました。本校も、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（以下、「WWL」）の拠点校の取組として、年度末の令和5年（2023年）3月に、オランダ、アメリカのニューヨーク、ハワイに生徒たちがフィールドワークに出かけるとともに、カナダへの語学研修にも多くの生徒が参加するなど、世界を実際に体験する機会を得ることができました。

また、海外渡航が制限されていた時期には、在長崎中国総領事館の張大興総領事をお招きして講話をいただくとともに、中国の福州市の培元中学とオンラインで交流を行うなど、長崎と中国の交流の歴史を再認識する学びの場もありました。少しずつ世界が動き出してきたようです。

本校は、3年前に、『「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成』を目指し、教育課程全体を通して探究的な学びを進め始めました。そして、今春その第1期生（75回生）が卒業を迎えました。卒業式において卒業生代表が、答辞の中で次の通りWWLの取組を振り返ってくれました。

「私の班は、カンボジアの小学生に向けて、衛生教育を目的とした絵本を作成し、現地の言葉に翻訳しました。その際に、絵本作家やカンボジア出身の大学生、タイの高校生、大学の研究所やNPO団体の方々などたくさんの方々が私たちに手を差し伸べてくださいました。そのことに大きな感謝を覚えるとともに、様々な立場からの力が結集するプラットフォームとなり、多分野にまたがる課題の解決を進める難しさと面白さを味わうことができました。そして、人と人との出会いは化学反応を起こすことを身をもって知り、協働することの重要性と可能性を強く感じました。」

生徒たちも本校での「学び」をしっかりと楽しみ、そして将来自分たちがどういう「学び」をすべきか理解しているようです。今後も、こうした生徒を社会に送り出すことができるよう、WWLの取組をさらに充実させていきたいと思います。

結びとなりましたが、本事業へのご指導・ご助言を賜りました長崎県教育委員会並びにWWL運営指導委員会等、多くの関係の皆様にご心より感謝申し上げます。また、多大なるご支援・ご協力をいただいております長崎大学や長崎県立大学等の関係各位に、厚く感謝申し上げますとともに、本事業の連携校である長崎西高校、長崎南高校、大村高校、壱岐高校、対馬高校等の高校のご協力にも感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

第1章 研究開発の概要

(1) カリキュラム開発拠点校の概要	1
(2) 研究構想	1
①構想名 ②構想の概要 ③構想図 ④イノベーティブなグローバル人材像	
(3) アドバンスド・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク)	5

第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

(1) カリキュラム開発	8
①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)	
②時間割編成の工夫 ③教科と探究のつながり ④探究ベーシック	
⑤グローバル講演会 ⑥プレゼンテーション講座 ⑦中国語の開設 (2 単位)	
⑧高度な課題研究を実施するための基盤整備	
(2) 「総合的な探究の時間」における研究開発	2 4
①中学校の取組 ②高校1年生の取組 ③高校2年生の取組 ④高校3年生の取組	
(3) 事業協働機関・事業連携校との取り組み	5 2
①長崎大学等との連携 ②教員研修	

第3章 高校生国際平和会議に向けた取組

(1) 第2回WWL長崎フォーラム	6 2
(2) 生徒主体による会議準備	6 2
(3) 他の拠点校等が開催する国際会議への参加	6 3

第4章 評価 (目標の進捗状況、成果・検証)

(1) 生徒の変容	6 5
(2) 教員の変容	8 0
(3) 学校評価	8 1
(4) 運営指導委員会・事業検証委員会	8 2
(5) 教科による成果の普及	9 3
(6) アウトプット・アウトカム	9 4
(7) 次年度の課題・計画	1 0 0

参考資料：教育課程表 (中学、令和3年度・令和4年度入学生【普通科】【国際科】)

第1章 研究開発の概要

管理機関 長崎県教育委員会 （長崎県長崎市尾上町3-1）

代表者 教育長 中崎 謙司

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 （長崎県長崎市立山5-13-1）

校長 鶴田 栄次

（1）カリキュラム開発拠点校の概要

学級数・生徒定員

長崎県立長崎東中学校

学年	学級数	定員
中1	3	120
中2	3	120
中3	3	120

長崎県立長崎東高等学校

学年	学科	学級数	定員
高1	普通・国際	7	280
高2	普通	5	200
	国際	2	80
高3	普通	5	200
	国際	2	80

（2）研究構想

①構想名

「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成

②構想の概要

歴史や文化の重要なクロスロードに位置してきた長崎から、新たな価値を創出できるグローバル人材を育成する。「世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを」をテーマに、長崎の教育資源を活用し、予測困難な時代において複数の視点や学問分野を融合させて様々な社会課題に取り組む。また、ALネットワークの構築により拠点校等の生徒が定期的に大学を訪れ高度な学びに取り組むことが可能となるシステムの確立や、企業・NPO等との協働、長崎と歴史的にもつながりの深い中国、オランダ等でのフィールドワーク、WEB会議等を活用した離島や海外の学校との共同研究等を行う。成果の共有・普及を図るため、拠点校が九州のSGH指定校をリードする形で開催した「九州SGHフォーラム」（H30年度、R元年度）を発展させ、大学、企業、海外の教育機関等も参画する高校生国際会議を開催する。

③構想図



④イノベティブなグローバル人材像

2021年に開港450年を迎える長崎は、江戸時代唯一の貿易の窓口として海外に開かれ、新しい社会を創造する風土があった。また、1945年の原子爆弾による甚大な被害から復興し、世界平和を目指し発信を続ける使命がある。2019年11月にはローマ教皇が長崎を訪れ、「核兵器のない世界は実現可能である」と世界に訴えた。地理的に見ると、長崎県には全国最多である49の有人離島があり、中国や韓国とも近く交流も盛んである。一方、急速に人口減少が進んでいる離島は課題先進地とも言われ研究のフィールドとして注目されている。これらの背景を踏まえ、本事業では「世界の平和と共生」をテーマに、他と協働しながら困難や障壁を克服し世界に新しい価値を創出し発信できる人材を育成する。

本事業では、長崎を様々な文化・価値観・社会課題等が交わる「クロスロード」と捉え、日本と海外、文系と理系、都市部と遠隔地等の「協働・共創」をキーワードに、SGH(H27年度～R元年度)5年間の成果と課題を踏まえて設定した以下の資質・能力等を備えた人材の育成を目指す。

【平和で持続可能な社会の構築を担うイノベティブなグローバル人材像】

ア 育成したい資質・能力(コンピテンシー及び探究スキル)

- ①自ら発見・定義した課題に主体的に向き合い、解決に近づく力(課題発見・解決力)
- ②学んだことを活用し、新たな価値を創造する力(創造力)
- ③物事を多角的に捉えて、情報を選択・分析し適切に活用する力(情報分析・活用力)
- ④自分の考えや意見を効果的に表現・発信し、他者に影響を与える力(自己表現力)

イ 育成したい心構え・考え方・価値観等（マインドセット）

⑤多様な文化的背景を持つ人々対話や議論を通じて協働する姿勢（協働性）

⑥学問に高い関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢（学ぶ意欲）

⑦世界平和を希求し、持続可能な社会の形成に貢献しようとする姿勢（地球市民性）

上記7つの資質・能力、マインドセットを「WWL7（セブン）」と称し、スクールポリシーにも取り入れている。WWL7と新学習指導要領における評価の3観点との相関は、以下のように図示される。

WWL7 新学習指導要領の3つの評価の柱との関連性



上記 WWL7 について生徒が自己評価できるよう、R2 年度にルーブリックを開発し、1～3 学期ごとに生徒の変容を測定している。変容の詳細は、第4章（評価）で記述する。

S 評価の「実現可能性」という文言については、運営指導委員から「実現可能性を重視するあまり、アイデアが縮小され創造力を伸ばせないことが考えられる」との意見を反映し、さらに改訂を図りたい。現行のルーブリックを次ページに記載する。

【WWL7ルーブリック】（※C評価は割愛）

			評価項目		
No	WWL 7 【学校設定目標】	定義	S（創造）	A（活用Ⅱ）	B（活用Ⅰ）
			『つくる』 知識・技能を生かし働かせ、 <u>根拠を伴って創造性のある思考や行動</u> ができる。	『ととのえる』 習得した知識・技能を活用して、 <u>根拠を伴った思考や行動</u> ができる。	『できる』 習得した知識・技能を活用して、 <u>思考や行動</u> ができる。
思考力・判断力・表現力	1	課題発見・解決力 主体的に課題に向き合い発見・解決する力	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性があり、他分野との関係性を踏まえた解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性のある解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>解決策</u> を考えることができる。
	2	創造力 学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	知識・技能を <u>生かし働かせ、妥当性があり、創造性のある発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を <u>活用</u> して、 <u>妥当性のある発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を <u>活用</u> して、 <u>自分なりの発想</u> ができる。
	3	情報分析・活用力 物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	物事を多様な視点で捉え、複数の情報を論理的に分析し、それらを <u>相互に関連付けて、自分の意見の根拠として使用</u> できる。	物事を多様な視点で捉え、複数の情報を論理的に分析し、 <u>自分の意見の根拠として使用</u> できる。	物事を客観的な視点で捉え、 <u>真偽を意識して読み取った情報を、自分の意見の参考として使用</u> できる。
	4	自己表現力 考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	表現において <u>対話を意識し、他者も自己も考えが深まるよう、自らの考えや意見を開かれた形で表現</u> することができる。	他者との違いを踏まえ、 <u>自らの考えや意見を相手に伝えるよう工夫して表現</u> することができる。	自らの考えや意見を相手に <u>伝えるよう工夫して表現</u> することができる。
学びに向かう力・人間性等	5	協働性 多様な人々と対話や議論を通じて協働する姿勢	他者の良さを取り入れながら、 <u>自己の良さを発揮し、協働的</u> な発言や行動ができる。	多様な考えを受け止め、 <u>自己の良さを発揮して、協働的</u> な発言や行動ができる。	他者の考えを受け止めたうえで、 <u>協働的な発言や行動</u> ができる。
	6	学ぶ意欲 学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢	学問を学ぶ意義や喜びに <u>目覚め、自分が将来学びたい学問分野とともに、幅広い教養を身に付ける取組</u> を続けることができる。	自分が将来学びたい学問分野を自覚し、主体的に <u>総合的な学力を身に付ける取組</u> を続けることができる。	自分の興味・関心と結びつきにくい内容であっても、 <u>主体性をもって学ぶ</u> ことができる。
	7	地球市民性 世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢	多様な人と <u>尊重し合う関係</u> を築くとともに、 <u>社会課題について関心を持ち、その解決について思索や行動する姿勢を維持</u> している。	多様な人と良好な関係を築くとともに、 <u>社会課題について関心を持ち、その解決について思索や行動する姿勢</u> がある。	自分と意見や考え方が似た人に加え、 <u>自分のコミュニティ（学級・家庭・地域社会）と良好な関係を築く</u> ことができる。

(3) アドバンスド・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク)

AL ネットワーク運営組織

管理機関である長崎県教育委員会(所管: 高校教育課)に AL ネットワーク運営組織を置き、県教育長を長とする。下のア～ウに挙げる拠点校・連携校の校長・実務責任者、協働機関の担当者をメンバーとして、AL ネットワークにおける計画等の作成、運営管理、情報収集・提供、目的の達成状況の評価・見直し等を行う。AL ネットワーク全体が、多様な分野や視点を融合させた高度な学びの機会を中学生・高校生に提供するため、各々の強みを生かした協働を行う。運営組織図は 7 ページに掲載する。

事業拠点校: 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校

併設型中高一貫校で、九州本土部の公立高校で唯一国際関係に関する学科を有し、平成 27 年度からスーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されている。九州のリーダー校として成果の共有と普及を目的とした「九州 SGH フォーラム」を開催し、多くの学校が参加する大規模な発表会の運営実績を有する。本事業では主に、連携校・協働機関と共に課題研究を実践し、文理の枠を超えたイノベーティブなグローバル人材育成を目指す教育課程の開発を行う。

事業連携校:

(ア) SSH 校: 長崎県立長崎西高等学校、長崎南高等学校、大村高等学校

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されている県立高校であり、本事業では拠点校と協働した文理融合型の人材育成や、探究型学習を推進する。具体的には、拠点校と合同で課題研究発表会を開催するとともに、高校生国際会議の企画・運営に参画する。

(イ) 中高一貫校: 長崎県立佐世保北中学校・高等学校、諫早高等学校・附属中学校

拠点校と同じく併設型中高一貫教育を行っており、国内外のトップ大学への進学等を目指した教員対象の研究会や生徒主体の研修会等を行う。特に中学校段階における探究型学習を協働して推進し、基盤となる課題設定力や情報収集・分析力等の早期の育成を目指す。

(ウ) 離島部の高校: 長崎県立対馬高等学校、壱岐高等学校

それぞれ韓国語を学ぶ学科や中国語と歴史学を学ぶコースが設置され、文科省「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」の調査研究校であった。遠隔システムを活用し、東アジア地域とのつながりを生かした研究や、都市部と離島の異なる視点からグローバル課題に取り組む探究型学習を拠点校と共同で進める。

(エ) 県外の高校: 広島市立舟入高等学校、広島女学院中学高等学校、静岡県立三島北高等学校、立命館宇治中学校・高等学校

被爆地である広島市の 2 校とは、拠点校とのこれまでの交流実績を生かし、共同で平和フィールドワーク等を行う。また、三島北高校及び立命館宇治高校は、WWL コンソーシアム構築支援事業の指定を受けており、国際会議等への相互参加や海外フィールドワーク等において協働し、拠点校同士の連携による AL ネットワークの更なる活性化を目指す。

(オ) 海外の学校： **SMK Taman Tun Aminah** (マレーシア)、**Visser't Hooft Lyceum** (オランダ)、**Tamanawis Secondary School** (カナダ)

海外修学旅行や海外フィールドワーク等において、拠点校との共同研究、ディスカッションやフォーラムの開催、現地での合同フィールドワーク及びその事前・事後学習を行う。

事業協働機関：

(大 学) 長崎大学、長崎県立大学、長崎純心大学、大阪府立大学現代システム科学域

(企業等) ハウステンボス、ジャパネットホールディングス、十八親和銀行、長崎新聞社、協和機電工業、九州教具、株式会社イシマル、**JICA** 九州、長崎日蘭協会、**NPO** 法人地域循環研究所、
にこにこ一般財団法人

高校生が多様で高度な学びに取り組むための環境整備に携わり、課題研究における専門的見地からの助言、国内外のフィールドワークへの支援、共同研究、意見交換等を行う。

その他の協力機関：

(大 学) 九州大学、大分大学、国際基督教大学、シンガポール国立大学、上海外国語大学 (中国)、釜山外国語大学校 (韓国)、ウィスコンシン州立大学・ミドルベリー国際大学院大学 (米国)、ライデン大学 (オランダ)

(その他) ベトナム国立衛生疫学研究所、**JICA** ベトナム、**WHO** (世界保健機関)、国連本部軍縮部 (米国)、ドイツ国際平和村

課題研究や国内外のフィールドワーク等における協働や支援、WEB 会議システムを活用した事前学習等への協力を行う。また、模擬国連や高校生国際会議の開催等に協力する。

【AL ネットワーク運営組織図】

管理機関（長崎県教育委員会）

AL ネットワーク事務局（高校教育課）

AL ネットワーク運営組織

委員会組織

区分		主な役割	海外連携校等	◎管理機関の管理の下、各委員会は以下の役割を果たす。
拠点校	長崎東中・高	イノベティブなグローバル人材育成研究に向けたカリキュラム開発	SMK Taman Tun Aminah Visser't Hooft Lyceum Tamanawis Secondary School	
				運営指導委員会 管理機関、拠点校、連携機関の取組への指導助言等
連携校	SSH 校	文理融合の人材育成研究		事業検証委員会 計画の遂行状況、ネットワーク全体の課題・成果等の分析
	中高一貫校	資質・能力の早期育成教育		
	壱岐高校	東アジア交流、中国文化研究	上海外国語大学	
	対馬高校	東アジア交流、韓国文化研究	釜山外国語大学校 釜慶大学校	
	県外高校	国際会議・FW の相互参加		
連携機関	長崎大学	高度な学びの研究		WWL 連絡協議会 共同課題研究・国際会議の実施
	他大学	課題研究における協働		
	企業等	課題研究における協働		

※「SSH 校」3 校、「他県の WWL 拠点校」2 校とは探究学習や探究発表会、国際会議の開催等において互いに協働するが、経費の使用や事業の成果については区別化を図ることを確認。

第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

(1) カリキュラム開発

①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)

高校1年生全員を対象に、令和2年度よりカリキュラムに位置づけて(1単位)実施している。フィールドワークやデータ分析等の探究スキルを育成することを目的に、大学教員・行政・企業の専門的視点を取り入れた実験や調査、外国人大学院生によるオンライン講義を実施した。

昨年度に引き続き、本年度も150以上の企業・行政機関および大学の専門家等とオンラインによる意見交換や講演会を実施した。IGRの評価については、本校独自のルーブリックに基づいて、中間発表会やクラス発表会でのプレゼンテーションや研究レポート等を中心に、複数の観点による点数化(パフォーマンス評価)を実施している。

【高1中間発表会 プレゼンテーションルーブリック】

段階 観点	5 優秀	3 良	1 もう一歩
メインメッセージ	①メインメッセージがしっかりと存在する(研究の意義と成果が伝わる) ②根拠が明確である(先行研究や根拠のある情報を踏まえている) ③論理的に説明されている(話の展開が自然である)	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
言語	①使っている言葉が的確である ②専門用語の解説など、聴衆にわかりやすい工夫がある ③割り当てられた時間をフルに使うことができる	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
話し方	①発表者全員の姿勢が良い ②発表者全員がジェスチャーを交えて話している ③発表者全員が原稿を見ることなく聴衆を見て話している ④発表者全員の声の大きさ・話し方が聞き取りやすい	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。
スライド	①イラストやグラフ等がうまく用いられてわかりやすい ②文字による情報をわかりやすく表示している ③引用元が各スライドに表示され、インターネットの情報以外に参考文献が示されている ④該当するSDGsがスライドで明記されている	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。

【高1研究レポートルーブリック】（※B評価未満やA+、B-等の欄は割愛）

IGR・総探 日本語レポートルーブリック 以下の観点をもとに評価します。				
項目	観 点	S	A（優秀）	B（基準）
1 テーマ設定の背景	①初めて読んだ人にも課題の背景がわかりやすく記述されている ②先行研究や先行調査等が初めて読んだ人にも理解しやすく記述されている ③事実と意見を混同せず、SDGsに関連して、論理的に記述されている ④オリジナリティ、発想、着眼点が優れている			
2 研究の目的方法	①本研究の意義が先行研究等と比較しながら、具体的に述べられている ②リサーチクエスチョンに対する答えを導くための方法が妥当で計画的になされている ③高校生が可能なレベルで妥当な実験・インタビュー・アンケートが行われている			
3 考察・結果	①事実と意見を混同せず、論理的に記述されている ②実験や調査結果から妥当な考察が導き出されている ③社会課題への解決のために問題を深く掘り下げることができている			
4 結論・課題	①論理の飛躍がなく、妥当な結論が導き出されている（失敗していても原因が指摘され、改善点が示されていればよい） ②具体的に実現可能なレベルで社会提言がなされている ※インターネットによる情報検索だけでなく、信頼のおける参考文献が示されている（ネットからの情報のみの場合は2点減点する）			

②時間割編成の工夫

IGRは金曜日の7校時に設定し、水曜日の6校時には「総合的な探究の時間（総探）」を時間割上組み込んだ。高校2年生の総探も水曜日の6校時に設定することで、学年を越えた取り組みを行うことが容易になり、高1と高2が同じプログラムを受講する機会を設けることができた。このことによって、高校2年生が高校1年生に助言を行ったり、学年の異なる教員が探究学習に関する意見交換を行ったり環境が整備された。

③教科と探究のつながり

教科と探究科目のつながりは、それぞれの分野で学んだこと（知識・技術・思考力など）を探究活動の中で生かすという点であることを確認し、国語、数学、地歴、理科、英語の教員から高校1・2年生を対象に講義をおこなった。生徒の感想では、日々の授業の中に探究活動の基盤となるヒントが多くあることに気づいた、との意見が多くみられた。

④探究ベーシック

カリキュラム・マネジメントの観点から、高校1年次の初期を中心に教科横断的かつ集中的に学習する期間を設定し、各教科・科目の特色や学習内容に応じて、SDGs等の課題研究に必要な知識や探究スキルについて学ばせることを目的としている。

本年度の実績は以下に掲載する。

教科	内容	関連するSDGs	実施日(期間)
国語	「羅生門」と湯浅誠「貧困は自己責任なのか」を読み、「羅生門」のテーマとなる「エゴイズム」を現代社会の視点で考える。また、その解決策について個人・グループで考え、内容をまとめる。	1・2・3・4 10・16	12月
数学	数学Ⅰ、A、Ⅱの応用問題において、協働して問題解決を図り、目標を達成するためのプロセスを経験する。	17	随時
化学基礎	"化学反応の量的関係と環境問題の考察 ①日本の天然ガス消費による二酸化炭素の排出量 ②二酸化炭素濃度の増加により炭酸カルシウムを骨格とする海の生物に与える影響"	13・14	7月下旬
歴史総合	1学期は「近代化と私たち」のなかで前近代社会後期から、国民国家の成立、帝国主義の展開期を学習する。2学期は「国際秩序の変化や大衆化と私たち」のなかで、第一次世界大戦・第二次世界をとおして、「近代」から「現代」への転換期を学習する。3学期は「グローバル化と私たち」のなかで現代社会の諸問題について学習する。全体を通して諸課題の発生から展開を歴史的に考察し、SDGsに関連づけての学習をおこなう。	全て	4～5月、 9～11月、 3月
地理総合	1学期は地形の成り立ちを学習する中で、特に火山の分布と地震発生のメカニズムについて理解を深める。2学期は気候の学習を通して、特に洪水や台風、高潮など自然災害発生のメカニズムを知り、1学期の学習内容と連動させて、総合的に世界の環境問題や日本の災害と防災・減災の取り組みについて理解を深める。3学期は農業について学習する中で、農業問題や食料問題の複雑化について理解し、その対策の困難さと解決に向けた糸口として、SDGsにみられるような国際的な取り組みが不可欠であることを理解する。	1・2・9・10・11・13・15・17	5月、 11月、 3月
情報	持続可能な開発目標に至るためのプロセスについて、解決のためのさまざまなツールやアルゴリズムについて学ぶ。また問題解決の過程で必要となる、調査・データ分析、プログラミングの最適な利用方法を体験する。	4・9・17	随時
家庭	持続可能な食生活～エコクッキングを取り入れた献立作成と調理～	2・3・12・13・14・15	7～9月
保健	感染症について(現代の感染症、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防)	3	4月
英語	<i>ELEMENT English Communication I Lesson 3 Contributing to Our Planet, Further Reading I Toward Sustainable Development Goals</i>	6, 7, 8, 11, 12, 14, 15	4～5月

⑤グローバル講演会 マゴソスクール主宰 早川千晶氏

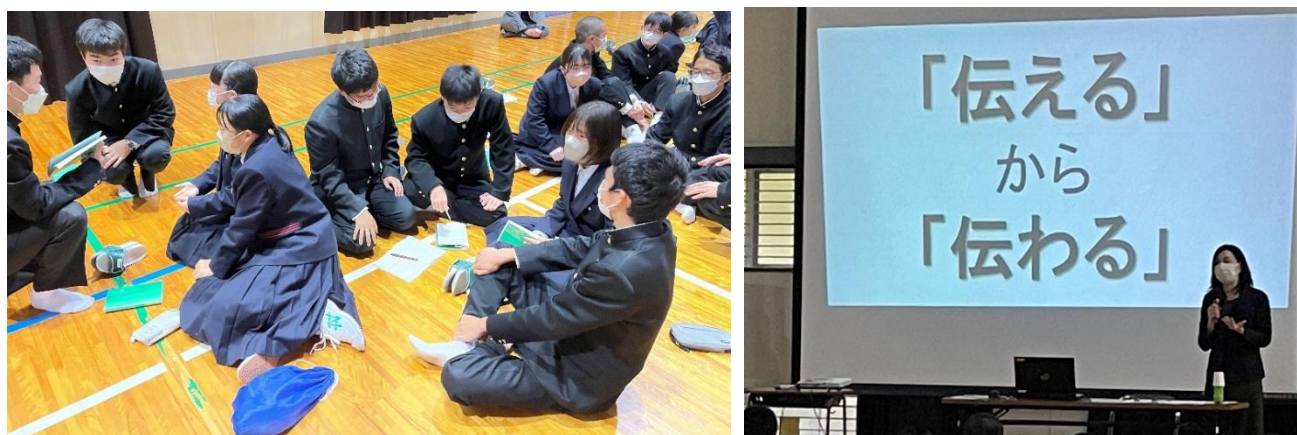
中学・高校の1年生を対象に、一人ひとりが世界平和を希求する精神と地球規模の課題を自分のものとして捉えSDGsを達成しようとする姿勢を養い、ケニアで国際支援の活動をされている方の話やアフリカの伝統音楽を聴き、異文化理解を深めることを目的として講演会。高校1年生の希望者には、講演会後に座談会を実施し、探究活動の一助となった。



⑥プレゼンテーション講座 長崎大学 大学教育イノベーションセンター 矢野香 准教授

探究内容を学術的にまとめる方法を学ぶことで、情報分析力や論理的思考力を養う一助とすることを目的とし、元NHK長崎放送局キャスターで長崎大学准教授矢野香先生にプレゼンテーションソフトを使った効果的な発表の方法の基礎を学んだ。

プレゼンテーションの基本の講義の後、実際に3つの班の発表スライドを使い、どのように修正すると効果的に伝わるのかを実践方式で学んだ。



【R4 年度 高校1 年 総探・IGR 実施時間】

期日	総合的な探究の時間（水6）	期日	IGR(金7)
4月13日	学習ガイダンス	4月21日	WWL/SDGs概論講義（東志行）
5月11日	教科と探究のつながり	4月22日	課題研究基礎演習（東志行）
5月18日	班発表、テーマ設定、問い立て	5月6日	ガイダンス+SDGs学習
6月22日	テーマ設定、問い立て（FW計画書作成）	5月13日	SDGs学習+班分け
6月29日	探究チャンネル（オンライン講演会）	5月20日	長崎大学 山口純哉先生 基調講演
7月6日	マゴソスクール主宰 早川千晶さん グローバル講演会	6月10日	テーマ設定、問い立て（FW計画書作成）
7月13日	テーマ発表会	6月17日	テーマ設定、問い立て（FW計画書作成）
7月27日	第1回FW（～7月29日）	7月15日	文献調査・FW準備
8月24日	第1回FWふりかえり	9月16日	発表準備、第2回FW準備
9月28日	発表準備、第2回FW準備	10月7日	クラス内発表会
10月5日	発表準備、第2回FW準備	10月14日	第2回FW準備
10月12日	クラス内発表会ふりかえり、第2回FW準備	10月21日	第2回FW準備
10月19日	第2回FW準備	11月9日	第2回FW（～11月10日まで）
10月26日	第2回FW準備	11月11日	第2回FWふりかえり
11月2日	第2回FW準備	12月2日	SDGS別WWL探究中間発表会準備/レポート作成
11月30日	長崎大学 矢野香先生 プレゼンテーション講座	12月9日	SDGS別WWL探究中間発表会準備/レポート作成
12月7日	SDGS別WWL探究中間発表会準備/レポート作成	12月16日	SDGS別WWL探究中間発表会準備/レポート作成
12月14日	SDGS別WWL探究中間発表会準備/レポート作成	12月19日	SDGS別WWL探究中間発表会
12月21日	SDGS別WWL探究中間発表会ふりかえり	1月13日	クラス内発表会準備/レポート作成
1月18日	クラス内発表会準備/レポート作成	1月20日	クラス内発表会準備/レポート作成
1月25日	クラス内発表会準備/レポート作成	1月27日	「梅屋庄吉と孫文」講演会
2月8日	クラス内発表会	2月3日	クラス内発表会準備/レポート提出
2月15日	クラス内発表会およびふりかえり	2月24日	WWL探究発表会にむけて
2月22日	WWL探究発表会にむけて	3月10日	WWL探究発表会にむけて
3月15日	WWL探究発表会にむけて	3月17日	WWL探究発表会にむけて
3月22日	WWL探究発表会		

⑦中国語の開設（２単位）

拠点校では令和３年度より高校２年生を対象に、選択科目として週２単位「中国語」の授業を開設し、中国語の基礎学習を行っている。令和４年度は長崎外国語大学講師により授業を行った。また、中国語選択者に対し下記の取組を行い、中国語とともに中国文化に親しむ教養的な学びを推進した。

日中国交正常化 50 周年記念事業「身近な中国を探す旅」

令和４年度は日中国交正常化 50 周年を記念し、在長崎中華人民共和国総領事館の主催で、６月から 10 月にかけて中国語を選択した高校２年生 10 名と高校２年生の希望者 10 名の計 20 名を対象に日中国交正常化 50 周年記念事業「身近な中国を探す旅」の各種取り組みを行った。本事業の目的は以下のとおりである。

長崎県が中日友好を積極的に推進する歴史を振り返り、中日友好事業に貢献した先人に敬意を表し、友好の絆が双方共通の宝物であることを両国民に認識してもらうため。

また青少年をはじめ、より多くの人を中日友好事業の輪に加え、一体となって新時代にふさわしい中日関係を構築することを促す。（在長崎中華人民共和国総領事館作成）

事業内容について、実施日とともに下記に記す。

６月 10 日に、張大興（ちょうだいこう）氏（在長崎中華人民共和国総領事）を本校に招き、本校生徒との交流会を行った。生徒は英語で学校紹介のプレゼンテーションを行い、その後の懇談で総領事と親交を深めた。



↑ 学校紹介を行う生徒



↑ 張大興氏による講評

９月 15 日に、「身近な中国を探す旅」研修旅行が行われ、高校２年生中国語選択者と高校２年生希望者の計 19 名が参加した。研修旅行では長崎市内にある中国と関連する史跡を巡検し、ガイドから長崎市内にある中国文化について学んだ。次頁に「身近な中国を探す旅」研修旅行の実施要項を記す。

日中国交正常化50周年記念事業「身近な中国を探す旅」実施要項

- | | |
|--------|--|
| 1. 目 的 | 長崎と中華人民共和国との友好交流の歴史を、フィールドワークを通して学び、日中友好交流の機会とし、今後の学習に活かすため。 |
| 2. 主 催 | 在長崎中国総領事館 |
| 3. 実施日 | 令和4年9月15日（木） 8：40～18：30 |
| 4. 対 象 | 生徒 20名、参加教員 4名
(柏井智志、鳥居正洋、Matthew D Vespestad、呉青青) |
| 5. 時 程 | |

8 : 4 0		集合（長崎東高ピロティ）
※全て貸し切りバスで移動（呉青青先生は福済寺で合流）		
9 : 2 0	～ 9 : 3 0	（1 0） 福済寺
9 : 4 0	～ 1 0 : 1 0	（3 0） 聖福寺
1 0 : 2 0	～ 1 1 : 0 5	（4 5） 興福寺
1 1 : 2 0	～ 1 2 : 0 5	（4 5） 崇福寺
1 2 : 2 0	～ 1 3 : 2 0	（6 0） 昼食（長崎新地中華街 京華園）
1 3 : 3 0	～ 1 4 : 1 5	（4 5） 唐人屋敷跡地
1 4 : 3 0	～ 1 5 : 3 0	（6 0） 長崎孔子廟
1 5 : 4 0	～ 1 6 : 2 0	（4 0） 孫文梅屋庄吉ミュージアム
1 7 : 0 0	～ 1 8 : 3 0	（9 0） 夕食（卓袱浜勝）
解散		

生徒からは「自分が知らないうちに、意識していないうちに中国の歴史に触れていたことがわかった」「長崎の文化は、中国の文化と融合しながら発展していることがわかった」などの感想が見られ、生徒が長崎と中国の文化について深く学ぶことができる貴重な機会となった。



↑ 媽祖堂でガイド説明を聴く生徒

↑ 中国伝統芸能の変面を観覧

↑孔子廟を巡検する生徒

10月19日に、張大興氏を再び本校に招き、研修旅行の報告会を行った。研修旅行の詳細をプレゼンテーションにまとめて英語や中国語で発表し、張氏からは、プレゼンテーションの講評と、長崎と中国の友好の歴史についての講演をいただいた。報告会の最後には日中友好の歴史に関するクイズ大会が行われ、生徒も楽しみながら深く学ぶことができた。



↑ 研修旅行で学んだことを発表



↑ 張大興氏の講演の様子

10月26日に、「日中高校生交流会」と題し、本校生徒と中国福建省泉州市にある培元中学校（日本では高等学校にあたる）の3年生との交流会を実施した。両校校長による挨拶から始まり、中国語や日本語で互いの学校紹介や両国の文化の紹介、質疑応答等を行った。また、培元中学校による伝統楽器の演奏と書道の実践発表を鑑賞した。その後の対話では、本校生徒と培元中学校の生徒は料理やアニメの話などで友好を深めた。次頁に実施要項を記す。



↑ 本校の学校紹介を行う生徒



↑ 培元中学校の生徒との交流の様子

泉州培元高校・長崎県立長崎東高校 生徒交流会 実施要項

1. 日 程 2022 年 10 月 26 日（水）15：00～16：20（中国時間 14：00～15：20）

2. 場 所 視聴覚室

3. 実施方法 オンライン（Zoom）

4. 参 加 者 泉州培元高校 校長 蔡向陽（さいこうよう）
 共産党培元高校支部書記 郭国金（かくこっきん）
 副校長 曾建聡（そけんそう）
 日本語担当 呂達珊、日本語履修高 3 生徒（12 名）
 長崎東高校 校長 鶴田 栄次、副校長 辻俊郎、教頭 久保田幸成
 WWL 推進室 鳥居 正洋
 参加生徒（20 名）2123 萩原寧彩 2506 大山夏姫
 2603 一丸詩織 2609 大坪樹実
 2611 門優帆 2618 谷口愛衣
 2619 谷口若菜 2621 土井絢翔
 2623 中川小雪 2626 廣田風香
 2627 藤永希依 2631 三縄由宇
 2637 森山和夏 2705 奥村優里奈
 2714 田坂桜 2716 田中湖夏
 2718 豊島千咲 2730 東嶋華子
 2731 堀江一花 2736 溝口理子

5. 時 程 進行…培元高校：呂達珊（日本語） 長崎東高校：鳥居正洋（日本語）

15：00～15：10	学校長挨拶（10 分間） ①培元高校校長（中国語→日本語）②長崎東高校校長（日本語→中国語）
15：10～15：30	培元高校プレゼンテーション（20 分間） ①泉州の紹介（観光地・地元料理）②学校紹介（学校での生活、授業の様子等）
15：30～15：50	長崎東高校プレゼンテーション（20 分間） ①長崎の中国文化の紹介 ②学校紹介（学校での生活、授業の様子等）
15：50～16：05	質疑応答（15 分間）
16：05～16：15	各校プレゼンテーションⅡ（10 分間） ①文化披露（培元高校）②国際会議説明（長崎東）
16：15～16：20	写真撮影

※使用言語はすべて日本語か中国語

Nagasaki Higashi

World-Wide Report

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなG人材の育成



2022年度 第14号

November 30, 2022

日中国交正常化50周年記念事業を実施しました！

6月から10月にかけて、『日中国交正常化50周年記念事業』の各種取組に、高2の中国語選択者をはじめとした生徒20名が取り組みました。

6月10日（金）に本校に中国駐長崎総領事の張大興様が来校され交流会を開催しました。学校紹介を英語で行うなどして、交流を深めました。

9月15日（木）には、「身近な中国を探す旅」と題し、長崎市内にある中国と関連する史跡を巡検しました。崇福寺や孔子廟、梅屋庄吉ミュージアムなどを巡りました。生徒からは「自分が知らないうちに、意識していないうちに中国の歴史に触れていたことがわかった」「長崎の文化は、中国の文化と融合しながら発展していることがわかった」などの感想があり、生徒は楽しみながら深く学びました。



↑ 媽祖堂でガイドの説明に聴き入る生徒



↑ 巡検内容を総領事にプレゼンテーション

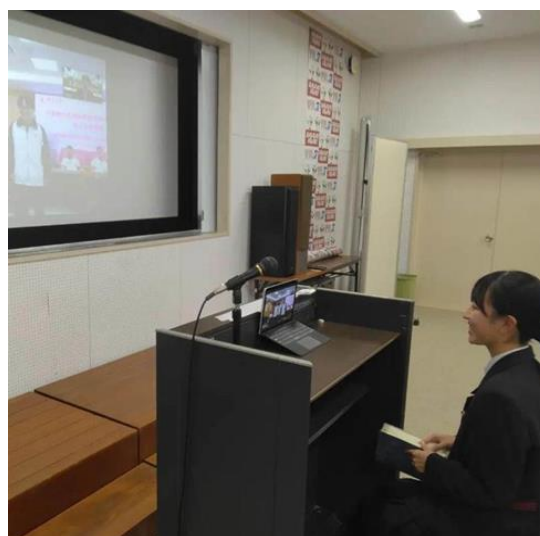
10月19日（水）には、長崎市内の中国文化について学んだ内容をスライドにまとめ、本校に再びご来校いただいた張大興様にプレゼンテーションを行いました。

詳細な内容について英語や中国語で伝え、好評をいただくことができました。また、張様からは、長崎と中国の友好交流の歴史についてご講演をいただき、学びをさらに深めることができました。最後に日中友好の歴史に関するクイズ大会が行われ、生徒全員が正解することができました。楽しく充実した時間となりました。

そして10月26日（水）には、「日中高校生交流会」と題し、中国福建省泉州市にある培元中学校（日本では高等学校にあたる）の3年生との交流会を実施しました。

両校の校長の挨拶に始まり、中国語や日本語で互いの学校紹介や両国の文化の紹介、質疑応答等を行って友好を深めました。対話では料理やアニメの話などで盛り上がり、国は違っても同じ高校生同士、笑顔で対話が進みました。

また、培元中学校による伝統楽器の演奏と書道の実践発表を拝見し、感動しました。本校は次年度7月に本校主催で開催する高校生国際平和会議について説明しました。これからも両校の交流を続けていくことを約束し、友好的な未来に向けた、希望に満ちた時間となりました。事業全体を通して、生徒たちは大きく成長することができました。



↑ 中国の高校生と笑顔で対話がはずむ

⑧高度な課題研究を実施するための基盤整備

【プラネタリーヘルス・WWL基調講演、高大連携講座】（5月）

課題研究でテーマを設定するための視点や、学術的な研究にふれることを目的に、事業協働機関である長崎大学の協力の下、5月に実施した。詳細は、WWL 事業成果普及のために学校ホームページに掲載し、保護者へ配布している学校情報誌「ワールド・ワイド・レポート」にまとめた。（次項）

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブな G人材の育成

「プラネタリーヘルス・WWL基調講演会」を実施しました！

5月20日（金）7校時、高校1年生を対象とした、長崎大学経済学部山口純哉准教授による標記講演会を実施しました。視聴覚室での対面による講演（各クラス6名）とTeamsによる各教室へのオンライン配信を行いました。

講演ではまず、山口先生が取り組んでこられた諸問題、特に震災からの復興や地域創生、ボランティア活動のあり方等についてのお話がありました。課題解決のプロセスや、課題解決にあたっての姿勢についてのお話は、今後テーマを決定し探究をすすめていく生徒たちにとって、大いに参考になるものでした。また、地域社会を取り巻く潮流と長崎が抱える諸問題についてお話いただきました。人口減少・少子高齢社会、グローバル化に伴う価値観の変化、頻発する自然災害など、多くの問題を抱えていることに改めて気づかされました。さらにはポストコロナの時代に地域社会が目指すべき方向性についてのお話では、新たな視点をいただき、考えを深めることができました。

講演後には、生徒からの質問に遅い時間まで熱心にお答えいただきました。生徒からは「これからの探究活動が楽しみになった」「さらに意欲的に取り組めると思う」といった声がたくさん聞かれ、大変有意義な講演会となりました。山口先生、お忙しい中本当にありがとうございました。



生徒の感想より



・実際に社会の問題を解決されている山口先生のお話は、とても貴重で興味深いものでした。特に印象に残ったのは、同感・共感を源泉とする社会性が必要であるということです。この考え方をこれからの学校生活や探究活動で生かし、さらに考えを深めたいと思いました。

・今回の講演会を通して最も印象に残ったのは、物事を多角的に見る重要性です。例えば、大型商業施設の建設と町の関係。商業施設を経営する会社側から見れば、事業の拡大は「正解」ですが、町全体から見たときは商店街の活気を考えると、必ずしも「正解」とは言えません。今回、山口先生には主に長崎についてのお話をいただきました。そして長崎という限定された地域だけでも「正解」が交錯している状況があるとわかりました。これから始まる探究活動においても、「正解」を様々な角度から検証していきたいです。

【ワールド・ワイド・チャンネル（WWLハイブリッド講演会）】（6月）

6月29日に高校1・2年生全員を対象に、WWL 協働機関・連携機関を中心に、以下のとおりオンラインによる講演会を実施した。生徒は希望する講座に2つ参加し、SDGsの複数の視点や文理を融合した学びを経験した。

1	目的	・社会の第一線で活躍する方々や大学の先生方の講演を拝聴し、探究活動の深化を図る。 ・WWL拠点校として県内外高校への教育事業の普及を担い、広く教育の発展に資する。
2	日時	令和4年6月29日（水）①14：15～15：05、②15：25～16：15
3	形式	対面およびオンライン（Teams または zoom）
4	対象	高校1年生（269名）、高校2年生（278名）
5	講師	講師および講師のプロフィールは以下のとおり

No	機関・講師名 ※実施形態	所属企業・組織、プロフィール等
1	信吉正治 先生 ※対面 ★国際会議実行委員会基調講演	NPO国際医療団体 Red Wood Japan 理事 熱帯医学研究所内科医。2013年から <u>アフリカ医療活動</u> に従事。現在はコートジボワールとベナンの医療施設、様々なNPOと連携し、マラウィ国内に医療ネットワークをつくるプロジェクトを行っている。特に、遠隔へき地や都市のスラム地区を中心に医療活動を行っており、年々規模は拡大。2019年のコートジボワールの検診では、4日間で10,400人が集まり、現地も含め7カ国から51名の医療ボランティアが結集した。まさに <u>国際医療の第一線で活躍</u> している。
2	外国人留学生 ★英語です 40名限定 ※対面	長崎大学医歯薬学総合研究科リーディング大学院に在籍する外国人留学生 テーマは「 <u>感染症</u> 」。大雨や地震などの自然災害がなぜ感染症のリスクを増加させるのかについて説明。次に小グループに分かれ、ノロウイルスとCOVID-19に関して、症状や予防方法についての解説、質疑応答。 <u>ガーナ、ケニア、コンゴ、ナイジェリア、ベトナム、中国、ホンジュラスの留学生</u> を予定。
3	小林将也 先生 ※対面	協和機電工業株式会社 海外事業部 海外事業推進部門・部門長 協和機電は <u>ベトナムでの水質改善、イラクや中国での地域支援、五島での災害避難用太陽光発電、潮流発電</u> など国内外で活躍する長崎が誇るSDGs企業。小林様は長崎大学環境科学部大学院卒。浄水場などの装置設計に従事した後、 <u>中国（広東省深セン市）、インドネシア、マレーシア、ベトナムなど1年の半分程度が海外勤務</u> 。ベトナムのホーチミンでは新型コロナによるロックダウンも経験した。2021年に帰国し、現在は <u>海外事業のプロジェクト形成</u> などの業務に従事している。

4	豊澤健太 先生 ※オンライン	地域循環研究所 地域循環研究所は、<u>漂着ゴミやプラスチックゴミ、堆肥、発電、環境改善の方策について環境教育を実践</u>している。豊澤先生は福岡の短大を卒業後、長崎大学環境科学部、大学院を修了。東京の農林水産省外郭団体へ就職後、震災を機に長崎へ戻る。2011 年より佐世保市の行政施設で環境教育事業に従事。2016 年より佐世保市地球温暖化防止活動推進センターの主任研究員。2020 年より長崎県中山間地域ボランティア支援センター、センター長として、<u>農山村の活性化事業</u>に取り組んでいる。
5	Ta Son 会長 Phan The Dung 社長 ※オンライン	R i k k e i s o f t <u>ベトナムから日本に留学した学生やハノイ工科大学での学友を中心として起業した R i k k e i S o f t</u>の会長、もしくは社長からのオンライン講演会。立命館大学への留学時に感じた国力が強いとどのような利点があるのか、その後<u>ベトナムと日本をつなげて起業したきっかけや国をまたいで働くこと</u>などを中心にご講演をいただく。
6	戸崎千尋 先生 ※対面	JICA 長崎デスク 国際協力推進員 川棚町出身。大学卒業後、介護福祉士として約 8 年間、病院や市役所にて勤務。2017 年 1 月から 2019 年 1 月までの 2 年間<u>青年海外協力隊(現:JICA 海外協力隊)</u>としてスリランカに派遣される。職種は「高齢者介護」。現地では、老人会や高齢者施設を巡回し、健康についてのワークショップや体操・レクリエーションなど活動。 帰国後は、一時高齢者施設にて勤務する。2020 年 4 月より、国際協力推進員として出島交流会館にて勤務。現在は、JICA 海外協力隊の応募相談や、県内教育機関での出前講座、待機・帰国隊員のサポート、国際交流イベントの開催などを主に行う。
7	坂井健 先生 ※オンライン	NPO 法人 e-Education 大学 3 年時、人生初めての海外旅行でカンボジアへ行き、 とある少年との出会いから海外の教育に興味を持つ。その後、大学を休学して<u>貧困状態にある子どもたちに最高の授業を届ける e-Education プロジェクトのインドネシア事業立ち上げに 2 年間従事</u>。卒業後は株式会社ベネッセコーポレーションに入社。長崎県の学校担当として従事する傍らフィリピン海外進出プロジェクトや新規事業立案プロジェクト等に参画。その後、NPO 法人 e-Education フィリピンカンントリーマネージャーとして転職。2020 年 4 月に 29 歳で同法人最年少にて副代表に就任。

8	白石章二 先生 ※オンライン	ヤマハ発動機株式会社 フェロー 技術・研究本部 NV推進担当 大学卒業後、外資系戦略コンサルティング会社で20年勤務、後半10年は製造業担当パートナーとしてクライアントの新規事業・イノベーション戦略を支援。2007年友人のITコンサルティング会社に資本参加し、総合コンサルティング会社へ衣がえ、みずから共同代表に就任、2010年自ら戦略コンサルティング会社を起業、複数の事業会社マネジメントを歴任。2014年からPwCコンサルティング合同会社戦略コンサルティングチーム自動車エネルギー製造業担当パートナーを経て、2018年1月ヤマハ発動機株式会社入社。2019年フェローに就任。 <u>ヤマハ発動機グループにおける新事業とベンチャー投資を統括</u> 。2021年より技術・研究本部フェロー NV 事業推進担当。同年、 <u>インド バンガロールに Moto Business Service India Pvt. Ltd を設立</u> 、Managing Director に就任。カリフォルニア大学バークレー校MBA。
---	-------------------	--

【クリエイティブ・スタディー・ウィーク】（7～8月）

能力や興味・関心に応じて大学を訪問し、高度な学びに取り組めるよう、総合的な探究の時間とともに高校1年生は IGR、高校2年生は E-time の時間を組み込んで、教育課程や時間割編成上の工夫を行った。また、長期休業期間を中心に生徒が個々の興味・関心や研究テーマに応じて、下記のような自由な学びに取り組むための期間「Creative Study Week」を新たに設けた。

これらの自主的な取組については、本校の「グローバルマインド育成プラン」により、35単位時間以上で「学校外における学修に係る単位」として認定する仕組みを SGH 指定時より運用している。

- ①大学等における公開講座の受講やゼミ等への参加
- ②海外への短期留学やイベント等への参加
- ③課題研究等に関連したボランティア活動
- ④個人やグループで企画するフィールドワーク
- ⑤論文等の執筆活動
- ⑥その他生徒自身がキャリア形成や課題研究に役立つと考える活動

なお、本年度は連携機関である九州大学が主催する「未来創生科学者プロジェクト」に高校2年生が8名参加するとともに、京都大学が主催する「第3期京都大学 SDGs リーダー育成プログラム」に高校1年生が5名参加した。

【フィールドワーク週間・フィールドワークデー】（7・11月）

生徒は課題研究に必要なフィールドワークを、前述の「IGR」「総探」「Eタイム」を利用し、主体的に実施しているが、年に2度学校行事としてフィールドワークの日を設定している。7月には長崎市内のフィールドワークを、11月には離島を含む県内フィールドワークを実施している。様々な場所へ出向き、現地で専門家の話を聞き、実地調査をするなどして研究を進めている。昨年度、今年度はオンラインでのインタビューも実施しており、校内の学習環境から県内外の講師と意見交換を行っている。特に7月については前述の「クリエイティブ・スタディ・ウィーク」と位置づけ、3日間の授業日を充当している。11月に関しては、近隣地区のフィールドワークには1日、離島地区の実地調査には2日間の授業日を充当している。対馬フィールドワークでは、連携校である対馬高校の生徒とそれぞれの研究における意見交換や質疑応答を実施した。

《高校1・2年生の主なフィールドワーク先（一部）》

期日	フィールドワーク先（一部）
7/27 ～ 7/29	○別府市…NPO 法人 Beautiful World、大分市役所防災危機管理課 ○五島市…五島漁業協同組合、養鶏農家、五島市役所、五島中央病院 ○対馬市…対馬市役所、対馬高校、椎茸栽培農家、対馬 CAPPA 、翔栄
11/9 ～ 11/10	○佐世保市…長崎国際大学人間社会学部（城前奈美先生）、森きさら ○大村市…大村市役所、地域子育て支援センター、ミライ on 図書館、長崎県教育センター ○諫早市…諫早東特別支援学校、鎮西学院大学、創成館高等学校 ○雲仙市…雲仙きのこ本舗 ○時津町…子ども食堂はこべら ○長崎市…長崎大学 RECNA（広瀬訓先生）・工学部（工藤健先生）・経済学部（山口純哉先生）、水産・環境科学総合研究科（山口真弘先生）、長崎大学熱帯医学研究所、長崎県庁（地域づくり推進課・観光振興課・都市政策課）、長崎市役所（子ども政策課・長崎創生推進室）、長崎大学病院、長崎大学附属特別支援学校、長崎純心大学（中国人留学生）、活水高校、上長崎小学校、城山小学校、桜町小学校、地域循環研究所、協和機電工業、JICA 長崎、長崎総合水産試験場、資生堂、長崎市立図書館、つくるのわ、IC ネット株式会社、たけがわ犬猫病院、住友林業長崎営業所、福田こども食堂、長崎市西工場、こどもサロン竹とんぼ 等

(2)「総合的な探究の時間」における研究開発

①中学校の取組

併設する中学校における探究学習プログラムについて、各学年の取り組みの内容を以下に記載する。

【中1】(中2・中3との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
1	総合学習 (平和FW)	1学期 5/10(火)	長崎の原爆被害や平和活動について調べ、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、プレゼンテーションや意見交換を行った。
1	総合学習 (職業研究)	2学期	身近な人に働くことについてインタビューし、興味をもった職業について仕事内容やその職業に就く方法等を調べ、レポートにまとめた。
1	総合学習 (新書レビュー)	2学期 ～ 3学期	興味のあるテーマに関する新書を読み、書評を作成し発表した。
1	グローバル講演会	7/6 (水)	「アフリカを身近に感じよう (アフリカトーク&ライブ)」 ケニア マゴススクール主宰 早川千晶 氏 ミュージシャン インゴマ奏者 大西匡哉 氏 目的： ①一人ひとりが世界平和を希求する精神と地球規模の課題を自分のものとして捉え SDGs を達成しようとする姿勢を養う。 ②ケニアで国際支援の活動をされている方の話やアフリカの伝統音楽を聴き、異文化理解を深める。 ケニアのキベラスラムに住む子どもたちについて話を聞き、アフリカの伝統音楽ライブを楽しんだ。
1	イングリッシュデー	10/26 (水) 4～6校時	本校 ALT 2名と市内5名の ALT を招聘して実施 目的： ①日頃の英語学習を活かし、英語で活動することの喜びを経験する。 ②ALTとの活動を通し、異文化理解を深める。 小グループに分かれ、ALT と一緒にゲームやクイズを楽しみながら英語で活動した。
1	職業講話	10/27 (水) 5～6校時	「長崎県内の職業を知ろう」 目的： ①長崎県内にある企業の方から直接話を聞くことで、働くことの意義、何のために働くのかなどについて考える。 ②複数の企業の話聞くことで、様々な職業観を知り、今後の進路計画の基礎を身につける。

			③企業の方とふれあうだけではなく、事前・事後学習を行うことで、主体的に自分の将来について考える姿勢を育む。 県内の企業や公的機関 15 社から講師を招聘し、企業の紹介や生徒からの質疑応答に答えいただいた。
全	英語発表会	12/12 (月) 5～6 校時	目的： ①英語表現への関心を深め、英語で発表することの喜びを経験する。 ②英語で自分の考えを効果的に伝えるコミュニケーション能力を育成する。 ③授業を通して学んだ異文化の奥深さと多様性を理解し、効果的に伝える。 プログラム：・海外研修発表：全学年 ・ビブリオバトル：全学年 ・スキット：1 学年 ・レシテーション：2 学年 ・プレゼンテーション：2 学年・3 学年 ・スピーチ：3 学年
全	「梅屋庄吉と孫文」講演会 (オンライン)	1/27 (金) 6 校時	目的：郷土の偉人である梅屋庄吉と孫文の友情について理解するとともに、国際感覚を持った人材育成の一助とする。 講師：小坂文乃 氏（梅屋庄吉曾孫）
1 ・ 2	JICA 出前講座	3/22 (水) 3・4 校時	「世界がもし 100 人の村だったら」ワークショップ 目的：世界には多様な言語や文化を持つ人々が様々な環境の中で生活しており、貧富の差や解決すべき多くの問題があることを体験的に学ぶ。 講師：小田智子 氏（JICA デスク長崎 国際協力推進員）

【中 1 平和 F W 生徒感想】

- 私たちが今どれだけ平和な世界に生まれてきたのかが分かりました。今、ロシアとウクライナの戦争によって悲しい世の中になってしまっていますが、またいつも通りの生活に戻ることを祈っています。
- より詳しくより深く「平和」について学べた。世界で唯一の被爆国であることをいかして、「平和の尊さ」と「戦争の悲惨さ」を伝えていきたいという思いが強くなった。調べたことを活用して新聞づくりをしていきたい。
- 何回も資料館に行ったことがあったが、追悼平和祈念会館や原爆資料館でたくさんのことを教えてもらおうと、より戦争の悲惨さ、やってはいけないということを深く考えることができた。話でしか聞いたことがなかった 1 本柱鳥居、クスの木、門を見に行くと、想像よりも悲惨で驚いた。改めて、やはり戦争は辛くて悲惨で悲しいもの、絶対にやらないよう私たちが広めていくことが大切なのだと思います。



↑ 平和フィールドワークの様子



↑ 資料館での説明

【中1 新書レビュー生徒感想】

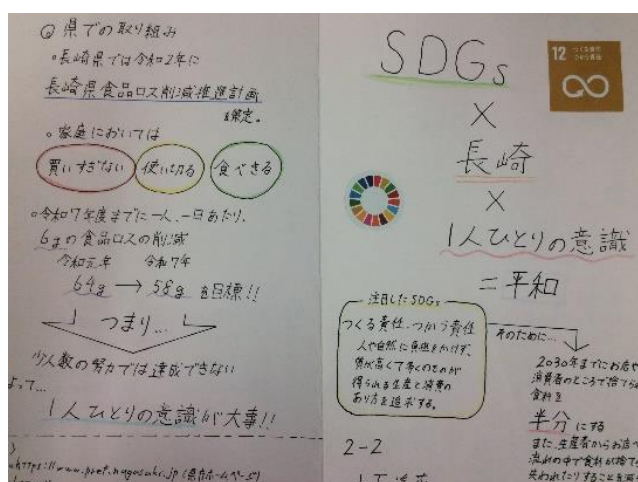
○あまり読む機会がない新書を読んで、たくさんの考えた方があって面白いと思いました。筆者の考えと自分の考えが違ったり、クラスの人の中でも考えが分かれたりして、新書を読むのは楽しかったです。

○私は新書レビューをして自分が今まで読んできた本や過ごしてきた生活が偏っていたと感じた。新書選びをするにあたって何冊か新書を読んだが、自分が今までしてきたことへの疑問や自分の生活している環境が恵まれていることを知ることができたと思う。また、今までにはなかった視点を知ることができた。

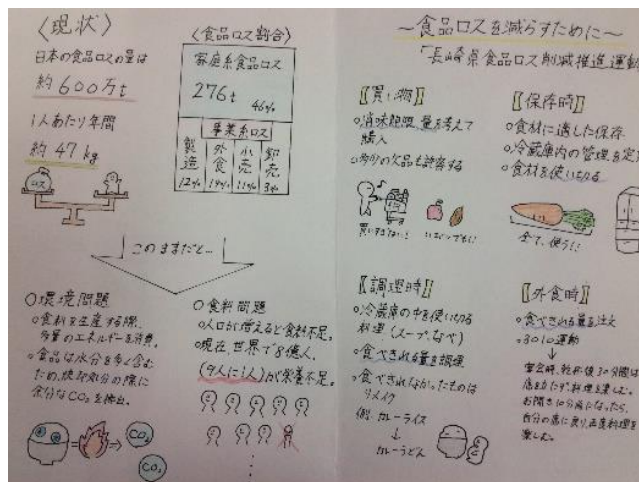
○私は新書のような説明文の本を自分から読んだことがあまりなかったため、小説とはまた違う面白さを感じ取れるいい機会になったと思います。文章を本文から引用したり、わかりやすいような説明を自分で考えてみたりすることができて楽しかったです。他の人のレビューを読むことで興味が出てきた本がいくつもあったので、図書室に行って探してみようと思います。

【中2】

学年	取組	実施日	実施内容
2	総合学習 (SDGs × 長崎 × ○○ = 平和)	1 学期	自分が考える平和(戦争・原爆だけでなく、身近な平和も含む)が SDGs の 17 項目のどれにつながるのかを考え、実際に長崎の特徴や良さを生かして、長崎で(長崎に関連するもので)行われていること、解決できることについて探究し、リーフレットを作成した。また、平和集会で調べたことを発表した。
2	総合学習 (好きなこと と探究)	2 学期 ～ 3 学期	自分が興味のあることを活かして、長崎の諸問題の解決に向けて考えを深め、プレゼンテーションを実施した。



↑ 平和 (SDGs リーフレット)



↑ フードロス (SDGs リーフレット)

【中2好きなこと探究生徒感想】

- 長崎のことについて知る機会になったから良かった。知れば知るほど楽しくなるのが探究の良いところだと思った。
- とても面白く、楽しかった。ほかの人の発表を聞いて気付くことや、自分の課題と組み合わせたらもっと深く探究できるのではと思う課題もいくつかあった。
- 長崎にはまだ多くの課題が残っていることを実感した。また、探究活動は自分の考えを資料とともに深めることができるのでとてもいいと思った。探究活動を行う際は様々な視点から考え、視野を広く持つことが大切だと感じた。

【中3】

学年	取組	実施日	実施内容
3	総合学習 (平和学習・ポスターセッション)	1学期	「継」をテーマに、過去にあった戦争や紛争、現在進行中の戦争、平和推進のために活躍した人、未来に向けて自分たちに何ができるかなどについてグループに分かれて調べ、自分たちの考えも含めポスターセッションの形で学年内と中学全体の平和学習日に発表した。
3	総合学習 (探究)	2学期 ～ 3学期	「()×SDGs=()」として、自分の興味がある事柄とSDGs17項目のいずれかを関連付けて課題設定をした。探究活動の進め方についての講義を1時間受け、その後実験やアンケート調査、調べ学習をしながら、各自PCで論文をまとめた。クラス発表後、各クラスの代表2名が学年発表に進み、さらに学年から3名が代表として、長崎県の県立中3校合同の卒業論文発表会で発表した。
3	県立中3校 合同卒業論文発表会	3/2	長崎県に3校ある県立中学校、諫早附属中学校、佐世保北中学校と本校が合同でTeamsを用いて発表会を実施。初の開催である今年度は佐世保北中学校が担当校として司会も生徒が担当し、各校からそれぞれ

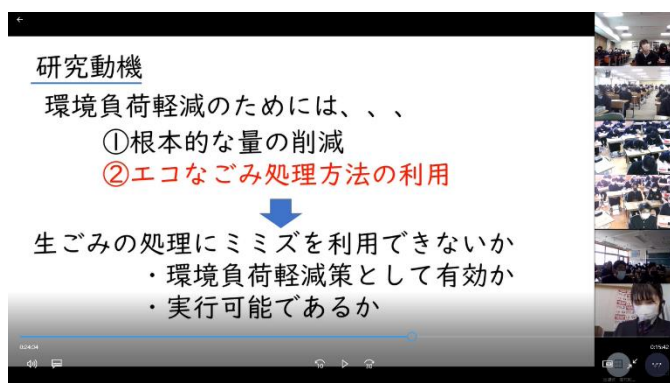
		3名ずつが発表した。地域に関するものなど、様々なトピックの発表があり、質疑応答も充実しており、時間をオーバーするほどであった。生徒たちはさらに視野を広げることができ、充実した会となった。今回の発表会をもとに、より改善して次年度につなげたい。
--	--	---



↑ 平和集会時の発表の様子



↑ 合同発表会での様子



↑ 発表画面（オンライン）

②高校1年生の取組

高校1年生の主な取組は第2章（1）カリキュラム開発の各項目で記載している。本項では、総合的な探究の時間・IGR、および7月と11月のフィールドワークを中心に実施した探究学習の研究テーマと、7月、10月、12月、3月に実施した発表会について記す。

【研究テーマ一覧】

組	班	研究テーマ
1組	A	発展途上国の防災教育
	B	小学校高学年への平和観の多様性を考える授業について
	C	長崎の離島における医療不足の改善
	D	ヒートアイランド現象について
	E	廃油石鹸を作る
	F	放置竹林の竹を使って虫よけスプレーを作る
	G	ロスの多い食材を活用してレシピBOOK作成
	H	廃棄食材から飼料を作る
	I	廃棄野菜をリサイクルできるのか
	J	コーヒーを使った石鹸を作ることでケニアの高校生の健康を守る
2組	A	体育館の環境改善
	B	フェアトレード商品を広める
	C	食品ロスを減らすには
	D	ウクライナについての考察(今後ウクライナはどうなっていくのか)
	E	キベラスラムの悪臭問題について
	F	ナイジェリアにおける蚊の蔓延を防ぐには
	G	長崎のミルクセーキでアイスラリーは作れるか
	H	かまぼこによって長崎の魚の消費量を上げる
	I	日本人観光客を増やして長崎観光再生を目指す
3組	A	長崎の海を守ろう
	B	長崎を住み続けられるまちにするために
	C	安価で手軽で栄養も取れるレシピづくり
	D	福祉マークの普及と制作
	E	長崎の海の現状とこれからについて
	F	長崎県の離島における観光の現状と課題
	G	長崎県南における子ども食堂の現状と課題
	H	家庭廃棄野菜を活用するために
	I	障がいがある6歳未満の子供たちへの教育環境の改善
4組	A	昆虫食を利用した栄養管理
	B	gender and fashion

	C	子どもの貧困
	D	災害発生時に対応した栄養バランスの良い食事
	E	長崎県の英語教育
	F	バイオエタノールについての研究
	G	Uターン、Iターンで防ぐ長崎の人口流出
	H	廃材の利用方法を考えよう
	I	海ごみ削減に向けて
5組	A	日本と海外の女性の扱い
	B	ツシマヤマネコをこれ以上絶滅させないために環境保護として私たちにできること
	C	日本が抱えているエネルギー問題 再生可能エネルギーの実用性
	D	グルテンフリーについて
	E	日本と世界の英語教育
	F	安全な水をエチオピアへ
	G	野菜不足を解消しよう
	H	ジェンダー平等について
	I	節電
6組	A	長崎の海のごみ
	B	節水に関するアプリの提案
	C	高齢者の健康状態と運動習慣について
	D	男女間の溝をなくそう～席順から見る男女の差～
	E	長崎の海ごみの現状を知り、発信する。
	F	長崎の風景から考える地方創生
	G	お店（主にスーパー）でプラスチックトレーの削減を行うことで経済的・環境的負担の軽減を
	H	服と笑顔を世界に届けよう
	I	貧困による教育格差
7組	A	長崎の食材を使った栄養の改善
	B	貧困をなくそう
	C	実用的な英語を身に着けるために
	D	オンライン事業を長崎から
	E	磯焼け
	F	発展途上国における有害物質を発生させない焼却炉の設計
	G	いつでもどこでも安全に使えるトイレ
	H	アニメーションで伝えるジェンダー問題
	I	長崎の食材を使った栄養の改善
	J	貧困をなくそう

【発表会】

対象学年	高校1年
実施時期	テーマ発表会：7月13日（水） クラス内発表会：10月7日（金） SDGs 別中間発表会：12月19日（月） クラス内発表会：2月8日（水）/15日（水） WWL 探究発表会：3月22日（水）
指導者	本校教員
目 的	①班別に作成した研究レポートの概要を、聴衆に伝えることで協働的思考力やプレゼンテーション能力を伸長する。 ②他グループの発表に対して、ルーブリックに基づいてコメント（評価）することで、批判的思考力を養う。
方 法	〔テーマ発表会（7月）〕 ○興味のある研究対象および関心のあるSDGs番号をもとに編成した4～5人班で、どのような方向性で研究を進めていくのかを3分程度の発表。 〔クラス内発表会（10月）〕 ○7月におこなった第1回FWの研究内容を中心に、すべての班が3分程度の発表をプレゼンテーションソフトを使用し発表。 〔SDGs 別 WWL 探究中間発表会（12月）〕 ○SDGsの項目で各教室に分かれ、全ての班が第2回FWまでの調査・研究結果を5分間でプレゼンテーションと3分間の質疑を行う。 〔クラス発表会（2月）〕 ○SDGs 別 WWL 探究中間発表会でのフィードバックを取り入れた発表を行う。各班でポスターを作成し、約5分間のプレゼンテーションを行う。クラス単位で発表を行い、他分野のSDGsに関する研究・発表に触れる。また、自他の班の7月との研究内容及び成果を比較することで、次年度の探究活動に活かす。 〔WWL 研究発表会〕 ○クラス発表会でのフィードバックを取り入れた発表を行う。各クラスの代表班は、プレゼンテーションソフトを活用し、ステージで発表を行う。 ○代表班の発表終了後、希望する生徒との質疑応答を行う「フィードバックタイム」を設定する。 〔発表会共通〕 ○生徒は他の班の発表を聞き、気づきなどをコメントシートに記録し、発表した班に渡す。発表した班は寄せられた気づきを参考にし、振り返りシートを記入し、今後の研究へ活用する。
期待される成果	プレゼンテーションを行い、また他班のプレゼンテーションを参観することで、責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップが培われるとともに、自分達の考えを効果的に伝える力を育成できる。

7月にテーマ発表を行うことで、テーマに関してどのようなことを知る必要があるのかを明確にすることができ、第1回FWでの文献調査や実験につなげることができた。10月のクラス内発表では、全ての班が5分間のプレゼンテーションと3分間の質疑応答を行い、自分たちの課題を明確にすることで、第2回FWへの足掛かりとなった。12月のSDGs 別 WWL 探究中間発表会では、類似した課題研究をする班の発表を見ることで、自分たちの研究を深める一助となった。2月のクラス発表会では、これまでの研究の成果も含めて研究内容をプレゼン用ソフトにまとめ、全ての班が約6分間のプレゼンテーションを行った。



↑ 発表会の様子

③高校2年生の取組

探究活動をはじめとした様々な教育活動の主体となる高校2年生は、「ウィズコロナ」の環境下で、コロナ禍での対応を図りながら、リアルやオンライン、またはハイブリッドの取組を意識しながら、活動を行ってきた。また、1人1台貸与されているPC端末についても、活用の充実が進み、生徒が主体的にオンラインで協働機関をはじめ外部とつながるなど、広がりがみられるようになった。

高校2年生は、本校が育成を目指す7つの資質・能力、マインドセットである「WWL7」のうち、特に「課題発見・解決力」「創造力」の伸長に重きを置き、社会課題のなかにいかに課題を見出せるか、「問い」を見つけられるかを重視するとともに、他者と協働しその解決策を創造する力を育成することを主眼とした。探究活動をはじめ、授業や部活動、学校行事等様々な教育機会を通じて、そのことを意識して学びを深められるよう資料を配布するなど、教員と職員間で共通理解を図ってきた。

高校1年次に新しいカリキュラムの下、探究をクラス単位で実施しており、高校2年生では、改めて探究を実施した。協働性と創造力の伸長のため、チーム構成は普通科・国際科を解体し、さらに文系・理系を融合することを推奨し行った。集合知による優れた探究的な学びを行うためである。

基本的な探究の流れは掴んでいるところからのスタートなので、ガイダンスは年度当初だけ行い、早速チーム編成を行って探究活動を開始した。テーマを設定し文献調査を行いつつ、7月と11月にはフィールドワークを実施し、12月に全員で中間発表会を実施し、代表班を選出して3月に最終発表を行う。また、本学年は、令和5年7月に「高校生国際平和会議」を開催することとしている。その運営を行う実行委員を、高校1年次に生徒に主体的に参加を募り結成しており、その準備を引き続き行った。その会議を踏まえ、ハワイやニューヨークにおける海外フィールドワークも、3月に実施した。

【総合的な探究の時間 高校2年生 年間実施概要】

月	実施内容
4月	研究テーマの設定
5月	①チーム編成 ②問い立て（リサーチクエスチョン）
6月	①高大連携講座 ②ワールドワイドチャンネル（識者による講演会、高1と合同実施） ③テーマ発表会
7月	①夏の探究活動に向けて準備 ②長崎市内フィールドワーク（フィールドワーク週間）
8月	夏の探究活動の振り返り
9月	①探究継続 ②秋季フィールドワーク準備
10月	探究継続
11月	①秋季フィールドワーク（高1と合同実施） ②中間発表会準備
12月	①中間発表準備 ②中間発表会（12/21）
1月	①レポート作成 ②代表班は探究継続
2月	①レポート作成 ②代表班は探究継続
3月	①レポート完成 ②最終発表会（WWL探究発表会 3/22）

Nagasaki Higashi

World-Wide Report

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなG人材の育成



2022年度 第15号

November 30, 2022

秋季 探究フィールドワークを行いました！

11月9日（水）（一部10日（木）含む）に、高1、2年が探究フィールドワークを実施しました。

高2のウクライナ支援探究班の廣田風香さん、小松奏太さんは大分県別府市のNPO団体「Beautiful World」を訪問し、代表の小野一馬さんが行う支援活動に同行しました。

日本の運転免許取得のため、通訳支援を受けながら練習するウクライナの方々と交流した後、マリウポリ出身で、激戦地のドネツク州からご家族6人で避難したナジアさんと対話しました。戦場の凄惨な実態に触れ、2人は涙を溜めながら真剣に言葉を交わし、今後の探究への決意を新たにしました。

別府市役所では防災危機管理課主査の河合亜留土さんから、行政支援の実態について学び、前例のないなかでの支援策の取組に感銘を受けました。

「一人でも多くのウクライナ人に朝を迎えてほしい」と語る、ご夫婦で支援を行われている小野ヤーナさん、一馬さんご夫妻の信念に触れ、フィールドワークの後には、成長した生徒の姿がありました。



↑ウクライナ避難民ナジアさんとの対話



別府市役所の方から海藻の分布等について講義



↑五島市役所の方から海藻の分布等の講義



↑養鶏場での飼料等についてインタビュー

一方、五島市では、高2の藻場造成探究班と遠隔医療探究班がフィールドワークを行いました。

藻場造成探究班の山田あやめさん、増山俊治さんが伺った五島漁業協同組合玉之浦支所では、海藻のアカモクやカギケノリなどの商業利用の方法や持続可能な藻場造成の在り方について、深い学びを得ることができました。

遠隔医療探究班の山下日向子さん、川崎凜さんは五島市役所でドローン物流を用いた処方薬配送やオンライン診療などについてお話を伺い、五島中央病院では実際に患者の方にインタビュー調査をしました。遠隔医療の問題点や実証実験までの過程などを詳しく学ぶとともに、離島で生活する患者の方からオンライン支援などの感想を聞くことができました。

その他にも、対馬市役所や森きらら、諫早東特別支援学校など、生徒の探究テーマに応じて様々な場所で現地調査やオンラインインタビューなどを行い、現場でしか学べない貴重な経験を得ることができました。今後、高1・2年ともに、探究をさらに深め、12月の中間発表会に向けて準備を行っていきます。

【中間発表会】

中間発表会は、生徒から希望を取り、3月の発表会への審査を希望するチームと、今回の発表を最終発表とするチームに分かれ、全学年で実施した。下記に審査対象の発表会について要項を記載する。

WWL 高2 中間発表会【審査対象】実施要項

WWL 推進室／高2学年

- 1 目的 ①探究内容を聴衆に伝えることで、プレゼンテーション能力などの自己表現力を伸長する。
②他グループの発表にループリックに基づいてコメントすることで、批判的思考力を養う。
③優秀班を4班程度選出するための参考とする。
※優秀班は3月22日（月）WWL 探究発表会にて長崎ブリックホールステージでプレゼンテーションを行う。その他希望する班は同会議室にてプレゼンテーションを行う。
- 2 日時 令和4年12月21日（水） 8：45～12：15（1～4校時）
※欠けた授業は時間割変更等で補充する
- 3 対象 高2審査対象希望23班
- 4 日程・場所

	時 間	発表手順
開会挨拶（教頭先生）	8：45～8：50	
準 備	8：50～9：00	
発 表 1	9：00～9：12	①発表（8分） ②質疑応答（2分） ③コメント記入（1分） ④交代（1分）
発 表 2	9：12～9：24	
発 表 3	9：24～9：36	
発 表 4	9：36～9：48	
発 表 5	9：48～10：00	
発 表 6	10：00～10：12	
休憩	10：12～10：35	
発 表 7	10：35～10：47	①発表（8分） ②質疑応答（2分） ③コメント記入（1分） ④交代（1分）
発 表 8	10：47～10：59	
発 表 9	10：59～11：11	
発 表 10	11：11～11：23	
発 表 11	11：23～11：35	
発 表 12	11：35～11：47	
平和共同宣言紹介	11：47～11：59	
審査員代表講評	11：59～12：04	

※発表班以外の生徒は発表を聴き、コメントシートを作成して発表班に提出する。

※発表順は部門を踏まえて定める。

【高2の探究テーマ（審査対象）】

1	Regional Disparities in Developing Countries in Asia and Support for the Poor
2	Creating a Sustainable System to Reduce Food Loss Using Vending Machines and Food Drive
3	Is it possible to recycle used masks into substitutes for plastics?
4	Investigation of seaweed varieties suitable for sustainable seaweed bed creation
5	The optimal type of oil for removing micro plastics by using ferrofluid
6	トイレから長崎の活性化を図る
7	間伐材を利用した林業の活性化
8	Gradual Reduce of the Usage of Plastic in Contemporary Society and the Plan with Plastic Free World in the Future
9	Efficient Air Plane
10	Water quality improvement by microorganisms
11	Collect Drifting Garbage With Drifted Garbage
12	Portable Toilet with deodorizing effect
13	Antibacterial Action of Catechin
14	To reduce the rate of tooth decay in Higashi
15	生理の理解を広める
16	オンライン診療
17	Taking a measure for Corona virus using Nagasaki specialties
18	アフリカ地域で作れる栄養調整食品
19	Creating an Educational Environment where students can learn together regardless of disabilities ～ Toward the Promotion of Inclusive Education～
20	Can design and advertising change the image of cosmetics?
21	Peace education from a viewpoint of psychological aspect and its future
22	Support for ukraine as a bombed city, Nagasaki
23	Living with dogs and cats

【高2の探究テーマ（審査対象外）】

1	義務教育の違いについて
2	音楽療法で子供達に心のゆとりを
3	カードゲームで中学生のジェンダー意識は変わるのか
4	新大工商店街の活性化に向けて高校生ができること。
5	長崎市を観光で活性化する
6	中通り商店街の活性化
7	長崎の空き家活用
8	廃棄寸前の特産品から新たな特産品を作る
9	県内観光客増加のための観光プラン

10	男性の子育てについて
11	さまざまな愛の形を認め合いジェンダーフリーな地域を創る
12	ジェンダーレスな幼児向け玩具の開発
13	集中力を持続させる香りの種類とは
14	長崎の特産品を生かした食べられるお箸作り
15	高校生におけるインターネットトラブルの加害者増加の背景とその解決策
16	アクアポニックスの可能性と普及について
17	段ボールを用いた避難所の問題改善
18	絶滅危惧種を守る
19	コンポスターの普及へ向けて
20	家庭内事故を減らす
21	交通事故を減らす～歩行中に事故に遭わないために～
22	食物アレルギーを持つ人が安心して外食するために
23	自閉症をもつ子どもの新しい教育方法
24	海の水質汚濁を改善するには
25	長崎の海に住む魚の生態調査
26	クラゲの被害と潜在的有用性
27	海ごみ回収装置を作る
28	栄養失調の人のために廃棄量の多い食材を取り入れた栄養ゼリーを作ろう
29	再生可能エネルギーで効率の良い風力発電
30	リラックス効果の観点から見たニキビ予防
31	高齢者の非常食
32	MSC 認証マークの普及
33	これからの児童虐待とその対策
34	南アフリカに理数科目を浸透させるには
35	長崎の平和教育を見直そう
36	アメリカと日本の教育の違い
37	Blind badminton
38	Soil Desalination with Ice Plant
39	The Effective Use of Abandoned Milk
40	The providing method of high quality information
41	Development of educational toy
42	Making paints from discarded vegetables
43	Making effective compresses from old compresses

高1・2 WWL 探究中間発表会を行いました！

12月19日（月）に高校1年生、12月21日（水）に高校2年生が、『WWL 探究中間発表会』を開催しました。

高1・2年合わせて130を超えるチームが、本校の探究テーマであるSDGsを踏まえて設定した各課題について、その解決を図る探究成果を発表しました。

高1は、テーマとなるSDGs別に教室を分け、対馬や佐世保、長崎市内など県内各地のフィールドワークで得た学びをもとに、これまでの成果と今後の展望について発表しました。初めての発表会となりましたが、生徒の成長を実感できる素晴らしい一日となりました。高1は今後、クラス内で発表会を行い、学級の和を深めていきます。



↑高1 発表の様子

高2の発表会は、3月22日（水）に長崎ブリックホールで開催する本校主催の全国大会『WWL 探究発表会』の校内予選を兼ねています。英語や日本語で発表を行い、長崎大学名誉教授で元ユニセフ駐日代表の溝田勉先生が審査を行いました。

審査の結果、外部大会表彰チームを含め、以下の8班が3月の全国大会に出場します。

【高2『WWL 中間発表会』審査結果 優秀賞（1位相当）2班、優良賞（2位相当）5班】

優秀賞	英語	『Efficient Air Plane（環境負荷の少ない飛行機の開発）』 （永峯宗弥、鳥居大誠、猪熊祐希）
優秀賞	英語	『Peace education from a psychological viewpoint and its future （恐怖感をフォローする平和教育）』 （田中統也、小林ひより、井手日葵、田浦陽向、森山和夏、本田 結）
優良賞	英語	『Support for Ukraine as a bombed city, Nagasaki （ウクライナ避難民の行政支援の方策）』 （廣田風香、米田惇美、小松奏太、森岡桜菜）
優良賞	英語	『Investigation of seaweed varieties suitable for sustainable seaweed bed creation（持続可能な藻場造成）』（増山俊治、東 美奈、山田あやめ、奥村優里奈）
優良賞	英語	『Can design and advertise changing the image of cosmetics? （男性も手軽にコスメができる社会に）』 （長江絢香、田村茉澄、中川小雪、埴生彩沙）
優良賞	英語	『The optimal type of oil for removing micro plastics by using ferrofluid （油を用いたマイクロプラスチックの除去）』 （林 優太、一ノ瀬向太、辻原叶人、中里颯真）
優良賞	英語	『Is it possible to recycle used masks into substitutes for plastics? （使用済みマスクをリサイクルするのは可能か）』 （田中湖夏、松崎叶夢、河島優太、門 優帆、田原 遼）
外部大会 表彰	日本語	『衛星データ監視システムをつくる』（田中玲衣、松本華子、松尾日菜子） ※『第30回衛星設計コンテスト』日本ロケット協会宙女（そらじょ）賞

審査員の溝田先生からは、「みなさんそれぞれの班が多様なテーマに触れていて素晴らしい」との講評をいただきました。

SDGsのテーマに根差した、多様でグローバルな課題についてどのようにしてその解決を図っていくか、真剣にいきいきと発表する姿は、ひがし生らしい輝きに満ちていました。

代表に選ばれた班はもちろんですが、すべての参加生徒一人ひとりの成長が見られる貴重な一日となりました。高2 発表の様子ー



【WWL探究発表会】

3月22日（水）に実施した、最終発表の機会となるWWL探究発表会は、国内外の高校生が集う全国大会として位置付け実施した。当日の運営は生徒主体で組織した実行委員会が主体を担い実施した。また、ニューヨーク国連軍縮部に訪問した生徒の報告も行った。下記に実施要領とプログラムを記載する。

令和4年度 WWL探究発表会 実施要領

- 1 名 称 令和4年度 WWL探究発表会
- 2 開催期日 令和5年3月22日（水）9：30～15：15
- 3 主 催 長崎県教育委員会（WWLコンソーシアム構築支援事業 管理機関）
- 4 会 場 長崎ブリックホール（長崎県長崎市茂里町2-38）
- 5 目 的 これからの未来社会を担う高校生が、探究活動の成果発表を行い、その共有と普及をはかるとともに、友好交流の契機とする。
- 6 参 加 校 ULS(University Laboratory School：ハワイ)、東京都立南多摩、静岡県立三島北、京都市立堀川、奈良県立国際、関西学院高等部、広島市立舟入、福岡県立博多青松、沖縄尚学、長崎日大、対馬、壱岐、佐世保北、諫早、長崎南、長崎東 計16校
- 7 発表形態 ・使用言語は英語もしくは日本語とする。
・Microsoft Power Point によるスライド発表とする。
・対面（会場での発表）、オンライン、事前録画提出のいずれかでの発表とする。
- 8 発表時間 12分（質疑応答なし）
- 9 発表内容 SDGsを踏まえた下記の4部門に分類して実施

『共生』部門	SDGs 10・16・17	【例】平和活動、各国の不平等是正など
『環境』部門	SDGs 6・7・12・13・14・15	【例】海ゴミ削減、代替エネルギーなど
『社会』部門	SDGs 1・2・3・4・5・11	【例】教育実践、福祉・医療衛生など
『経済』部門	SDGs 8・9	【例】企業経営、マーケティング、商品開発など

- 10 審 査 員
志水 俊広（WWL事業評価委員 九州大学大学院言語文化研究院 准教授）[審査委員長]
黒川 智通（長崎県教育庁高校教育課 ICT教育推進室 課長補佐）
中村 陽介（長崎県教育庁高校教育課 高校教育班 係長）
宮崎 明子（長崎県教育庁高校教育課 高校教育班 指導主事）
- 11 備 考 本発表会は「全国大会」と位置づけ、全出場グループを後日表彰する。
※優秀賞（1位相当）、優良賞（2位相当）、奨励賞（3位相当）

令和4年度 WWL探究発表会 プログラム R5.3.22（水）会場：長崎ブリックホール

時程	内容
9:30～45	(大ホール) 開会式 ①校長挨拶 ②管理機関挨拶 ③生徒代表挨拶 (高2 実行委員長)
10:05～ 11:45 大ホール	探究発表会 (午前の部) ※並行して3F ラウンジで高1 クラス代表の探究発表 ①10:05-10:17 長崎東 (対面) 『Efficient Air Plane (環境負荷の少ない飛行機の開発)』 ②10:20-10:32 ULS (オンライン) 『Hawaiian Monk Seals』『Stop Beach Erosion』 ③10:35-10:47 ULS (オンライン) 『Sea Turtles』『Reef Safe Sunscreen』 ④11:00-11:12 関西学院 (対面) 『日本の女性がより活躍するために高校生の私たちに出来ることーアイスランドを見てー』 ⑤11:15-11:27 壱岐 (対面) 『訪れたい、この神社』 ⑥11:30-11:42 長崎東 (対面) 『Measures to improve support for Ukrainan Displaced Person in Nagasaki City (長崎市におけるウクライナ避難民支援の改善策)』
国際会議場	①10:05-10:17 長崎東 (対面) 『Can design and advertise changing the image of cosmetics? (男性も手軽にコスメができる社会に)』 ②10:20-10:32 長崎南 (対面) 『高校生は1人1台端末を学習にどう活用し、どのような効果を感じているか』 ③10:35-10:47 堀川 (録画) 『堀川高校における新たな探究基礎の実践』 ④11:00-11:12 南多摩 (録画) 『オーガニックコットン栽培とその普及、食をテーマにした校外での活動報告』 ⑤11:15-11:27 対馬 (録画) 『海ごみから世界へ』 ⑥11:30-11:42 長崎東 (対面) 『Is it possible to recycle used masks into substitutes for plastics? (使用済みマスクをリサイクルするのは可能か)』
11:45～	昼食休憩
12:45～ 14:25 大ホール	探究発表会 (午後の部) ⑦12:45-12:57 長崎東 (対面) 『A method of peace education that eases students' fears and fosters their independence (児童・生徒の恐怖感を和らげ、主体性を育む平和教育の手法)』 ⑧13:00-13:12 沖縄尚学 (対面) 『私たちがつなぐ「日常」へのバトン』 ⑨13:15-13:27 広島舟入 (対面) 『空飛ぶ家は作れるのか』 ⑩13:40-13:52 三島北 (オンライン) 『微生物発電についての研究』 ⑪13:55-14:07 佐世保北 (対面) 『セルロースの可能性』 ⑫14:10-14:22 長崎東 (対面) 『Investigation of seaweed varieties suitable for sustainable seaweed bed creation (持続可能な藻場造成)』
国際会議場	⑦12:45-12:57 長崎東 (対面) 『The optimal type of oil for removing micro plastics by using ferrofluid (油を用いたマイクロプラスチックの除去)』 ⑧13:00-13:12 長崎日大 (対面) 『使い捨てカイロ及び使用済みマスクのリサイクル方法の可能性の検証』 ⑨13:15-13:27 博多青松 (録画) 『LGBTQ+』 ⑩13:40-13:52 奈良国際 (録画) 『化粧品に対する意識の改革』 ⑪13:55-14:07 諫早 (録画) 『貧困≠「子ども食堂」を広げていくなかで』 ⑫14:10-14:22 長崎東 (対面) 『衛星データ監視システムをつくる』
14:45～ 15:00	(大ホール) アメリカ (ニューヨーク国連軍縮部) フィールドワーク報告 (高2 代表生徒) …中満 泉 国連事務次長と生徒作成の「高校生平和共同宣言」について意見交換を実施
15:05～ 15:15	閉会式 ①審査員講評 ②生徒代表挨拶 (高2 副実行委員長)

※大ホール・国際会議場ともに現地会場での参観、また Teams によるオンライン参観を行います。

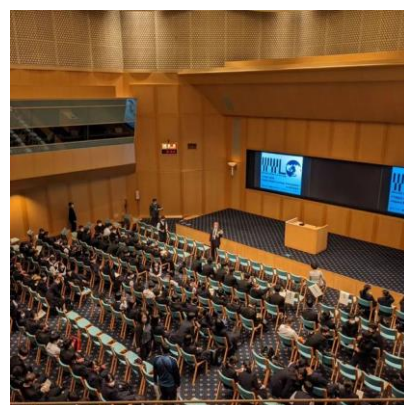
【WWL 探究発表会の様子】



↑ 本校生徒の英語での発表



↑ ハワイのオンライン発表



↑ 会場の様子

【英語科との連携】

国際科では、時事英語の時間に英語での研究レポートの書き方の指導を実施した。レポートの構成やそれぞれの章で記述する内容や効果的な表現について独自のテキストを用いて授業を展開した。また、2月22日には、事業協力機関のひとつである大分大学教育学部より麻生雄治教授を招聘し、普通科の生徒を対象に「日本語論文講座」、国際科の生徒を対象に「英語論文講座」を実施した。

【海外フィールドワーク】

構想計画書に記載したとおり、下記のフィールドワークを実施することができた。

研修先	期日	目的	対象生徒	引率
①アメリカ (ニューヨーク) 3泊5日	R5 3/4(土) ～3/8(水)	①高校生平和共同宣言について ODA 等国連職員と意見交換 ※中満泉 国連事務次長と懇談	WWL 高校生平和 共同宣言起草委員 長 西田桃子 (2-7)	マツト
②ハワイ (オアフ島) 平和プログラム 4泊6日 ホームステイ	R5 3/25(土) ～3/30(木)	①ハワイ大学付属高校 (ULS) 生徒 とアリゾナ記念館等にて合同平 和 FW ②国際会議、平和宣言に向けた交 流	WWL 高校生国際 平和会議実行副委 員長、中間発表会 優秀賞 小林ひより (2-3)	鳥居
③ハワイ (オアフ島) 海洋環境・水質 改善プログラム 4泊6日 ホームステイ	R5 3/25(土) ～3/30(木)	①海洋環境施設 (ビショップミュ ージウム) でのワークショップ 参加 ②国際会議、平和宣言に向けた交 流	WWL 高校生国際 平和会議実行委員 長 溝口理子 (2-7)	一ノ瀬

※その他 (同窓会事業) 欧州派遣：オランダ (ライデン市等) R5 3/18 (土) ～3/26 (日)

- ・派遣生徒：加藤杏珠 (2-1)、大坪樹実 (2-6)、宮崎優花 (2-6)、西鶴園優来 (2-7)、堀江一花 (2-7)
- ・引率：榎本、山下龍先生 (長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐)

a. アメリカ（ニューヨーク）

本校は7月28日（金）に、国内外の高校生が世界課題について協議する「高校生国際平和会議」を開催することとしており、その際、多言語による「高校生平和共同宣言」を発表することとしている。

今回のフィールドワークではこの宣言文について、国連職員と意見交換を行った。国連事務次長の中満泉様をはじめ、ODA 職員の皆様、職員の草野佑太様、益子たく様とお話をさせていただき、平和共同宣言についてのコメントやアドバイスに加え、生徒は多くの学びを得ることができた。

参加生徒からは、「国際平和の実現のために一人ひとりが行動を起こしている国連職員に強く感銘を受け、7月の国際会議を成功させ、発表する高校生平和共同宣言を通して、国際平和の実現に貢献したいとの想いを、新たにすることができました。」との感想があった。



↑ 中満泉国連事務次長と対談



↑ ODA 職員との対話会



↑ 国連軍縮部を訪問

b. ハワイ（平和プログラム）

真珠湾攻撃の跡地であるアリゾナ記念館をハワイの高校生と共に訪れた。本校生徒が平和へのメッセージを込めた折り鶴を供養碑に献鶴し、今でも戦艦から流れ続けるオイルを指す「黒い涙」に献花した。さらに、ハワイ大学マツナガ平和研究所を訪れ、Jose Barzola 先生や大学生と長崎・広島の実態や、本校が来年度7月に開催する「高校生国際平和会議」について意見交換を行った。

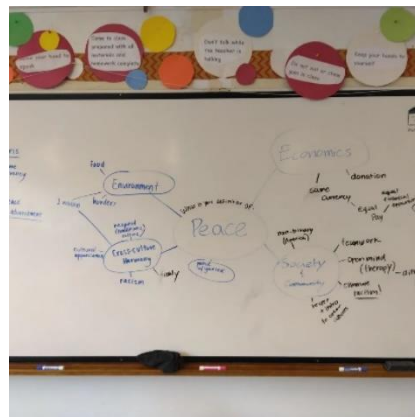
また、ULS (University Laboratory School) を訪れ、上述の国際会議に参加する、ULS の代表生徒と会議内容について打ち合わせを行った。その後、代表生徒のファシリテートで ULS で日本語学習を行うプログラムに参加している生徒約30名と、「平和」について、kj 法でワークショップを行った。



↑ アリゾナ記念館に献鶴



↑ ULS でディスカッション



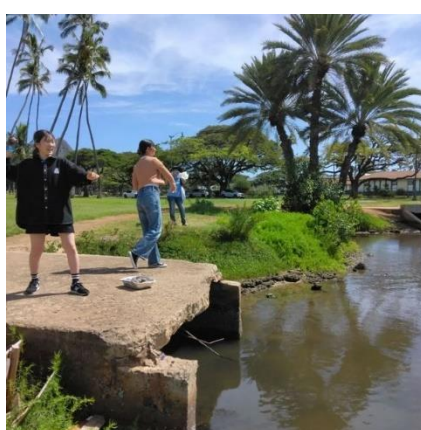
↑ KJ 法で多様な意見

c. ハワイ（海洋環境・水質改善プログラム）

ビショップミュージアムでハワイの歴史を学んだ後、プラスチックゴミでリサイクル製品を開発・販売する「PAREY」代表から講義を受け、質疑応答を行った。また、アラワイ運河の水質改善を行っている「Genki Ala Wai Project」に参加して学びを深めた。ハワイのアラワイ運河は汚染が進んでいるが、EM(Effective Microorganism 有用微生物)入りの泥団子、通称『Genki Ball(元気玉)』を投入することで、徐々に改善が見られ、最近ではアザラシが見られるなど回復してきている現状について学んだ。生徒は実際にこの『Genki Ball』を作成し投入し、楽しんでハワイの環境について学んだ。



↑ EM で泥団子を作成



↑ アラワイ運河に投入



↑ プラスチックゴミの質疑応答

④高校3年生の取組

総合的な探究の時間（1単位）を用いて、課題研究のまとめとなる日本語や英語での論文作成を行った。国際科については、「異文化理解」の授業を活用し、英語での論文作成について担当英語科教員より継続した指導を実施した。

最終発表として7月4日に「第2回WWL長崎フォーラム」を開催した。拠点校の高校3年生普通科および国際科の生徒約260名と、連携校7校から26名が参加し、課題研究成果発表とパネルディスカッションを実施した。具体的なシラバスは次ページに掲載し、フォーラムの内容についてはプログラム、および学校情報誌「ワールド・ワイド・レポート」を以下に掲載する。

【高3普通科】

月	日	曜	形態	場所	内容	備考
4	14	水	班	教室	論文作成について(ガイダンス)	・班ごとに着席
			視聴		班内で担当者分担	・論文作成についてガイダンス
			覚室		※代表班は昼休み集合(会議室)	・班内で担当箇所を振り分け→シート記入、担当教諭に提出
	20	水	班	教室	論文作成①	・担当者ごとに文章作成→担当教諭添削
	27	水	班	教室	論文作成②	・担当者ごとに文章作成→担当教諭添削
5	11	水	班	教室	論文作成③	・担当者ごとに文章作成→担当教諭添削

6	18	水	個人	教室	個別論文作成①	・各個人で文章を作成 ・個別考察をまとめる
	25	水	個人	教室	個別論文作成②	・各個人で文章を作成 ・個別考察をまとめる
	1	水	個人	教室	個別論文作成③	・各個人で文章を作成 ・個別考察をまとめる
	8	水	個人	教室	個別論文作成④	・各個人で文章を作成 ・個別考察をまとめる
	15	水	班	教室	論文作成④	・担当者ごとに文章作成→担当教諭添削
	22	水	班	教室	論文作成⑤	・担当者ごとに文章作成→担当教諭添削
7	29	水	班	教室	論文作成⑥	・論文の提出 Teams にて投稿
	4	月	代表	学校全体	WWL長崎フォーラム	・代表班は発表 ・サブ発表
	6	水	個人	教室	志望理由書作成・面談①	・これからの進路について考え文章にまとめる ・担任と面談
	13	水	個人	教室	志望理由書作成・面談②	・これからの進路について考え文章にまとめる ・担任と面談
	27	水	個人	教室	志望理由書作成・面談③	・これからの進路について考え文章にまとめる ・担任と面談

【高3国際科】

R4 国際科探究計画

※異文化理解の授業は英語科教員で実施する

- (1) 班のレポート完成 → (2) 班または個人の論文作成 (任意) →
(3) 発表 (スライド・ポスター) 等の準備 → (4) 志望理由書作成

月	日	曜	活動	内容
4	13	水	班の英文レポート推敲①	①章立て、文体を整える
	19	火	班の英文レポート推敲②	②英文を吟味する
	20	水	班の英文レポート推敲③	③トピックセンテンスを
	27	水	班の英文レポート推敲④	吟味する
5	10	火	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成①	①志望学部・学科の視点
	11	水	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成②	から Discussion のパート
	17	火	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成③	を吟味する
	18	水	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成④	②志望学部・学科の研究
	24	火	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成⑤	内容を調査する

	25	水	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成⑥	論文の体裁は、 ①アブストラクト（200 words 以内） ②key words（5 語程度） ③枠線をとる（二段組） ④we を避ける
	31	火	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成⑦	
6	1	水	個人英文レポート or 日本語論文 or 英語論文作成⑧	
	8	水	司会・発表準備①	
	14	火	司会・発表準備②	
	15	水	司会・発表準備③	
	21	火	司会・発表準備④	
	22	水	司会・発表準備⑤	
	29	水	司会・発表準備⑥	
7	4	月	★WWL 長崎東フォーラム（視聴覚室など） ①11 連携校のスライド・ポスター発表 長崎東普通科スライド1、ポスター1 国際科スライド1、ポスター1 ②パネルディスカッション	東の代表4班は3月の発表により選出
	5	火	発表の振り返り	班の英文レポートまたは 班の英語論文を提出 （個人の成果物は提出の必要はありませんが、優れた成果物は電子データで提出してもらいます）
	6	水	志望学部学科研究①（志望理由書作成・面談）	
	12	火	志望学部学科研究②（志望理由書作成・面談）	
	13	水	志望学部学科研究③（志望理由書作成・面談）	
	19	火	志望学部学科研究④（志望理由書作成・面談）	
	26	火	志望学部学科研究⑤（志望理由書作成・面談）	
8	27	水	志望学部学科研究⑥（志望理由書作成・面談）	
	23	火	異文化理解の授業	
	24	水	2 学期から 11 時間分、探究は異文化（11/2 まで）	8/31, 9/7, 9/14, 9/21, 9/28, 10/5, 10/12, 10/19, 10/26, 11/2

【WWL 長崎フォーラム プログラム】

第2回 WWL 長崎フォーラム プログラム



令和4年7月4日（月）長崎東高校

■プログラム

10:00～	受付
10:30 ～10:50	●開会行事（視聴覚教室） 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 鶴田栄次 校長 長崎県教育庁高校教育課 宮崎明子 指導主事
11:05 ～12:15	★ <u>スライド発表</u> （視聴覚教室）発表時間12分（下線は英語での発表）、質疑応答なし ①長崎東高校普通科「代替魚粉としてバタを用いることは可能か」（11:05～11:17）対面 ②長崎東高校国際科「水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善」（11:20～11:32）対面 ③対馬高校「知ってほしい 対馬の海」（11:40～11:52）※事前録画 ④広島女学院「現在の日本医療において、在日外国人のインフォームドコンセントは果たしているのか」（12:00～12:12）※事前録画
12:15 ～13:00	昼食
13:00 ～14:50	★ <u>スライド発表</u> （視聴覚教室）発表時間12分、質疑応答なし ⑤大村高校「温度による弦の張力の変化」（13:00～13:12）※オンライン ⑥長崎南高校「LGBTQ+への理解向上に向けた挑戦」（13:20～13:32）対面 ⑦長崎東高校普通科「長崎の版画家、田川憲の作品を通して若者の地元への関心を高めることができるか」（13:34～13:46）対面 ◆ <u>ポスター発表</u> （視聴覚教室）発表時間10分・質疑応答3分（下線は英語での発表） ⑧長崎東高校国際科「医療につながるピクトグラム」（14:00～14:13）対面 ⑨長崎西高校「長崎市西樫山における霞石ノジュールの形成について」（14:15～14:28）対面 ⑩三島北高校「ベトナムと日本の母子手帳の改善によって出産・育児への支援を向上する」（14:35～14:48）※オンライン
14:50 ～15:35	●代表生徒によるパネルディスカッション（視聴覚教室） テーマ「高校の学び ―探究学習― と将来への展望」 論点：①振り返り～「探究学習や高校の学びで身についた力とは」～ ②将来へ～「今後伸ばしたい力と将来どのように活躍したいか」～ パネリスト： 長崎東高校普通科：八戸春桜（3）、長崎東高校国際科：河原寛太（3） 長崎西高校：梅野正（2）、長崎南高校：相浦凧彩（3） 壱岐高校：松田夏希（2）、対馬高校：西清音（2）・大石沙和（2） ファシリテーター： 長崎東高校国際科 村上由宇（3） ※2023 高校生国際会議 Nagasaki Peace & Innovation Forum のPR（生徒実行委員代表）
15:35 ～15:45	●講評、閉会行事（視聴覚教室） 九州大学大学院言語文化研究院 志水俊広 准教授

審査員： 長崎大学名誉教授・元国連ユニセフ駐日代表 溝田勉 氏
長崎県教育庁高校教育課 宮崎明子 指導主事

■スライド発表

学校名	生徒氏名（学年）	研究テーマ	発表言語
長崎東普通科	黒岩夕綺（３） 大渡玲央（３） 大塚優斗（３） 小川凜空（３）	代替魚粉としてバッタを用いることは可能か	日本語
長崎東普通科	香月夏美（３） 藤原莉子（３） 川添瞳子（３） 岩永萌子（３）	長崎の版画家、田川憲の作品を通して若者の地元への関心を高めることができるか	日本語
長崎東国際科	木場春賀（３） 伊東香乃（３） 岩崎史佳（３） 溝口花恋（３）	Improving oral hygiene in developing countries with swallowable gum 水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善	英語
大村	松本勇紀（３） 花岡直樹（３） 藤崎陽睦（３）	温度による弦の張力の変化	日本語
対馬	西山希望（３） 西山海和（３） 大橋澪（３）	知ってほしい 対馬の海	日本語
広島女学院	眞下弓琴音（３） 芝田咲（３） 世良茉里奈（３）	現在の日本医療において、在日外国人のインフォームドコンセントは果たしているのか	日本語
長崎南	川中萌花（３） 相浦凧彩（３） 山田彩響（３）	LGBTQ+への理解向上に向けた挑戦	日本語

■ポスター発表

学校名	生徒氏名（学年）	研究テーマ	発表言語
長崎東国際科	秋山琴美（３） 井上七海（３） 古賀愛菜（３）	Pictograms Leading to Medical Care 医療につながるピクトグラム	英語
長崎西	梅野正（２）	長崎市西檜山における霰石ノジュールの形成について	日本語
三島北	大川海（２） 内原里菜（２） 太田萌空（２）	Improve Support System for Child-raising ベトナムと日本の母子手帳の改善によって出産・育児への支援を向上する	英語

■サブ発表（会議室）

学校名	生徒氏名（学年）	研究テーマ	発表言語
長崎東普通科 スライド 11:05- 11:17	八戸春桜（3） 田中心晴（3） 浅田壮二郎（3） 小林拓真（3）	長崎かるたで親子に長崎の魅力を伝えて人口流出を減らす	日本語
長崎東国際科 スライド 11:19- 11:31	北尾依舞葵（3） 市瀬結彩（3） 楳原帆叶（3） 山下そら（3）	大豆肉を使って肉料理を作ろう！ Let's make meat dishes with soy meat!	英語
長崎東国際科 スライド 11:33- 11:45	河原寛太（3）	安価な楽器を用いて音楽普及 Creating Musical Instruments to Supply more People with the Opportunity to Play Music	英語
長崎東国際科 スライド 11:47- 11:59	堀川咲希子（3） 小倉葵（3） 坂本ひなた（3） 筑紫莉里花（3）	川ゴミ回収及び海洋ゴミ問題の啓発活動	英語
長崎東国際科 ポスター 12:02- 12:15	深松龍太郎（3） 中里元気（3） 堀田悠生（3） 村上由宇（3） 山下倫太郎（3）	対馬の伝統的保存食「せん」を用いたエチオピアの食料ロス問題の解決 A Possible Way to Solve the Post-harvest Loss in Ethiopia by Spreading Traditional Preserved Food in Tsushima "Sen"	英語

WWL長崎フォーラムを開催しました！

7月4日（月）これまで努力してきた高校3年生の探究学習の最終発表として、WWL長崎フォーラムを開催しました。拠点校である本校の普通科・国際科に加えて、連携校の長崎西、長崎南、大村、杵岐、対馬、広島女学院、三島北（静岡）が参加しました。本校視聴覚教室での対面発表、リモートによるライブ発表、事前に録画した発表動画の配信といったハイブリッド方式による発表と、代表生徒によるパネルディスカッションが実施されました。

★スライド発表部門

優秀賞	日本語	長崎東普通科	代替魚粉としてバツタを用いることは可能か （黒岩夕綺、大渡玲央、大塚優斗、小川凜空）
優秀賞	日本語	長崎東普通科	長崎の版画家、田川憲の作品を通して若者の地元への関心を高めることができるか （香月夏美、藤原莉子、川添瞳子、岩永萌子）
優秀賞	英語	長崎東国際科	水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善 （木場春賀、伊東香乃、岩崎史佳、溝口花恋）
優秀賞	日本語	長崎南	LGBTQ+への理解向上に向けた挑戦
優秀賞	日本語	大村	温度による弦の張力の変化
優秀賞	日本語	対馬	知ってほしい 対馬の海
優秀賞	日本語	広島女学院	現在の日本医療において、在日外国人のインフォームドコンセントは果たしているのか

★ポスター発表部門

優秀賞	英語	長崎東国際科	医療につながるピクトグラム （秋山琴美、井上七海、古賀愛菜）
優秀賞	日本語	長崎西	長崎市西檜山における霰石（あられいし）ノジュールの形成について
優秀賞	英語	三島北	ベトナムと日本の母子手帳の改善によって出産・育児への支援を向上する

長崎東普通科の八戸春桜さんと国際科の河原寛太さんが、長崎西、長崎南、杵岐（オンライン）、対馬（オンライン）の代表生徒とともに、パネリストとして登壇しました。国際科の村上由宇さんがファシリテーターを務め、「探究学習で身についた力」や「将来伸ばしたい力」等について討論しました。物事を多角的に見る力や協働力が養われ、創造力やコミュニケーション能力が今後も必要との内容でした。



国際科のポスター発表



普通科のスライド発表



対面とオンラインを融合したパネルディスカッション

【高3 普通科の研究テーマ】

班	研究テーマ・問い
1	LGBT の周囲の人が理解して LGBT の方々が過ごしやすい街を作るためにはどうすればいいか
2	教員の魅力を伝えることはできるのか
3	長崎の版画家、田川憲の作品を通して若者の地元への関心を高めることができるか
4	代替魚粉としてバツタを用いることは可能か
5	直売所や地元のレストランから、地元野菜の食品ロスは減らせるか
6	気軽に行えるとして知られる食品ロス対策(主にリメイクレシピ)で実際に食品ロス問題解決に貢献できるのか。また、それらをより実用化・一般化させることはできるか
7	ペット、野生の動物を救うために私たちにできることはないか
8	避難所生活において健康維持をするためにはどのようなことが必要か
9	ながさきの養殖業はどのくらい発展しているのか。なぜ漁獲量が減少しているのか
10	子育てに対するギャップを少しでも減らすことで、ギャップからの子供への虐待や、お母さんの産後鬱などを減らすことができるか
11	IT とアクティブラーニングを活用した新しい教育法を考える
12	SNS はメンタルヘルスにどのような影響を与えるのか
13	県内に住んでいる貧困の人たちにとって暮らしやすい街を作ることが出来るか
14	家庭から出る生ごみから肥料を作り、その肥料で野菜を育てることはできるのか
15	海ごみを回収し、そのごみを活用して私たちの生活に役立つものに作り替えることはできるのか
16	安価で効果のあるろ過装置を作れるか
17	地球温暖化のメリットとして出てきた植物の生育促進を生かすため空き家跡地に畑を作れるか
18	孤独死防止のシステムを提案することで高島をより良い島にする手助けはできるのか
19	スポーツで長崎を盛り上げることはできるのか
20	再利用が難しい紙製品を使って自分たちで手軽に再利用することは可能か
21	親子に長崎の魅力を体験させることで長崎に住み続けたいと思う人を増やし人口流出を防げるのか
22	海ゴミ問題を解決するためにどのようなことが出来るのか
23	チームの運営に関連した環境保全活動を提案し、SDG s に貢献することはできるのか
24	長崎の特徴を活かした観光地を私たちの力で活性化させることはできるのだろうか
25	長崎の特産品を使い、工夫した非常食を作るには
26	海洋プラスチックごみを利用し、地域貢献することは可能か
27	長崎が活性化するために企業が行っている取り組みとは
28	海洋ごみを再利用して、商品にし、それを通して興味を持ってもらえるか
29	五島の特徴を活かして外国人観光客も含め観光産業を発展させるためには何が必要か
30	長崎さるくのイベントを通して、海ごみに対しての意識改革はできるか
31	教育現場に山積する諸課題を、人材派遣という形態を導入することで解決できないか
32	環境にやさしいお絵描きセットをつくるにはどうすればよいか
33	深堀を観光地化することは出来るか
34	電子媒体を通した南アジア貧困地域における識字教育について
35	長崎における差別を減らすためには何ができるか
36	長崎市民を対象として観光を盛り上げ経済成長につなげるためには
37	角膜移植を今より普及させるにはどうすればよいか
38	長崎での食品ロスを減らすことで、世界で問題視されている食品ロスの解決に働きかけることは可能か
39	動物愛護の取り組みを広げるために私達に何ができるか考える
40	若い人に長崎の伝統芸能に興味をもってもらうためにはどうすればいいか

41	コロナ禍における医療現場はどのような影響を受けているのか
42	食べ物、音楽、香りの点からストレス解消に効果的なものはどのようなものがあるのか
43	住み続けれるまちを作るには必要なことは何か
44	長崎県の特産品を使って介護食を作り、老々介護をしている人の負担を減らすと同時に地域産業の発展に貢献することが出来るのか
45	運動促進デバイスで運動不足を解消することは出来るのか
46	範囲を一つの町に絞り、その町のPRをすることで人口流出の減少や、地域活性につなげることはできるのか

【高3国際科の研究テーマ】

班	研究テーマ
1	ザンビアで安価かつ容易に生産可能な有機肥料とは
2	医療につながるピクトグラム
3	大豆肉を使って肉料理を作る！
4	水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善
5	日本の農業技術を世界へ
6	営利サービスで日本における食生活に対する意識の改善は可能か
7	カンボジアの小学生に対する手洗い啓発による衛生環境の向上
8	発酵食品を用いてアフリカの子供たちの栄養問題を解決することができるか
9	アフリカの材料を使ってマラリアを予防できるか
10	安価な楽器で音楽普及
11	ニジェールの子供たちの学習意欲と職業選択の手助け
12	長崎市中心部において、外出時に誰もがより良いトイレを利用できるようにするには
13	簡易ろ過装置と炭酸カルシウムを利用することで汚水をろ過し、飲料水をつくれるか
14	教育を通して人々の水問題に対する意識を高めることはできるのか
15	郷土長崎の伝統的保存食を活用したエチオピアの食品ロス問題の改善
16	水力発電の効率を高める
17	今求められている旅行商品とは
18	河川氾濫対策の仕組みを側溝に応用する方法を提示する
19	紙ごみを微生物で分解することによって土の栄養度が低い場合でも作物が育ちやすい土をつくれるか
20	川ゴミ回収及び海洋ゴミ問題の啓発活動
21	紙の原料を木以外のものでも代用することで森林伐採の抑制はできるのか。また世界中のどの場所でも作成可能な紙の作り方を考え発展途上国でも紙を使えるようにする。
22	放置竹林問題の解決

(3) 事業協働機関・事業連携校との取り組み

①長崎大学等との連携

【長崎大学による高大連携講座】

長崎県教育委員会は長崎大学と高大連携事業に関する協定書を交わし、「高大連携事業に係る科目等履修生を対象とした授業科目」および、「高校生公開講座」、「オープンラボ」等の取組を実施してきた。拠点校は長崎県全体への普及のための事務局として中核的な役割を担っている。令和4年度は、大学入学後の単位認定が可能な授業科目として、「数学への誘い～数学の世界を楽しもう～」が開講され、5名が履修（5名が単位認定、うち1名は拠点校生徒）した。また、「高校生公開講座」が2講座（参加生徒21名）、「オープンラボ」が11講座（参加生徒43名）、県内14校から合計69名が8月2日～5日を中心に受講した。

【長崎大学による高大連携リレー講座（WWL基調講演・高大連携出前講義）】

5月20日に、事業協働機関である長崎大学より経済学部 山口純哉 准教授を招聘し、高校1年生全員を対象とした「プラネタリーヘルス・WWL基調講演会」を対面とオンラインによるハイブリッド方式で実施した。本プログラムの詳細については、第2章（1）⑧に記載する。

また、6月15日には高校2年生全員を対象に、高大連携出前講座をリレー式に開催した。次項に実施要項を記載する。

令和4年度 長崎大学による高大連携出前講義 実施要領

1 目 的 進路学習の一環として、大学教授・准教授から講義を受け、専門的な学問に対する学習意欲を高め、将来の自己の進路について考えるきっかけとする。また、専門的な内容に触れることで「探究」の活動をより豊かなものとし、課題研究の一助とする。

2 期 日 令和4年6月15日（水） 6・7限

3 対象生徒 高校2学年（278名）

4 日 程 14:00～14:15 受付（応接室）
 14:15～14:25 会場設営・準備
 14:25～15:55 大学・学部紹介、講義
 15:55～16:15 質疑応答、お礼の言葉
 アンケート回答、感想文記入
 ※アンケートは生徒用、教員用があります。

5 実施講座と使用教室

学 部	講師氏名	使用教室	参加数	担当者
多文化社会	小松 悟 准教授	会議室	33	高濱・マツト
教育	内野 成美 教授	視聴覚室	51	入里・柏井
経済	丸山 幸宏 教授	社会科教室	51	阿比留・鳥居
医（保健）	坂本 淳哉 准教授	高2－1	28	稲尾・内田
薬	向井 英史 准教授	高2－2	35	前田耕
情報データ	高橋 将宜 准教授	高2－3	15	井元
工（機械工学）	下本 陽一 准教授	高2－4	19	野田
工（電気電子工学）	柳井 武志 准教授	高2－5	10	前田幸
工（構造工学）	中原 浩之 教授	高2－6	8	隈
工（物質化学）	作田 絵里 准教授	地球物理	8	原口幸
環境	深見 聡 准教授	高2－7	11	阪口
水産	高谷 智裕 教授	多目的4	8	谷川

※全体…神近、笹井、前田耕、井元

6 そ の 他

- （1）各会場、プロジェクター及びスクリーンを使用する。
- （2）講義によっては、資料配付あり。
- （3）生徒は、タブレット、フォーサイト、筆記用具を準備する。

【広島大学WWL コンソーシアム構築支援事業】

新規事業として、本校は本プログラムの拠点校として加盟している。また、県内連携校の長崎西高校と諫早高校、県外連携校の広島市立舟入高校、広島女学院高校も、同コンソーシアム事業の連携校として加盟している。次年度は、単位習得が認められる「広島大学アドバンストプレイスメント」の履修生として、新高校2年生1名が「日本の文学（近現代）」の授業履修を志望している。

R4年度に実施されたオンラインセミナー（一部オンデマンド）の受講については以下のとおりである。

実施日時	内容・講師	参加数
6月3日（金） 15:30-16:20	「ジェンダー入門」 谷口真由美先生 （大阪芸術大学客員准教授・法学者）	高1（10） 高2（3）
6月10日（金） 15:30-16:20	「ドイツ国際平和村 ～未来へつなぐ平和への活動～」 中岡麻記氏（ドイツ国際平和村職員）	高1（12） 高2（14）
7月28日（木）	「英語はなぜ難しいのかー第二言語習得と異文化 コミュニケーションの視点から」 鳥飼玖美子先生（立教大学名誉教授）	高2（3）

実施日時	内容・講師	参加数
8月1日（月）	英語アカデミックライティング 梅木璃子先生 （広島大学大学院人間社会科学研究科）	高2（80）
9月14日（水）	Making an Effective Presentation in English 柳瀬陽介先生 （京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育 センター教授）	高2（120）
9月16日（金） 15:30-16:20	「核兵器のない世界は可能か」 中村桂子先生 （長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA） 准教授）	高2（1）
11月4日（金） 15:30-16:20	「＜ピンチ＞の生物多様性 ～生き物を保全する理由どこにある？～」 山田俊弘先生 （広島大学大学院統合生命科学研究科教授）	高1（2）
11月11日（金）	「アフリカから学ぶ不確実な世界との向き合い 方」 伊藤千尋先生（福岡大学人文学部准教授）	高1（1）

②教員研修

【探究学習】

拠点校主催の探究職員研修

拠点校事業のひとつとして、R3年度より、探究活動についての教員研修を県内の連携校を含むほぼ全ての私立・公立高校へ案内し実施している。R4年度は以下の表に記載した2回の研修を実施した。昨年度のアンケートの要望も踏まえ、生徒の探究成果の事例報告やインタビューを取り入れるなど、実際に探究活動を行っている生徒の様子がうかがえる内容を意識して行った。

期日	講師	内容	外部参加	形態
5/18	鳥居教諭 榎本教諭	①WWLについて ②問い立て（リサーチクエスト）について	長崎県教育庁高校教育課、 口加、壱岐商業、佐世保商業 佐世保北、西陵、諫早東、諫早 猶興館、長崎北、佐世保南、 鳴滝（定時制夜間部）、壱岐 純心女子、向陽	ハイブリッド （対面＋遠隔）
7/7	榎本教諭	研究手法について	長崎特別支援	ハイブリッド （対面＋遠隔）

外部主催の探究職員研修

本校探究学習担当の榎本英人教諭が下記研修会にて探究活動についての実践報告を行った。

- ・マイプロを知ろう、語ろう。探究学習の潮流とマイプロの実践事例

日時：2022年9月15日

主催：全国高校生マイプロジェクト長崎県事務局（西海みずき信用組合）

方法：オンライン

内容：探究学習の事例とマイプロでの経験について

参加者：約30名

- ・教育探究オンライン研究会

日時：2022年12月2日

主催：桜美林大学

方法：オンライン

内容：前任校と現勤校の探究の実践事例紹介

参加者：約30名

- ・冬の探究サミット2022

日時：2022年12月17日、18日

主催：株式会社トモノカイ 後援：文部科学省

方法：オンライン

内容：探究的な学びとその事例紹介（生徒の探究発表を伴走した事例を紹介）

参加者：約300名

【授業改善】

拠点校では、6月と10月に「授業改善週間」として研修期間を設定している。令和4年度は、6月に「主体的・対話的で深い学び」をテーマに、10月に「探究学習の手法」を意識した授業をテーマにして実施した。その内、10月に本校カリキュラムアドバイザーの山下龍先生を招聘し、英語科の授業を参観いただき、指導・助言をいただいた。

さらに、探究型授業の開発を主眼とし、12月6日(火)、拠点校と京都市立堀川高等学校、ベネッセコーポレーション共催による職員研修「探究型授業と学習デザイン」を開催した。京都市立堀川高等学校から橋詰忍校長、濱田悟研究部長、貴村仁研究部員の3名の先生を招聘し、本校教員の授業を参観後、授業研究会を行った。また、生徒の自走を促す「学びのアセスメント」の事例について、濱田悟研究部長に講演をいただき、その後職員の意見交換会を実施した。

本研修には九州をはじめ全国各地から対面・オンラインを含め多数の参加があり、本校教職員を合わせて200名を超える研修となった。拠点校ではさらに授業改善を進め、令和5年度には、授業開発の実践事例を提案授業として形にしていこうとする予定である。

下記に、「授業改善週間」ならびに「探究型授業と学習デザイン」の実施要項等を記載する。

授業改善週間（6月）

令和4年度長崎東中学校・長崎東高等学校 第1回授業改善週間 実施要項

- 1 目 的 生徒の「思考力・判断力・表現力」を養うことを目的に、アクティブラーニング・探究学習の手法やICTなどを用いて「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を実践・研修することによって、教師の授業力を高める。
- 2 期 間 令和4年6月8日（水）～6月17日（金）
※6月17日（金）は、授業研究会並びに職員研修会を実施する。
- 3 テ ー マ 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業
- 4 内 容
 - （1）中・高全学年を通じて、この期間を相互授業参観週間とする。
 - ①8日～16日の間に一つ、17日に一つ、合計二つの授業を参観する。
 - ②この期間に公開できる授業を、カレンダーに書き込む。
 - （2）「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力」などを身につけさせることを目的とした授業を行う。
 - （3）可能であれば、グループワークなどにICTを活用する。
 - （4）可能であれば、SDGsと関連させた授業を行う。
 - （5）授業を見学後は、感想・意見を「授業参観記録シート」に記入し、授業担当者とは図書・研修部に提出する。（中央テーブルに提出用の箱あり）
 - （6）17日に各教科が実施する研究授業を参観し、教科ごとに授業研究会を行う。

授業参観記録シート

観察者氏名(所属)：

(中 高)

日時/場所	令和4年	月	日 ()	校時/場所 ()
対 象	中 ・ 高	年	組	教科
授 業 者				(科目)
参観しての気づき	・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】			
	・「主体的・対話的で深い学び」にかかわる工夫			
ＡＬチェック	☐ 授業の冒頭で、「めあて(ゴール像)」が示された。 ☐ 適宜、授業の「見通し」を生徒に示していた。 ☐ 活動では生徒に時間を意識させていた。 ☐ 生徒が・安心して表現できる雰囲気づくりに努めていた。 ☐ 生徒の発表は、全体に向けて行わせていた。 ☐ 発表の際は、他の生徒に傾聴を意識させていた。 ☐ 授業の最後で、生徒自身に振り返りをさせていた。 ☐ ICT が効果的に用いられていた。			

授業改善週間（１０月）

令和４年度長崎東中学校・長崎東高等学校 第２回授業改善週間 実施要項

- 1 期 間 令和４年１０月１７日（月）～１０月２８日（金）
- 2 テ ー マ 「探究学習の手法」を意識した授業
- 3 内 容
 - （１）中・高全学年を通じて、この期間を相互授業参観週間とする。
 - ①期間内に、合計二つの授業を参観する。
 - ②この期間に公開できる授業を、各自カレンダーに書き込む。
 - （２）「探究学習の手法」を意識し、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力」などを身につけさせることを目的とした授業を行う。
 - （３）グループワーク、ＩＣＴを効果的に活用した授業を行う。
 - （４）可能であれば、ＳＤＧｓ と関連させた授業を行う。
 - （５）授業を見学後は、感想・意見を「授業参観記録シート」に記入し、授業担当者と図書・研修部に提出する。（中央テーブルに提出用の箱あり）

授業参観記録シート

観察者氏名(所属)：

(中 高)

日時/場所	令和4年 月 日 () 校時/場所 ()
対 象	中 ・ 高 年 組 教科
授 業 者	(科 目)
参観しての気づき	・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】
	・「探究的手法」にかかわる工夫
△チェック	☐ 授業の冒頭で、「めあて(ゴール像)」が示された。 ☐ 適宜、授業の「見通し」を生徒に示していた。 ☐ 活動では生徒に時間を意識させていた。 ☐ 生徒が・安心して表現できる雰囲気づくりに努めていた。 ☐ 生徒の発表は、全体に向けて行わせていた。 ☐ 発表の際は、他の生徒に傾聴を意識させていた。 ☐ 授業の最後で、生徒自身に振り返りをさせていた。 ☐ ICT が効果的に用いられていた。

授業改善研修共同企画 概要

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和4～5年度 授業改善研修 共同企画 概要

- 1 目 的 「探究型授業の開発」に取り組み、長崎東高等学校が「育成を目指す資質・能力（W L 7：①課題発見・解決力、②創造力、③情報分析・活用力、④自己表現力、⑤協働性、⑥学ぶ意欲、⑦地球市民性）の一層の伸長を目指すとともに、WWL拠点校として、先進的な授業事例の普及を行う。

(令和4年度目標) 探究型授業の理解の深化

※「探究学習」と「授業」の相関性と連動性について職員全体で改めて理解し、「深みのある授業を行うことで、よい探究ができる」というマインドを職員全体で共有する。

- 2 主 催 ベネッセコーポレーション九州支社
長崎県立長崎東高等学校／WWL管理機関：長崎県教育委員会

- 3 計画概要 ①令和4年度10月：「探究型授業」の理解：探究型授業の理解の深化
②令和5年度 6月：「探究型授業」の実践：探究型授業スキルの向上
③令和5年度10月：「探究型授業」の提案：探究型授業を県内外へ提案

4 今年度の実施内容

- ・WWL 7 の育成を図る探究型授業の授業開発を行う。
 - ・実施形態として下記の形態で実施する。
 - ①ベネッセの「探究型授業」の実践紹介…先進校事例を学び、探究型授業について知る。
 - ②授業研究週間…探究型授業を実践し、スキルを向上させる。
 - ③外部識者の講演・講評…外部識者に探究型授業を参観いただき、気づきを得る。
- ※③の講演・講評については、他校にオンライン配信を行う。
- ・本校の令和 6 年度以降の教育課程を見越し、学校設定科目の開発を踏まえる。
 - ・ベネッセ九州支社と連携し、本校ループリックと共に、ベネッセのGPSテストの生徒の伸び率にどう影響したかを分析し、事後評価まで実施する。

5 今年度の日程

- ①令和 4 年 10 月 11 日（火）16：00～16：40…ベネッセの「探究型授業」実践紹介
- ②令和 4 年 10 月 17 日（月）～28 日（金）…授業改善週間
- ③令和 4 年 12 月 6 日（火）…講演・講評（オンライン配信）

令和 4 年度授業研究会

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和 4 年度 授業研究会 実施要項

1 期 日 令和 4 年 12 月 6 日（火）

2 日 程 （8：45～ 9：30）（1校時）
9：40～10：25 2校時：公開授業①（45）
10：35～11：20 3校時：公開授業②（45）
11：30～12：15 4校時：公開授業③（45）
12：15～12：20 簡単掃除（5）
12：20～12：25 SHR（5）※生徒放課
昼 休 み
13：10～14：10 授業研究（60）
14：30～14：50 ベネッセからの情報発信（20）（視聴覚室）
14：50～15：50 基調講演（60）（視聴覚室）
16：10～17：00 職員交流会（50）（視聴覚室・社会科教室）

3 指導助言 橋詰忍 先生（京都市立堀川高等学校 校長）
濱田悟 先生（同 研究部長）
貴村仁 先生（同 研究部員）

4 公開授業時間割及び授業者

校 時	授業者	科目名	クラス	教室
2 校時 公開授 業①	川上香織・ 山元裕文	英語	中 3 - 2	中 3 - 2
	下田 秀光	情報 I	高 1 - 7	高 1 - 7
	鳥居 正洋	日本史 B	高 2 - 1	高 2 - 1
3 校時 公開授 業②	田島 尚史	美術 I	高 1 - 1・2	美術室
	隈 修司	数学探究	高 2 - 6・7	高 2 - 6
	笹井 亮佑	生物	高 2 - 6・7	高 2 - 7
4 校時 公開授 業③	進藤 朋子	理科	中 3 - 1	中 3 - 1
	高濱 良有	総合英語	高 2 - 6	高 2 - 6
	稲尾 一彦	現代文 B	高 2 - 7	高 2 - 7

5 授業研究場所

時 間	教 科	場 所
13:10	英語	視聴覚教室
～	理科	社会科教室
14:10	地歴公民	高 1 - 5

時 間	教 科	場 所
13:10	数学・情報	高 1 - 4
～	国語	高 1 - 3
14:10	芸術	高 1 - 2

【WWL 事業研究・実践発表】

2 月 1 4 日に、長崎県教育委員会が主催する「令和 4 年度研究指定等にかかる研究報告会」にて、本校 WWL 推進室長の鳥居正洋教諭が実践報告を行った。オンラインによる約 100 名の参加者へ、WWL 事業における探究学習プログラムやループリック等を用いた評価などについて説明し、広く成果を普及した。参加者からのフィードバックの一部を記載する。

- 教科の授業展開と探究活動が一体となっていることがよくわかりました。
- 世界との協働での取り組み、スケールが大きかった。
- 平和を切り口に探究を始め、SDGs へ視野を広げていくという流れや中学校から高校までの 6 年間で計画立てて実践しているのは素晴らしいことと思います。また、外部との連携などについても生徒を主に進めていることなども大変参考になりました。これだけ壮大なプロジェクトを企画運営するのは大変かと思いますが、勉強させていただきました。ありがとうございました。
- 生徒の自走を促す仕掛けが参考になりました。
- E-time のような、生徒に時間を返す取り組みはとても大切だと思います。本校でもそのような方向に舵をきればな、と思う毎日です。
- 高校生が中学生を指導する、という縦のつながりは有益だと感じました。また、探究の学びを教科学習にいかに取り入れていくかを検討していきたいと思います。
- 授業においても探究に取り組んでいる点など、勉強になりました。
- 研究協議でも話が聞けましたが、カリキュラム開発に関するお話がとても参考になりました。ありがとうございました。

- すばらしい取組で圧倒されました。もっと外部に積極的に出て行かないといけないと痛感しました。
- 大変高度なことをされていて、素晴らしいと思いました。
- 外部機関との連携が大変ではないかと感じた。
- 自己評価のルーブリックが参考になった。
- 学年を重ねていくごとにステップアップされていて魅力的な取り組みだと思いました。
- 他県も含め、さまざまな人とつながっている点が良いと感じた。
- E-time といった生徒の主体的な学びの時間を設定していることが勉強になりました。主体性があるからこそ、協働性や社会性も伸びているのだと感じました。
- 中学1年生から高校3年生までの探究活動が体系化されていて、高校生が中学生に助言を行うなど教員にやらされるのではなく生徒自身の力で活動が進んでいくという点にレベルの高さを感じました。本校では1年次にグループ探究、2年次に個人探究という形をとっていますが、こちらが決めたグループではなく生徒同士でチーム編成をさせたり、希望者は個人探究も可能であったりという柔軟さも勉強になりました。
- 中高一貫校の強みを生かした6年間を通じた取り組みは、レベルが高く、凄みを感じました。
- 他校との連携が魅力的だと感じた。
- 様々な取り組みが計画的になされており、その成果の分析・報告もなされていた。
- 多くの外部機関と連携されているだけでなく、各教科でも充実した探究となっている様子が拝察されとても良い活動だと感じた。
- 取り組み自体が素晴らしく、発表内容も充実しており、大変参考になった。
- どういったことをしているか具体的には知らなかったので知ることができて良かった。
- 6年使って体系的にされているので、生徒にとっていい学びになるのだろうと思いました。
- ルーブリックの使用や各教科での探究型の授業実践など、本校でも取り入れられそうなことがあり、大変参考になった。

第3章 高校生国際平和会議に向けた取組

(1) 第2回WWL長崎フォーラム

R5年度の開催を計画している「高校生国際平和会議」に向けたプレ大会として、本校の高校3年生全員と県内外の連携校11校が参加した本フォーラムを7月4日にハイブリッド方式で開催した。探究成果の発表とともに、代表生徒によるパネルディスカッションを行った。さらに国際会議実行委員による趣旨説明等を行った。詳細なプログラムについては、第2章(2)④に記載する。

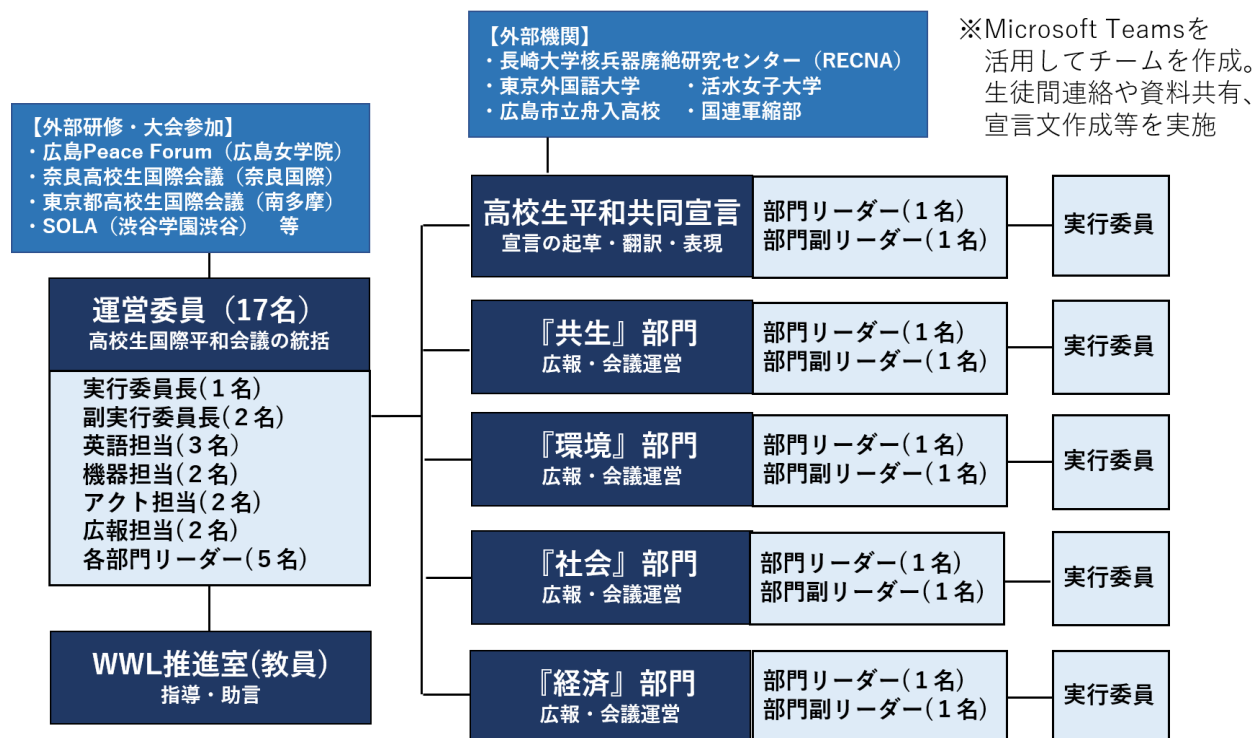
(2) 生徒主体による会議準備

拠点校では、構想計画に基づいて令和3年度に、高校生国際平和会議に向けた生徒実行委員会（拠点校高校1年生59名）を予定どおり編成した。また、令和4年度は、生徒実行委員会を88名に拡大し、組織化して活動した。総合的な探究の時間等を活用し、ミニ実行委員会を20回以上実施し会議内容等について協議した。また、同会議では「高校生平和共同宣言」を採択することを計画しており、長崎大学核兵器廃絶研究センターにも宣言文に関して助言をいただいた。令和5年3月には、ニューヨーク国連本部軍縮部（UNODA）および、政府開発援助（ODA）職員と宣言文の内容について意見交換し、中満泉国連事務次長にも謁見した。

「高校生国際平和会議」の概要と生徒主体の委員会組織図を、下記に記載する。

【高校生国際平和会議 概要】

- 1 期日 令和5年7月28日（金）
- 2 場所 長崎ブリックホール（長崎県長崎市茂里町2-38）
- 3 対象 国内外の高校生 ※拠点校の活動主体は高校3年生（現2年生）
※アメリカ（ハワイ）、オランダ、中国（上海市・浙江省・福建省）、
韓国（釜山）、ベトナム（ハノイ）、タイ、ロシア、ウクライナ等と連携
- 4 目的 国内外の高校生が多様なテーマに基づき「平和」について協議するなかで、
高度な学びの成果普及を図るとともに、国際平和を希求する姿勢を育む。
- 5 内容 ①SDGs17の項目を下記4部門に分類し各部門別に国際課題について協議する。
 - ・『共生』（メインSDGs 10, 16, 17）
 - ・『環境』（メインSDGs 6, 7, 12, 13, 14, 15）
 - ・『社会』（メインSDGs 1, 2, 3, 4, 5, 11） ・『経済』（メインSDGs 8, 9）②『高校生平和共同宣言』を国内外の高校生と多言語で作成し共同発表を行う。



（３）他の拠点校等が開催する国際会議への参加

連携校である広島女学院高校が主催した「広島 Peace Forum2022」、奈良県立国際高校主催の「第1回高校生国際会議」、渋谷教育学園渋谷中高主催の「SOLA2022 模擬国連」、東京都立南多摩中等教育学校主催の「[Diverse Link Tokyo Edu](#)」、および米国ミドルベリー国際大学院大学のジェームズ・マーティン不拡散研究センターが主催するCIF（クリティカル・イシューズ・フォーラム）等の国際会議にオブザーバー参加を含む延べ21名の生徒と7名の教員が参加し、会議運営について学んだ。

下記に参加した国際会議、次項にワールドワイドレポートを記載する。

【国際会議に向けたイベントへの参加】※参加数は生徒のみ計上（除教員）、全てオンライン参加

期日	主催・名称（開催地）	参加人数
4/23～ 4/24	特定非営利活動法人日本水フォーラム 第4回アジア・太平洋水サミット（熊本市）	高3（4）
4/30	ミドルベリー国際大学院ジェームズマーティン不拡散研究センター CIF「クリティカル・イシューズ・フォーラム」（オンライン）	高2（3）
7/29	奈良県教育委員会・奈良県立国際高等学校 共催：国連世界観光機関（UNWTO） 第1回高校生国際会議（オンライン）	高2（3）
8/5	広島女学院高校 広島 Peace Forum 2022（広島市）	高2（2）
8/18	渋谷教育学園渋谷高等学校 模擬国連 SOLA 国際会議（オンライン）	高2（6）
11/12	東京都教育委員会・東京都立南多摩中等教育学校 Diverse Link Tokyo Edu （オンライン）	高2（3）

Nagasaki Higashi

World-Wide Report

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなG人材の育成



2022年度 第12号

October 5, 2022

第1回国際会議（奈良県教育委員会主催）に参加しました！

7月29日（金）、奈良県教育委員会主催の「第1回高校生国際会議」に高2国際会議実行委員の奥村優里奈さん、西田桃子さん、谷口愛衣さんが参加しました。

国際教養大学長モンテ・カセム氏の講演の後、各校がプレゼンテーションを発表。その後、国際課題について議論しました。使用言語はすべて英語です。

3人は現在取り組んでいる多言語による平和共同宣言について発表し、グローバルな諸課題の解決策について意見を交わしました。参加を通して教養と英語表現力の高まりに加え、生徒主体で大会を運営する姿勢を学びました。

本校は来年度の令和5年7月27日（木）、28日（金）に本校主催で国際会議の実施を控えています。生徒たちは取組へ決意を新たにすることができました。



広島平和フィールドワーク、広島PeaceForum2022に参加しました！

8月3日（水）～5（金）、広島平和フィールドワークと広島PeaceForum2022に、高2国際会議実行委員の橋本果林さん、溝口理子さんが参加しました！

3日（水）は、平和記念資料館や原爆ドームなどを訪れ見識を深めました。これまで長崎で平和学習に取り組んできた2人は、「同じ日本の被爆地として、広島も学んでいく必要性を感じた。もっと学びたい」と想いを新たにしていました。

4日（木）は、本校WWL連携校である広島市立舟入高校を訪れ、各校の探究活動について情報交換をし、次年度に本校で行われる国際会議について紹介しました。舟入高内にある被爆の遺構を紹介していただき、被爆地で学ぶ同志として「平和」について想いを共有しました。さらに、「折り鶴タワー」にて、西条農業高校、広島高校、吉田高校、尾道北高校、尾道東高校の生徒と交流し、互いに取り組んでいる平和探究について紹介し合い、意見交換を行いました。「みなさんがいう『平和』とはどういう意味か」「国際会議のゴールは何か」様々な意見をいただき、真摯に答えるなかで、大きく成長を遂げていきました。



5日（金）は、広島女学院高校主催の広島PeaceForum 2022に参加しました。本Forumは国内外から集った高校生がポスターセッションを行うもので、対面の参加は3年ぶりとなりました。

今年のテーマは「平和を広める新しい方法」。2人はこれまで行ってきた日中友好交流やハワイ平和交流を経て、国際会議を開き平和共同宣言を行う今取り組んでいるプロジェクトについて発表。大きな賛同を得て、他校の生徒から「自分たちも参加したい」との声をいただきました。

韓国や沖縄の生徒ともオンラインの発表を参観し対話交流を行うなど、平和の日を迎えるにふさわしい交流の一日となりました。

第4章 評価（目標の進捗状況、成果・検証）

（1）生徒の変容

①民間テスト・自己評価

SGH 指定時（H27～R1）からの変容を分析するために、H28 から同一の民間テスト（ベネッセコーポレーションが実施している批判的・協働的・創造的思考力を測る GPS-Academic（Global Proficiency Skills）テスト）を用いている。

※H28～R1 は SGH 指定時、R2 は WWL カリキュラム開発拠点校指定（予算措置なし）

R3～R4 は WWL 拠点校指定（予算措置あり）

※GPS テストは高1・高2とも12月に受検し、A評価が「高校卒業レベル」に相当する。

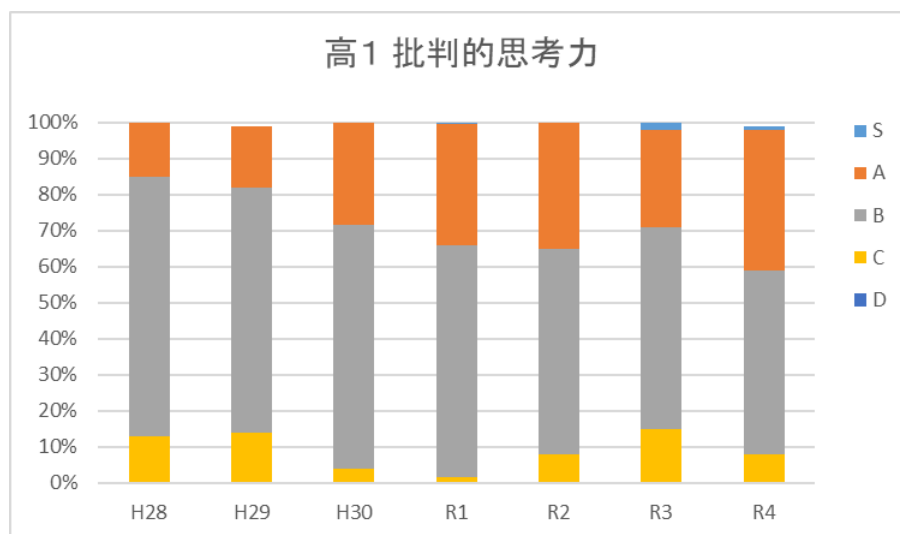
【高1】

高1							
批判的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%
A	15%	17%	28%	34%	35%	27%	39%
B	72%	68%	68%	64%	57%	56%	51%
C	13%	14%	4%	2%	8%	15%	8%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

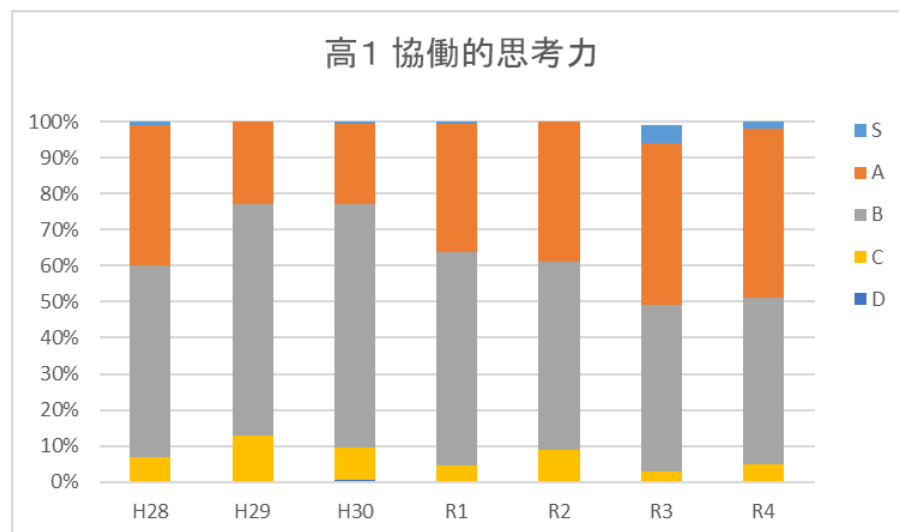


「批判的思考力」においては、これまで0%であったS評価が昨年度より少数ではあるが、表れていることは評価できる。また、SとA評価の合算が40%と7年間で最高の数値である。批判的思考力の評価は、「情報を抽出し吟味する力」や「論理的に組み立てて表現する力」が基準となっており、次項の全国との比較でも高いことが示されている。また、前年度C評価が15%と6年間で最大となっており、「情報を抽出し吟味する力」が弱いというデータが判明したため、各教科で授業改善を図ってきた。この成果として、C評価の割合も少なくなっている。

高1							
協働的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	1%	1%	0%	0%	0%	5%	2%
A	39%	23%	23%	36%	39%	45%	47%
B	53%	64%	68%	60%	52%	46%	46%
C	7%	13%	9%	4%	9%	3%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

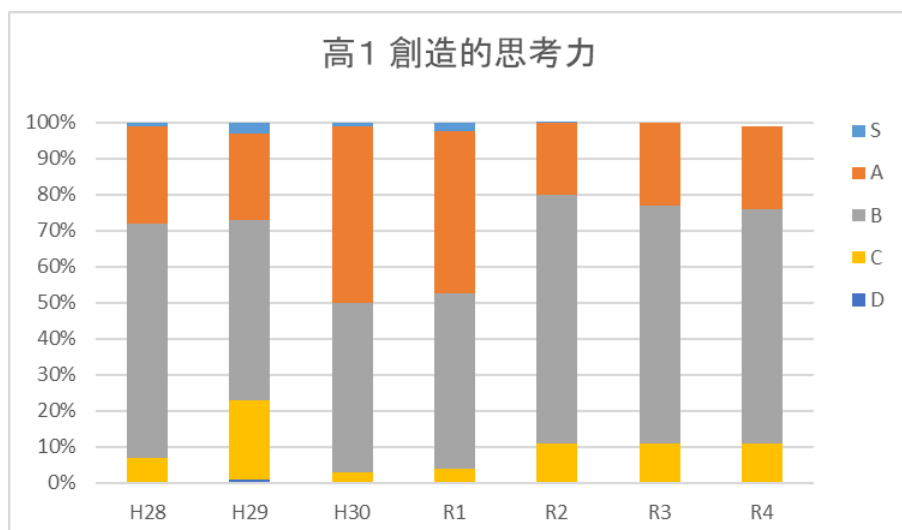


「協働的思考力」では、S評価・A評価ともに過去最高の結果であった昨年度と同様の結果となった。このことは、グループによる探究学習を推進し、200を超える外部機関とフィールドワーク等の連携を実施したことによるものと考察する。

高1							
創造的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	1%	3%	1%	2%	1%	0%	0%
A	27%	24%	49%	45%	20%	23%	23%
B	65%	50%	47%	49%	69%	66%	65%
C	7%	22%	3%	4%	11%	11%	11%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する
問題をみいだし解決策を生み出す



「創造的思考力」では、SGH 指定時の 4・5 年目である H30 と R1 の A 評価と比較すると、R2～R4 は 20%以上低下している。この結果は、コロナ禍によるペアワークやグループ活動が全ての教育活動で大きく制限されていることに起因していると考えられる。次年度は、情報を関連づけて類推する力や、問題をみだし解決策を生み出す力の育成に向けて授業改善を図りたい。

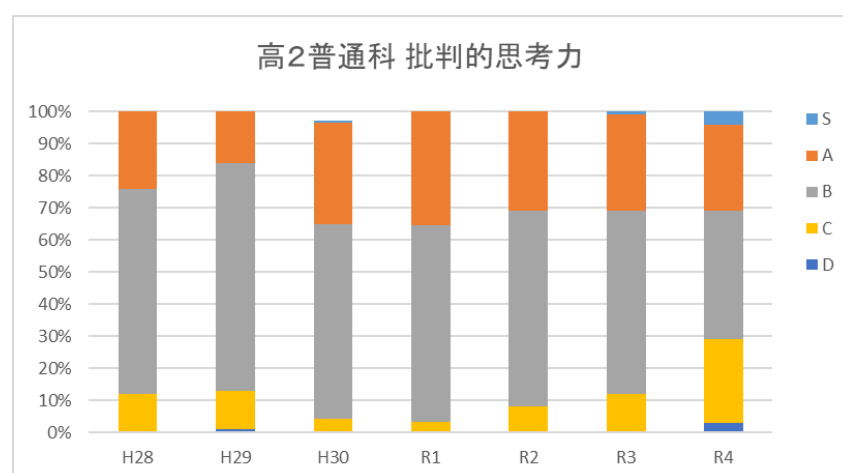
【高2 普通科】

高2 普通科							
批判的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	0%	0%	1%	0%	0%	1%	4%
A	24%	16%	32%	35%	31%	30%	27%
B	64%	71%	61%	61%	61%	57%	40%
C	12%	12%	4%	3%	8%	12%	26%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%	3%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

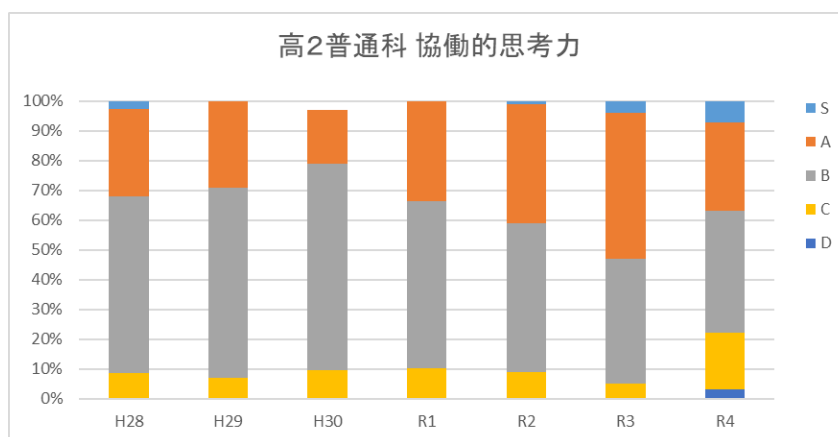


高校2年生は普通科・国際科ともに1年次において、第2章（1）「カリキュラム開発」の項で記載したとおり、R2年度より新しく運用したカリキュラム下で学んでいる。また、R3年度はH28～R2とは異なり、週35単位から週33単位に減じ、週2時間は学年裁量で探究学習や興味関心のある教科・科目を深く学んだり、復習することができる「主体的な学びの時間（E-Time）」として活用している。これまでは普通科の生徒と国際科の生徒はそれぞれで探究班を編成する傾向があったが、今年度は文理融合に加えて、普通科と国際科の生徒が混在した班編成が多くみられた。上記の「批判的思考力」の表からは、S評価が4%であり、過去6年間と比較すると大きな有為差が見られる。一方で、CやD評価の割合も多くなっている。特に「情報を抽出し吟味する」力が過年度より低い傾向がみられた。

高2 普通科							
協働的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	3%	0%	0%	0%	1%	4%	7%
A	29%	29%	18%	34%	40%	49%	30%
B	59%	64%	70%	56%	50%	42%	41%
C	9%	7%	9%	10%	9%	5%	19%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

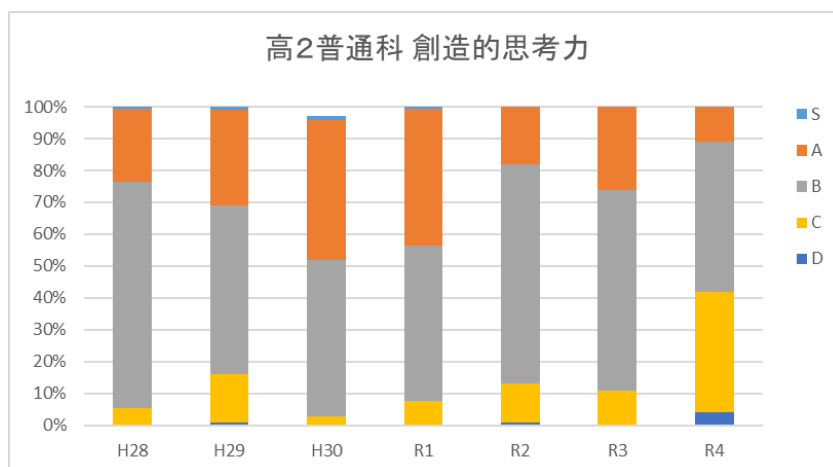


次に、「協働的思考力」について分析すると、過去6年間と比較すると、S評価（7%）の割合が高いことがわかる。一方で、C評価（19%）やD評価（3%）の割合も多くなっている。S評価の増加については、探究活動において200を超える多様な外部機関と連携し、インタビューやアンケート調査などを実施したことが要因として考えられる。C・D評価の増加に関しては、コロナ禍によって各教科学習におけるグループやペアでの意見交換や討論がほとんど実施できなかったことが原因であると考察する。

高2 普通科							
創造的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	1%	2%	1%	1%	0%	0%	1%
A	23%	30%	44%	43%	19%	26%	11%
B	71%	53%	49%	49%	69%	63%	47%
C	5%	15%	3%	8%	12%	11%	38%
D	0%	1%	0%	0%	1%	0%	4%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する
問題をみいだし解決策を生み出す



「創造的思考力」についても、これまでと比較するとCやD評価の割合が増加する結果となった。

ベネッセコーポレーションによると、「創造的思考力」は教科学力と一般的に相関がみられるとのことであるが、本校では特に教科学力の減退は見てとれなかった。GPS テストからは、「情報を関連づける・類推する」力が弱いというデータが出ているため、資料をもとにより解決策を選択したり他の事例に応用したりするような取組が必要であろう。

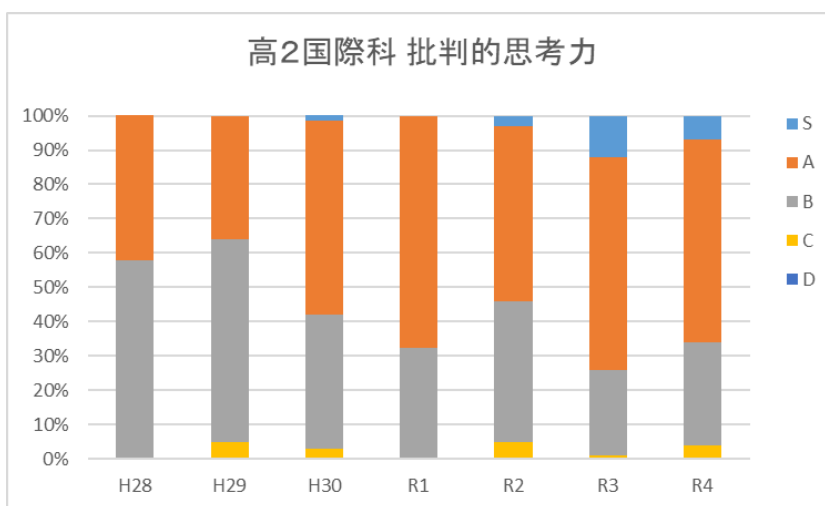
【高2国際科】

高2 国際							
批判的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	0%	0%	3%	0%	3%	12%	7%
A	43%	36%	57%	68%	51%	62%	59%
B	58%	59%	39%	32%	41%	25%	30%
C	0%	5%	3%	0%	5%	1%	4%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

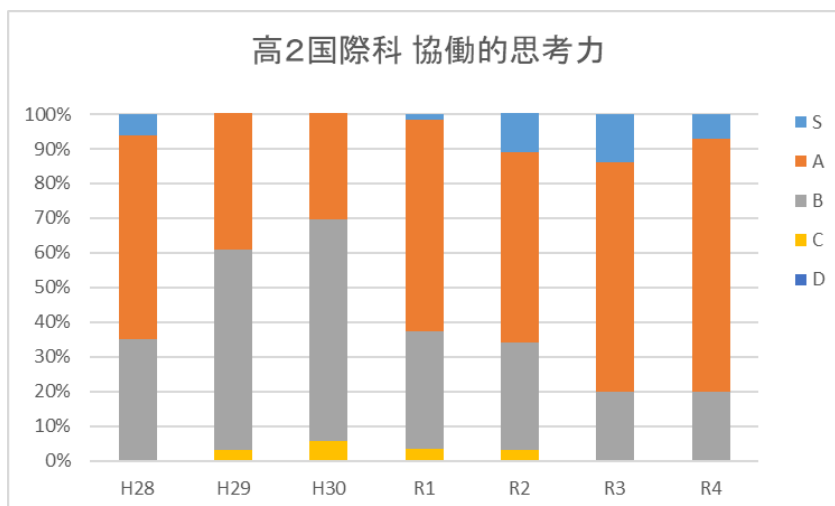


高校2年国際科2クラスの「批判的思考力」のS評価は、昨年度（12%）ほどではないものの、7年間の中で2番目に高い（7%）割合となった。国際科に特徴的なカリキュラムとして、2つの学校設定科目「サイエンス特論」と「時事英語」があり、実験・考察、文献調査・レポートなどの学習活動が展開されている。探究学習の学年担当者は、WWL プログラムでは SDGs を軸に地球規模の課題について様々な観点から考察しようという取り組みがあり、従来よりも文理を融合した探究学習が推進されていることも要因の一つではないか、と考察している。

高2 国際							
協働的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	6%	0%	0%	2%	12%	14%	7%
A	59%	40%	32%	61%	55%	66%	73%
B	35%	58%	64%	34%	31%	20%	20%
C	0%	3%	6%	3%	3%	0%	0%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

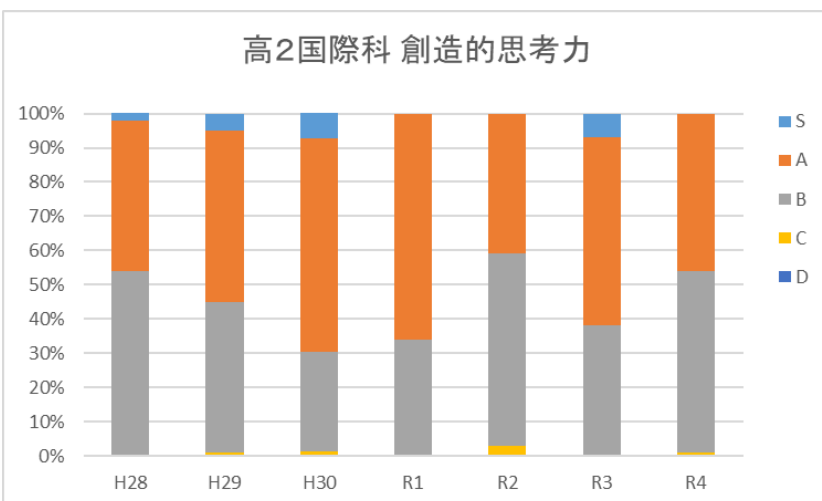


昨年度と同様に、「協働的思考力」のS評価（7%）とA評価（73%）の割合が過去最高の80%となった。また、BやC評価の割合もH28～R2と比べると減少している。要因のひとつとして、R2年度からSDGsを軸とした探究学習を推進したことや、社会課題に対して文理を融合した複数の視点から班員と協力して調査活動を実施したことが挙げられる。また、従来よりも官公庁・企業・NPO法人との連携が増えてきたことによって、「協働的思考力」の評価項目のひとつである「社会に参画し人と関わりあう」態度が涵養されているのではと考える。

高2 国際							
創造的思考力							
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	3%	5%	9%	0%	0%	7%	0%
A	44%	50%	62%	66%	41%	55%	46%
B	54%	44%	29%	34%	56%	38%	53%
C	0%	1%	1%	0%	3%	0%	1%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する
問題をみいだし解決策を生み出す



「創造的思考力」におけるA評価以上の割合は、本年度は46%（S評価0%、A評価46%）であり、過去2番目に低い数値であった。ベネッセコーポレーションによると、「創造的思考力」は教科学力と中程度の相関があるとのことであるが、高2普通科と同様に、過年度と比較して教科学力の低下は見られないことから、別の要因が考えられる。要因のひとつとしては、評価項目である「情報を関連づける・類推する」活動や「問題をみだし解決策を生み出す」ような取り組みが、探究学習や教科学習において少なかったことが考えられる。次年度は「教科の探究化」をテーマとした授業改善に取り組むことが決定されていることから、上述の評価項目に関した学習活動を啓発したい。

【全国集計との比較】

次にGPSテストの全国集計（高1～高3の合算）と本校の高校1年生を比較する。

※黒塗の評価（S）は0%ではなく、評価（S）自体が存在しないことを示す

全国（高1～高3）

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	0.9%	4.8%		2.2%	5.7%		0.3%	1.0%	
A	27.7%	22.9%	12.0%	42.0%	29.4%	29.2%	18.9%	13.5%	13.8%
B	54.4%	32.5%	65.1%	48.5%	36.2%	61.7%	63.3%	37.6%	65.9%
C	16.9%	31.9%	22.5%	7.2%	24.4%	8.6%	17.4%	40.1%	20.0%
D	0.1%	7.9%	0.3%	0.1%	4.4%	0.6%	0.1%	7.9%	0.3%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

長崎東 高1

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	0.8%	5.2%		2.0%	6.4%		0.0%	0.4%	
A	39.4%	29.3%	20.5%	47.4%	30.9%	36.5%	23.3%	14.9%	16.9%
B	51.4%	36.1%	66.7%	45.8%	40.2%	59.0%	65.5%	41.0%	69.5%
C	8.4%	24.9%	12.9%	4.8%	19.3%	4.4%	11.2%	39.0%	13.7%
D	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

S評価とA評価を合算すると、ほぼ全ての項目で全国集計よりも高い数値である。特に、「論理的に組み立てて表現する」力におけるA評価の割合は20.5%（全国集計12.0%）であり、高い数値を示した。全国集計は、高校1年生から高校3年生までの合算であることから、本校の高校1年生は3つの思考力が高いことがわかる。

長崎東 高2

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	2.5%	7.1%		4.1%	10.8%		0.0%	2.1%	
A	37.8%	33.6%	13.7%	58.1%	34.9%	43.2%	25.7%	17.8%	17.4%
B	53.5%	35.3%	73.0%	35.7%	36.1%	54.4%	67.2%	44.8%	72.2%
C	6.2%	21.6%	13.3%	2.1%	16.2%	2.5%	7.1%	32.8%	10.4%
D	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

次に、高校2年生の結果を全国集計と比較すると、1年生と同じく、ほぼすべての項目でSおよびA評価の割合が高いことがわかる。「国語探究」「数学探究」「英語探究」「サイエンス特論」「中国語」など幅広く学べる新しい教育課程の下、GPSテストで測定されるグローバル人材に求められる思考力が身につけてきたことが考察できる。

課題としては、批判的思考力のうち「論理的に組み立てて表現する力」のA評価が、高1の20.5%に対して、高2は13.7%と低い割合になっていることである。経年比較でも高1次は12.2%であったことから、1年間でそれほどの伸びは認められない。本年2月に大分大学との連携プログラム「論文講座」を早期に実施するなど、高2での学習プログラムには改善が必要である。一方、高1が同一テストにおいて、高2を上回る結果となっていることは評価に値する。新学習指導要領の下、「論理・表現I」など新しい教科・科目での学習が高い効果をもたらしていると推論できる。

長崎東 R3 高1

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.8%	5.5%		5.2%	11.1%		0.0%	1.8%	
A	26.9%	27.3%	12.2%	45.4%	35.1%	23.6%	22.5%	15.1%	16.6%
B	56.1%	28.0%	60.5%	46.1%	39.5%	68.3%	66.4%	43.5%	64.6%
C	14.8%	33.6%	26.9%	3.3%	12.5%	7.7%	11.1%	33.9%	18.5%
D	0.4%	5.5%	0.4%	0.0%	1.8%	0.4%	0.0%	5.5%	0.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

経年による比較分析（昨层高1次の受検結果からの変容）からも、すべての評価項目において、1年前よりもA評価以上の割合が伸びていることがわかる。特に、協働的思考力の「社会に参画し人と関わり合う力」（A評価23.6%→43.2%）が大幅に伸びている。これは昨年度の高2（32.9%）と

比較しても高い数値であり、外部連携が進んでいることの表れと考えられる。

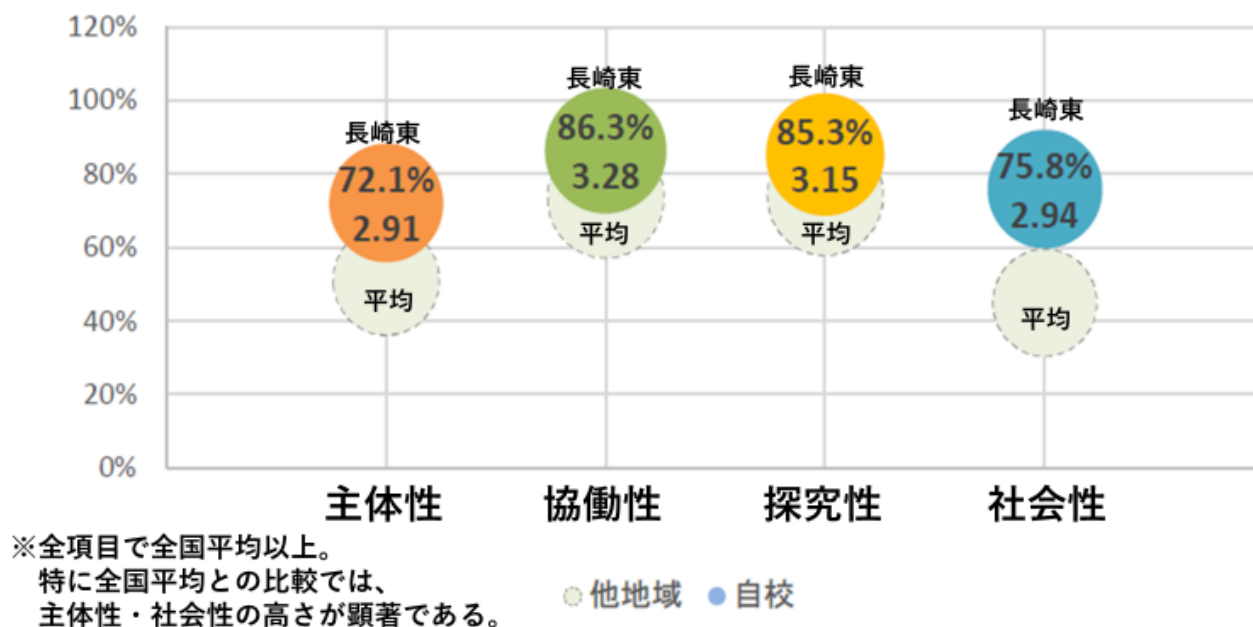
※参考資料：ベネッセコーポレーションによるCAN DO（ループリック）

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	☐ 目的に応じて自ら必要な資料を探し出し、情報を取り出すことができる ☐ 情報の成り立ち・背景を踏まえて、内容の正しさを判断できる	☐ 知識(教養)と資料の情報を組み合わせ、説得力と納得感のある主張(結論)とその根拠を提示できる ☐ 効果的な工夫された表現を用いて、主張とその根拠とをつなぐ説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを客観的に理解し、常にそれらを尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを認めつつアイデアを妥協して建設的に合意形成できる	☐ 資料の範囲を超えて、身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる ☐ 問題解決の主体者として、他者と刺激を与えあいアイデアを妥協させながら解決策を検討できる	☐ 知識(教養)と資料とを組み合わせ、問題を特定し、複数の解決策を提案・比較検証したうえで、最善の解決策を選択できる ☐ 情報の成り立ち・背景も踏まえて問題を一般化し、他の事例の解決に応用できる	☐ 資料の範囲を超えて、問題を構造化して解決すべき課題を設定し、効果的で実現可能性が高い解決策を提案できる ☐ 解決策を問題の背景や経緯も踏まえて一般化し、他の事例に適切に応用することができる
A	☐ 提示された資料から、目的に応じて情報を取り出すことができる ☐ 情報の正しさを、客観的に評価できる	☐ 資料の情報の範囲内で、説得力のある主張(結論)やその根拠を提示できる ☐ 主張とその根拠とを結びつけた、論理的な説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを理解し、必要な場面でそれらを尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを指摘しながら、一定の条件下で合意形成できる	☐ 資料全体に目を配り、必要に応じて身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる ☐ 問題の解決に主体的に参画し、他者とアイデアを出しあいながら解決策を検討できる	☐ 資料をもとに、問題を特定し、複数の解決策を比較検証したうえで、よりよい解決策を選択できる ☐ 問題を一般化し、他の事例の解決に応用できる	☐ 問題の本質を的確にとらえ、解決すべき課題を設定し、解決の条件をすべて満たした解決策を提案できる ☐ 解決策を一般化し、他の事例への応用を検討することができる
B	☐ 何らかの指示に従って情報を取り出すことができる ☐ 情報を分類したり区別したりして、評価できる	☐ 資料の情報の範囲内で、適切な主張(結論)や根拠を提示できる ☐ 主張とその根拠とを結びつけた説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを把握し、自分なりの観点で尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを確認することができる	☐ 資料の問題について、身近なこととの共通点に目を向けることができる ☐ 問題解決の実行者を支援する立場で、他者とともに解決策を検討できる	☐ 条件にそって、よいと思う解決策を選択できる ☐ 提示された事例と他の事例との関連性を指摘できる	☐ 問題の枠組みを把握し、解決のための条件を満たした解決策を提案できる ☐ 解決策の構造を把握し、その実効性を検討できる
C	☐ 指導に従って、情報を取り出したり、評価したりすることができる	☐ 何らかの主張(結論)や根拠を提示できる ☐ 不明確ながらも、主張とその根拠とを結びつけようとする	☐ 異なる文化圏には異なる信念や価値観があることを知っており、指導に従ってそれを尊重できる ☐ 指導に従って、相互にアイデアを共有できる	☐ 資料の問題について、その解決の必要性や、他者と協働することの必要性を理解できる	☐ 指導に従って、何らかの解決策を選択したり、他の事例との関連性を理解したりすることができる	☐ 問題の構成要素を把握し、解決のための条件を一部満たした解決策を提案できる ☐ 解決策の要素を部分的に取り出し、その実効性を検討することができる
D	☐ 自分なりの観点で、情報を取り出したり、評価したりする	☐ 無解答または評価外	☐ 異なる文化圏には異なる信念や価値観が存在することを理解できる ☐ 相互にアイデアを共有することの必要性を理解できる	☐ 無解答または評価外	☐ 自分なりの観点で、何らかの解決策を選択したり、関連性をみいだしたりすることができる	☐ 無解答または評価外

次に、R 2 年度より 3 年間の期限で採択されている一般財団法人三菱みらい育成財団「心のエンジンを駆動させるプログラム」による助成（年間 200 万円）に関わる、生徒（高 1 ～高 3）自己評価結果を下記に示す。

※%の下数字（2.91, 3.28, 3.15, 2.94 は前年度との差）

【自己評価の全国平均値との差 令和 4 年度 6 月実施分】



「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の 4 つの評価項目すべてにおいて、他地域（50 校）平均を超えていることがわかる。特に他地域の平均を大きく上回っている「主体性」に関しては、R 2 年度より週 2 時間設定している「主体的な学びの時間（E-Time）」、自らが設定した問いを主体的に探究する「総合的な探究の時間」、教科の探究化へ向けた授業改善、生徒主体の学校行事など教育活動全体にわたって主体的な学びが展開されていることによるものと考察する。

「社会性」についても他地域平均を大きく上回っていることが示されている。このことは、R 2 年度から述べ 300 を越える大学・企業・NPO・官公庁等と連携し、SDGs を軸にした社会課題の解決へ向けた探究学習を推進してきた成果と考える。

また、次表の青枠の最下段で示された評価項目 16「日本や世界の課題の解決方法について考える」では、昨年度比 7.95 ポイントと最大の伸び幅を記録しており、地域課題から日本や世界の課題へと広く発展的に取り組む探究学習が定着していることの表れと推察する。一方で、14「地域の魅力や資源について考える」の項目では、前年度から 4.16 ポイント下降している。運営指導委員会でも指摘いただいたが、「地域の課題」という表現からは、「地域の問題点」と生徒はとらえている傾向があるため、「地域の利点をさらに伸ばす」といった視点で探究学習に取り組むことも勧めたい。

【自己評価の小項目過年度比・全国比（抜粋）】

● 10pt以上の増加 ● 0～10ptの増加 ● 減少

	全体 割合(%)		全校	
			昨年度との差	他地域との差
			差(pt)	差(pt)
主体性 に関わる学習活動	72.1%		● 4.57	● 21.01
5 自主的に調べものや取材を行う	88.7%		● 2.21	● 16.47
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	55.5%		● 6.94	● 25.56
協働性 に関わる学習活動	86.3%		● 1.20	● 12.87
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	94.3%		● 1.31	● 12.78
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	96.3%		● 0.98	● 8.21
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	68.3%		● 1.30	● 17.62
探究性 に関わる学習活動	85.3%		● 1.32	● 11.16
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	76.8%		● -0.05	● 4.13
11 話し合った内容をまとめる	91.8%		● 2.23	● 12.27
12 活動、学習のまとめを発表する	87.0%		● 1.77	● 15.48
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	85.3%		● 1.34	● 12.76
社会性 に関わる学習活動	75.8%		● 2.55	● 30.82
14 地域の魅力や資源について考える	65.3%		● -4.16	● 27.90
15 地域の課題の解決方法について考える	77.3%		● 3.87	● 36.30
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	84.8%		● 7.95	● 28.28

【WWL 7に係る生徒の変容】

次に WWL 事業で新たに設定した 7 つの資質・能力、マインドセット（WWL 7）に関する生徒の自己評価結果について検証する。拠点校ではルーブリックを独自に開発しているが、昨年度、運営指導委員の指摘を受け、より生徒の自己評価が的確に反映されるよう文言を改定するとともに、5 段階評価から 4 段階評価へと改訂した。ここでは、新カリキュラムによる教育活動の中核を経験してきた、高 1 と高 2 に焦点を当てて記載する。

■高 1（単位：％）

課題解決・発見力				創造力				情報分析・活用力			
	1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期
S	4.6	8.7	17.1	S	10.2	13.0	18.4	S	7.6	16.9	22.3
A	40.1	58.0	56.7	A	32.0	40.6	49.8	A	38.6	45.9	48.4
B	48.2	32.4	26.3	B	49.7	42.0	30.0	B	42.6	33.3	27.9
C	7.1	1.0	0.0	C	8.1	4.3	1.8	C	11.2	3.9	1.4

自己表現力				協働性				学ぶ意欲			
	1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期		1学期	2学期	3学期
S	9.6	15.0	19.9	S	17.3	35.3	37.3	S	19.8	21.3	30.7
A	32.0	48.3	51.4	A	42.6	40.1	48.4	A	45.2	43.5	48.4
B	46.7	31.4	26.9	B	34.5	20.8	12.9	B	27.9	27.5	20.0
C	11.7	5.3	1.9	C	5.6	3.9	1.4	C	7.1	7.7	0.9

地球市民性			
	1学期	2学期	3学期
S	11.2	15.9	34.0
A	43.1	51.7	38.1
B	36.0	26.6	24.7
C	9.6	5.8	3.3

ベネッセコーポレーションの GPS テストでの結果では、情報を抽出し吟味する力」や「論理的に組み立てて表現する力」が基準となる批判的思考力の評価が過年度で最も高い数値が出ていたが、自己評価ルーブリックにおいても、「情報分析・活用力」の S 評価と A 評価の割合が 1 年間で上昇しており、相関がみられる。探究的な学びを深めるための授業実践や、探究活動における文献調査やデータ分析などの取組により、上昇がみられたものと評価できる。

また、GPS テストで評価が高かった協働的思考力についても、「協働性」との相関がみられる。3 学期には 85%以上の生徒が S 評価（37%）または A 評価（48%）と回答しており、7 つの評価項目で最も高い割合である。生徒のメタ認知能力の高さが表れている。

■高2（単位：％）

課題解決・発見力			
	1学期	2学期	3学期
S	4.6	11.5	30.0
A	55.3	61.9	64.6
B	38.4	25.5	7.2
C	1.7	1.1	0.0

創造力			
	1学期	2学期	3学期
S	6.3	12.2	27.8
A	46.0	54.0	59.1
B	44.7	31.7	14.3
C	3.0	2.2	0.4

情報分析・活用力			
	1学期	2学期	3学期
S	5.9	15.1	32.1
A	52.7	62.6	57.4
B	39.2	19.4	11.4
C	2.1	2.9	0.4

自己表現力			
	1学期	2学期	3学期
S	5.5	13.3	22.4
A	47.3	53.2	65.4
B	43.9	30.2	12.7
C	3.4	3.2	0.8

協働性			
	1学期	2学期	3学期
S	21.9	34.5	54.4
A	51.9	51.8	38.8
B	25.3	12.6	6.8
C	0.8	1.1	0.8

学ぶ意欲			
	1学期	2学期	3学期
S	13.5	15.8	50.6
A	59.9	58.3	44.3
B	22.4	20.5	5.9
C	4.2	5.4	0.0

地球市民性			
	1学期	2学期	3学期
S	9.3	14.7	54.0
A	47.3	45.7	36.7
B	40.1	28.8	9.7
C	3.4	10.8	1.3

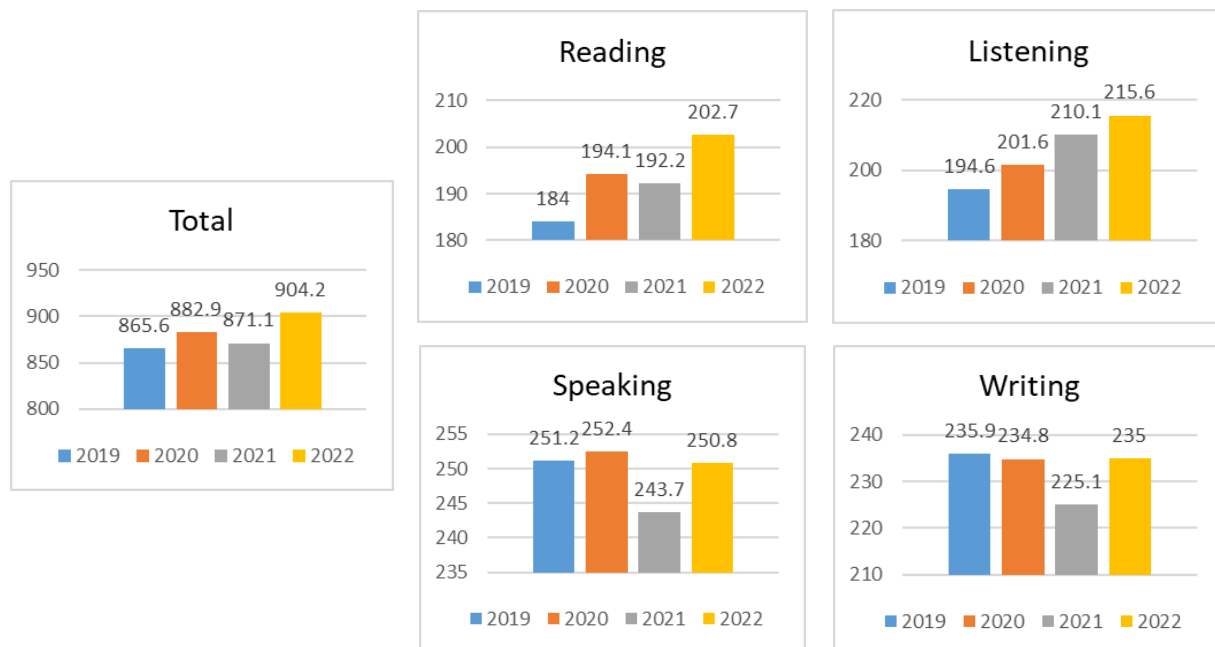
探究活動の中核である高校2年生は、今年度は12月に「WWL中間発表会」として全員が発表をおこない、3月に「WWL探究発表会」を開催し生徒主体の実行委員会を中心に全国規模の大会を運営した。また、3月には海外フィールドワークや平和共同宣言の作成を行うなど、2学期から3学期にかけて協働性を踏まえた高度で深い学びを体感する機会が充実していた。その成果もあり、全体として自己評価S・A評価の割合が高まっている。育成したいマインドセットを指す「協働性」「学ぶ意欲」「地球市民性」はS評価が50%を超えており、自主的な取組に勤しむ生徒たちの自信がうかがえた。

これらマインドセットの伸長は、GPSテストにおける協働的思考力の評価の高さとも関連が見られ、高校1年生と同様に、生徒のメタ認知能力の向上がうかがえる。今年度改訂したループリックの内容はより適切になったものと判断している。来年度は、GPSテストの創造的思考力にも関連する「創造力」の伸長を目指し、教育活動の充実化に一層努めていく。

【英語 4 技能に係る評価】

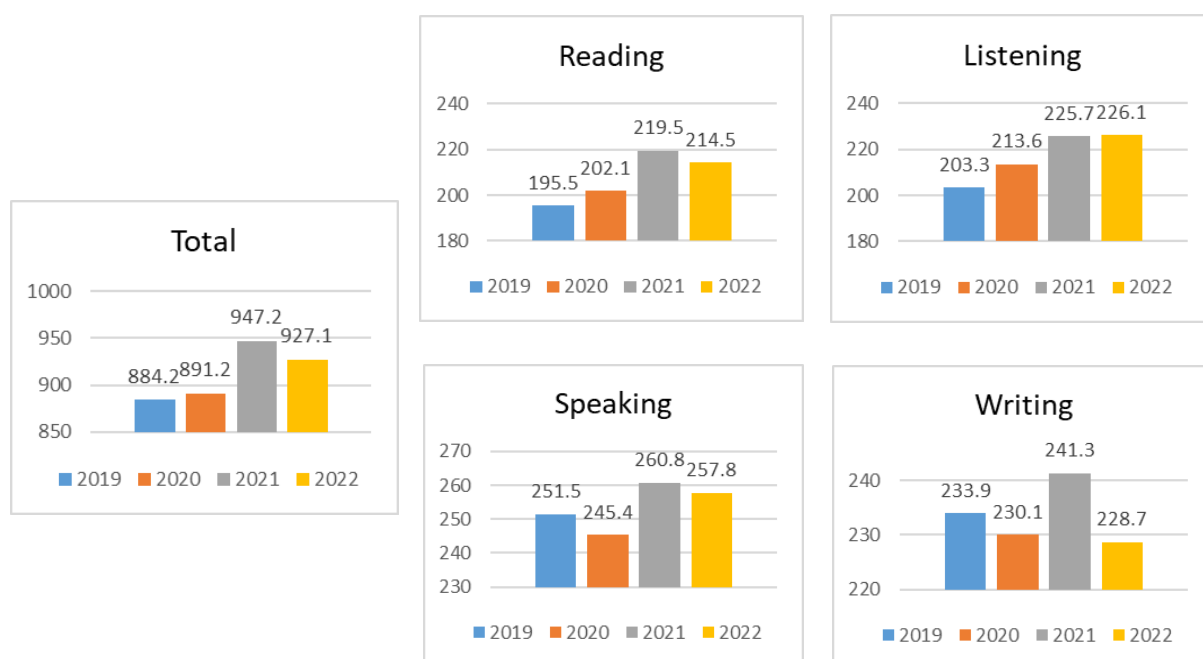
グローバル人材に求められるスキルの一部として、ベネッセコーポレーションが実施する英語 4 技能検定「GTEC」を SGH 指定時より受検している。GTEC の満点スコアが 2019 年度より変更になったため、2019 年度（SGH 5 年次）からの変容を次表に示している。

■高 1（12 月受検）



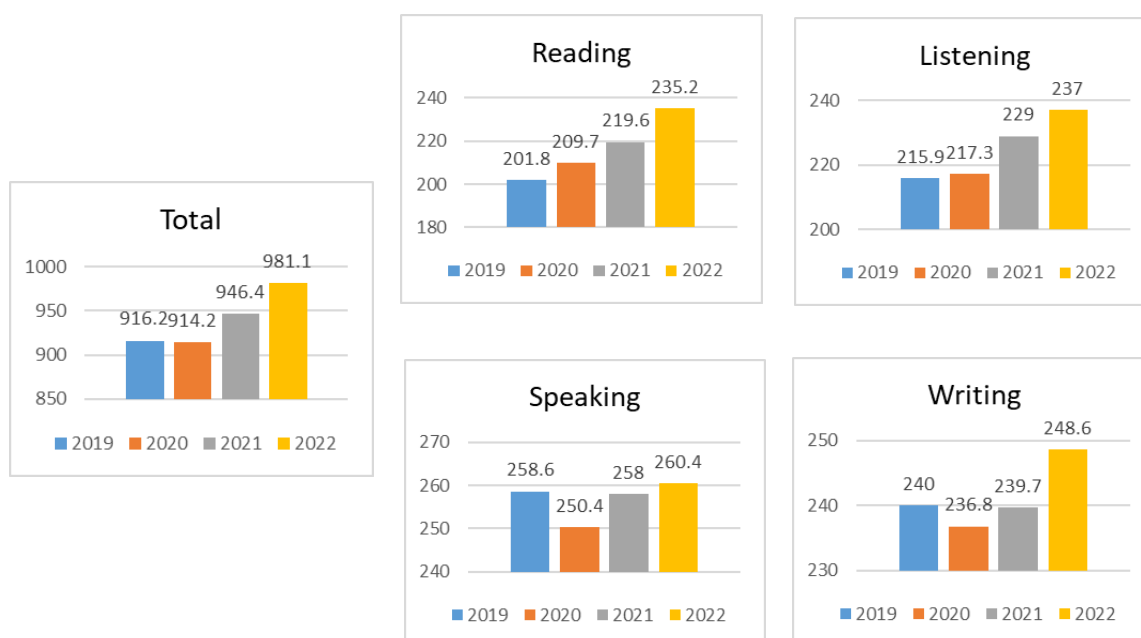
昨年度はコロナ禍による分散登校や休校措置の影響もあり、全体的にスコアは下がる結果となったが、今年度は Reading と Listening の 2 技能において過去最高の成績であった。Speaking と Writing もコロナ禍以前の水準に戻っている。今年度の上半期は生徒同士のペアワークやグループワークが大きく制限されたことを鑑みると、技能統合型授業の開発とその効果が顕著に表れていると推察される。

■高 2（12 月受検）



高校2年生はWWL事業における新しい教育課程を履修した二年度生となる。2022年度および2021年度の新教育課程生徒と、2020年度および2019年度の旧教育課程生徒の結果を比較すると、Writingを除くすべての技能で新教育課程で学んだ生徒の結果が上回っている。文系と理系、さらには普通科と国際科を融合した探究班の編成や4技能統合型授業による成果が現れている。本年度はListeningの技能が過去最高であり、ReadingやSpeakingも昨年度生に続く好結果となった。Writingのスコアは低かったが、2020年度と比較すると1.4ポイントの僅差である。英語科の分析では、今後語彙力、正確性、論理的記述力の向上が見込まれるとのことである。高校2年生の経年推移を分析してみると、高1次のTotalは871.1（高1の2021）であったが、今年度は927.1で56点の上昇となった。ベネッセコーポレーションによると、スコアの伸びは1年間で約50点が平均値であることから、全国平均よりも約6ポイント高い上昇幅であった。

■高3（8月受検）



高校3年生は4技能すべてにおいて過去最高値を記録した。特にReadingとWritingにおいて顕著な伸びがみられた。担当英語教員によると、読んだ内容について意見を書いたり、トピックに関連した情報を調査したうえでエッセイライティングに組み込むなど、ReadingとWritingの技能を融合した言語活動に多く取り組ませた成果であるとのことである。

英語4技能各種検定結果（GTEC, 英検, TOEFL, IELTSなど）								
CEFR	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
B2	6	2.3	1	0.4	9	3.6	21	8.9
B1	60	23.3	71	27.5	97	38.6	101	43
A2	190	73.9	183	70.9	144	57.4	113	48.1
A1	1	0.4	3	1.2	1	0.4	0	0
B1以上	66	25.7	72	27.9	106	42.2	122	51.9
	2019		2020		2021		2022	

構想計画書に記載したアウトカムは CEFR B 1 以上の割合が 70%である。目標には届いていないものの、過去 3 年間（25.7%、27.9%、42.2%）と比較すると、51.9%と上昇している。前ページの表は高 3 の 10 月時点の結果であり、担当英語科教員 3 名の所感ではあるが、卒業時に英検 2 級程度（B 1 以上）の英語力を有する生徒は、約 85%と推定している。

英語 4 技能統合型授業に関する成果発表として、拠点校の英語科教員によるディスカッションとエッセイライティングを融合した授業実践を、全国の教員を対象に 2 回（合計約 120 名参加）実施し、成果の普及に努めた。また、全国英語教育学会にて課題研究発表を実施した。

（２）教員の変容

事業評価委員からの助言により、教員による自己評価の分析を実施した。以下は中・高教員による自己評価のうち、WWL 事業に関連する項目を抜粋した。

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和5年1月16日
令和4年度学校評価に係る職員アンケートまとめ（中高全体69名）

番号	※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較			
		R1	R2	R3	R4
1	私の教科は、教科指導における中高の連携がとれている。	77.3	78.9	87.1	79.4
2	私は、授業でICT機器を(効果的に)活用している。	78.4	88.2	84.3	93.7
3	私は、授業改善や指導力の向上に努めている。	98.6	97.4	97.1	95.2
4	私は、授業公開・授業参観をともに年1回以上行っている。	92.0	88.2	80.0	87.3
5	「ひがし」は、学校全体として授業改善や指導力の向上に取り組んでいる。	97.6	96.1	95.8	100.0
6	「ひがし」は、高大連携の取組を推進している。	94.0	96.1	95.7	97.0
7	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	97.6	98.7	95.7	97.0
8	「ひがし」は、WWL(R1以前はSGH)の取組が充実している。	96.4	92.1	95.7	95.5
9	「ひがし」は、高校国際科の充実に努めている。	98.8	96.1	94.2	97.0
10	「ひがし」は、学校行事で生徒のリーダーシップとフォロワーシップが育まれている。	98.8	98.7	94.4	98.5
11	「ひがし」は、日頃から生徒の自主的・自律的な活動を支援している。	92.9	92.1	91.5	95.6
12	私は、校務の効率化に努めている。	90.5	94.7	93.0	89.9

WWL 事業と特に関わりが深い 6～10 の項目で 95%以上の職員が肯定的な回答を示した。ほぼ全ての項目で高い評価が得られており、SGH 事業を継承しつつ WWL 事業への学校組織としての取組が効果的に機能していると判断する。また、項目 2 と 5 からわかるように、ICT の活用や年 2 回実施している「授業改善週間」や、12 月に実施したベネッセコーポレーションおよび京都市立堀川高校と共催した探究型授業および学習デザインの開発へ向けたプロジェクトなどの結果、項目 5 では初めて 100%を達成できた。

(3) 学校評価

前項と同様に、中高保護者と生徒を対象に、学校評価に係るアンケート調査を実施した。以下 WWL 事業と関連する項目を抜粋した。

■中高保護者による「学校評価」の抜粋（表 1）

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和5年1月16日
令和4年度学校評価に係る保護者アンケートまとめ【中高全体】 回答率:95.2%

番号	※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較			
		R1	R2	R3	R4
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	94.6	93.2	94.5	91.9
2	「ひがし」は、生徒の社会的自立を支援している。	93.3	92.7	93.9	92.6
3	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	95.7	92.6	92.3	91.5
4	私は、「立山の風」やHP、メールメイト等での「ひがし」からの情報提供に満足している。	91.8	90.2	89.8	88.3

■中高生徒による「学校評価」の抜粋（表 2）

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和5年1月16日
令和4年度学校評価に係る生徒アンケートまとめ【中高全体】 回答率:93.7%

番号	※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較			
		R1	R2	R3	R4
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	92.4	94.5	91.4	92.9
2	私は、校外での研修（フィールドワーク、調査、講演会等）に積極的に参加している。	35.4	33.9	53.0	46.9
3	私は、海外語学研修や留学を積極的行った。	34.9	26.4	16.3	16.3
4	私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている。	47.3	45.4	57.8	49.6
5	私は環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している。	62.5	82.2	87.8	62.7
6	私はふるさとや地域社会、あるいはSDGs等の課題について考えたりすることを含め、政治や選挙に関心をもって主体的に社会参画を目指している。	54.1	71.4	81.7	70.1

表 1 の保護者による評価は、昨年度と比較すると肯定的な回答の割合がやや減少したものの、ほぼ 90%以上の保護者から依然として高い評価が得られている。特に、項目 3 の「国際社会で活躍できる人

材の育成に努めている」の評価では、海外研修等が実施できなかった過去3年間においても90%以上の高い肯定的回答が得られた。英語の授業において普通科の全生徒を対象に実施しているフィリピンの外国人とのオンラインによる英会話学習や、WWLプログラムにおける中国やハワイ等とのオンライン交流や、SDGsを視点にしたグローバル課題の解決に向けたカリキュラム開発が評価されていると考察する。

表2からは、ほぼすべての評価指標番号の項目で昨年度から低下した。R4年度末には、80名が参加するカナダ語学研修を再開するとともに、ニューヨーク、オランダ、ハワイでのフィールドワークに8名の生徒を派遣する。次年度は高校2年生全員を対象に、シンガポール・マレーシア修学旅行を再開するとともに、協働機関である長崎大学熱帯医学研究所ベトナムプロジェクト拠点での研修に4名の生徒を派遣することを計画しており、改善が期待される。

(4) 運営指導委員会・事業検証委員会

運営指導委員会（3回）と事業検証委員会（1回）を開催した。以下、議事録を掲載する。なお、第1回は台風接近による荒天のため、フォーラムは開催したが、運営指導委員会は後日書面にて開催した。

令和4年度 WWL 第1回運営指導委員会（予定していた内容等）

- 1 目 的 長崎東中学校・高等学校におけるWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について生徒による発表を参観し、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。
- 2 日 時 令和4年7月4日（月） 10：00～17：00
※運営指導委員会は16：00～17：00
- 3 場 所 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校
〒850-0007 長崎市立山5-13-1 TEL 095-821-4642
- 4 日 程

10：00～10：30	受付
10：30～10：50	WWL長崎フォーラム開会行事
11：10～12：30	スライド発表・ポスター発表参観
13：15～14：37	スライド発表参観
14：50～15：35	パネルディスカッション
15：35～15：45	講評
16：00～17：00	運営指導委員会
- (1) 管理機関あいさつ
 (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 (3) 発表・パネルディスカッションについて
 (4) 本年度の取組について（長崎東中学校・高等学校）
 (5) カリキュラム・アドバイザーより
 (6) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 (7) 諸連絡等
- 5 各委員等

○運営指導委員			
長崎大学	副学長（入試・地域教育連携担当）	中村	典生
山口大学	大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内	秀樹
株式会社小川の家	代表取締役	小川	勇人

熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授
長崎県教育センター 研修部長

川越 明日香
竹嶋 潤一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授

志水 俊広

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐

山下 龍

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表

溝田 勉

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会 高校教育課 参 事 高比良 裕
同 指導主事 宮崎 明子

○長崎東中学校・高等学校

校長	鶴田 栄次
高校副校長	辻 俊郎
中学校副校長	飯盛 千景
高校教頭	久保田 幸成
WWL推進室長	鳥居 正洋
WWL推進室長補佐（高）	一ノ瀬 憲二
WWL推進室（中）	岡 雅子

6 紙面開催での意見集約

（1）フォーラムの発表・パネルディスカッションについて ※ご視聴された場合のみ

（陳内）視聴無し（なぜかうまくログインできませんでした）

（竹嶋）フォーラムの発表も素晴らしかったですが、特にパネルディスカッションでパネリストが探究学習を通して身に付けた力を堂々と語っていることに感動しました。「価値観、考えが違っても持ち寄ることで一つの良いものが出来上がる」というコメントは、まさに協働することの意義そのもので、将来社会に出て様々な仕事をする上での資質が現時点で備わっていることは探究学習の意図するところだと思います。また、協働の別の利点としては、「適材適所で、ある人は絵が得意で、別の人は時間管理が得意、それぞれの良さを生かす」というコメントにも感心しました。高校生のころにそのことに気づけたら、組織として何かを成し遂げなければならないときに、うまく人材活用をする立場の人材として活躍が期待できると思います。

（永田）（フォーラムの発表）

流暢に英語で話し、自信をもって発言される高校生のスピーキング力に感心しました。すばらしかった。先行事例のない代替魚粉について、自ら発見した課題に主体的に向き合いながら取り組むその姿勢に感銘を覚えました。LGBTQ+への理解向上に向けた取組など、新たな時代に向けた社会的課題解決への意欲を十分に垣間見ることができた。

（永田）（パネルディスカッション）

行政や関係機関、地域社会との連携協力を高校時代に体験できたことが偉大な成果であると思われます。高校で身につけた力を大学や社会でどう生かすかということについて、将来の目標を掲げているところがすばらしい。国内外において、さらに独創性や想像力をはたらかせ、国際社会に貢献できる資質や能力をさらに育んでもらいたいと思います。

(2) 本年度の取組について

○年間計画表

(陳内) 何が行われるかという計画図に加えて、「授業」と「総合的な探究の時間」、「特別活動（学校行事）」のひとつひとつの学習内容が学年別にどう結びついているかという、カリキュラムマップの形のような形が分かりやすい（SGH 時代に出ていた、下図のような形）



(志水) IGR や FW や GPS は何のことでしたでしょうか。できれば略語・略号の注を末尾につけていただければ外部の者にもわかりやすいと思います。最後の GPS は「(思考力テスト)」とあるので思考力を測るテストのことかとわかりますが、何の略でしょうか。（一応、「GPS, 思考力テスト」で検索すると B 社作成の「問題解決力」を測定するテストだそうです、「思考力」はその一部では？） 「プラネタリーヘルス」：長大が使っている名称なのでそのまま使用するしかないのでしょうか、まだ人口に膾炙していない生煮えの用語に聞こえて

何のことよくわかりません。一応英語教師なのでプラネット（惑星・地球）の健康のことだろうと想像はつきますが、一読プラネタリウム？と誤読したほどです。WWL もそうですが、アルファベットの頭文字語やカタカナ語で煙に巻いて「日本語」で表現する努力を惜しむ姿勢には疑問を感じます。これもできれば脚注がほしいところです。

○ループリック

（陳内）直接シートに書き入れました。遠慮なく書いておりますが、学校に主体はございますので、最終的なご判断はお任せします。

（竹嶋）評価のCからSまでは、「できる」程度に応じて上手に定義されていると思います。少し気になったのは、Sが「知識・技能を生かし働かせ」となっていますが、Aまでの「習得した知識・技能を活用して」と変える必要があるのかということです。「習得した」を除く理由と、「生かし働かせ」と「活用して」の違いは何でしょうか。「創造性ある思考や行動」は「創造性のある思考や行動」としてはいかがでしょうか。

（志水）「地球市民性」に出てくる「親和的な関係」とはどういうことでしょうか。ループリックはまず学習者（東の場合は中高生）が自己評価するためのものなので（それゆえ、このループリックのタイトルの下に「自己評価」という表現が複数回出てくる）、中高生にもわかるような表現が望ましいのでは。

（3）その他（御意見、御要望等ありましたら、ご記入ください。）

（陳内）じっくり時間を取った委員会の開催を希望します。現状、委員の数に照らして発言の機会が時間的に十分に設けられていないと感じております。毎回は消化不良です。ついには書面になってしまいました。協議時間から学校側の説明時間を引き、残りを委員数で割って、さらに協議事項で割って検討ください。委員間で、そもそもの目的がぶれずに共有されること。さらには用いる語彙のニュアンスが共有されること、ようやくその上で協議が成り立ちます。

（竹嶋）要望はありません。全てではありませんが、フォーラムの発表やパネルディスカッションを視聴させていただき、高校生は凄いなという思いでいっぱいになりました。また、長崎東だけでなく、他校、しかも県外の高校生徒の交流ができていることは素晴らしいと思います。海外の高校生（同年代の若者）の声も聴けるともったいいですね。

令和4年度 WWL 第2回運営指導委員会 議事録

1 目 的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期 日 令和4年12月26日（月） 15：00～16：30

3 場 所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 図書館
〒850-0007 長崎市立山 5-13-1 TEL 095-821-4642

4 各委員等

○運営指導委員

長崎大学 副学長（入試・地域教育連携担当）	中村 典生
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹
株式会社子育ての家 代表取締役	小川 勇人
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香
長崎県教育センター 研修部長	竹嶋 潤一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広（欠席）
---------------------	-----------

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍
------------------------	------

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉
------------------------	------

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参 事	高比良 裕
同 指導主事	宮崎 明子

○長崎東中学校・高等学校

校長	鶴田 栄次
高校副校長	辻 俊郎
中学校副校長	飯盛 千景（欠席）
高校教頭	久保田 幸成
WWL推進室長	鳥居 正洋
WWL推進室長補佐（高）	一ノ瀬 憲二
WWL推進室（中）	岡 雅子

5 内 容

15：00～16：30 運営指導委員会

（1）管理機関あいさつ

- (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (3) 本年度の取組の報告（長崎東中学校・高等学校）
- (4) 次年度の計画等について（管理機関、長崎東中学校・高等学校）
- (5) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (6) 諸連絡

6 出席者からの意見等

(1) 令和4年度の取組について

①本年度の取組全般について

- ・用語の定義について、イノベティブ、グローバル、高度な学びとは具体的にどのような意味を指すのか。東高の教育理念も、WWL事業終了後もこのまま「世界の平和と共生に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成」でよいのか。理念は最初に記載すべきで、他校との違いを明確にすべき。
→ 現在県教委でスクールミッションを策定中で、次年度はじめに完成を予定している。そのうえで、それぞれの学校がスクールポリシーを策定している。
- ・資料のカリキュラム開発について、学校が企画した取り組みなのか、生徒が自主的に参加した活動なのかが分かるように資料を作成してほしい。3学期の実施計画においても対象人数を記載してほしい。
- ・授業で実施したことと、総合的な探究の時間及び学校行事のみで報告書が構成されてしまっている。特別活動として、学校行事の他に、HR活動、生徒会活動も位置づけられているのだから、これについても記して欲しい。加えて指導要領で、部活動も学校教育の一環として教育課程との連携が図られるようにすることを求められてもいることを踏まえ、部活動（例えば理科部や文系の部活動での研究発表成果など）の成果も、同様に記載されるべきではないか。そうすることで、主体的に取り組んでいる生徒の姿がより「見える化」される。

②12月中旬発表会について

- ・多様なテーマがあり、生徒が主体となって自発的な探究活動の発表となっていた。
- ・英語の発表も多くなっている。リーディングだけでなくスピーキングにもさらに力を入れてほしい。
- ・「平和」を探究する場合、核廃絶に関して特化するケースが多いが、経済や社会福祉など多様な取組のなかで、「平和」を考えていて良かった。
- ・「平和共同宣言」の文案も高い教養とSDGsの視点が入り入れられていて感動した。
- ・文理融合のテーマとなっているものが多く、内容についても非常によく進んでおり、大学生のレベルに近い。
- ・聴いている生徒から質問やアドバイスが積極的に行われていた。
- ・英語での発表がすばらしかった。

- ・プロポーザル型の探究もあり、国際会議につながる内容であった。

(2) 次年度の方向性と検討課題について

①国際会議について

- ・海外の参加校を募るうえで、持続可能にするためには学校同士の交流が必要である。長崎大学には約 500 名の留学生が在籍しており、出身校も紹介できる可能性がある。カリキュラムアドバイザーの山下先生も現状に詳しい。
- ・組織と組織で取り組むことも事業の継続性、安定性の観点から重要であるが、生徒が自主的に交流先（学生や学校、団体など）を見つけてくることも理想的であり、教員が把握していないだけで、ネットワークを生徒がすでに構築していて、それが潜在していて見えないだけの可能性がある。生徒が交流校を開拓する、学校同士で交流する、2 本立てでよいのではないかな。
- ・国際会議の参加証を発行して募ってはどうか。授業の一環として参加する意味合いができる。
- ・管理機関である教育委員会からも広報を行ってほしい。
- ・「人間の安全保障」は SDG s の原点になったものであり、ぜひ取り入れてほしい。
- ・来年は G 7 の一部が長崎で開催され、再来年はワン・ヤング・ワールド（ヤングダボス）の長崎開催が見込まれている。こうした国際会議は、同世代の意見を集約できる機会となる。
- ・2 名の ALT や 1 名の英語講師や、国際交流部に中学生も参加させるなど、さらに工夫できる。英語の教育だけでなく、コミュニケーションを図れる活動のチャンスをつくってほしい。
- ・「何のため」にやっているのか、イベントを行うことではなく、人材として成長していることを生徒が実感していることが大事である。そのことを、逐一確認していくことが必要。

②ルーブリックについて

- ・これまで何度も指摘してきたように、教師が作成した目標に生徒の自主評価を当てはめるためのものにならないように運用したい。枠が S 評価で止まると、それ以上がない、という認識を生徒に持たせてしまう。その上の評価として「X」や「∞」などを付けて、生徒自らが考える評価項目にしてはどうか。
- ・STEAM 教育の Art にも関連するよう、創造性や思考判断に関する評価基準の S については、「エレガント」とか、C→B→A の基準の統一直線上にない表現が用いるような視点があってもよい。
- ・「妥当性」という文言が気になる。イノベーティブな人材育成を目指すのであれば、妥当なものではなく、突き抜けたものを目指すような指針がほしい。
- ・他校では、学習指導要領の枠を超えた評価を「S」評価として、自由度を持たせている。S 評価については学会発表や論文作成など学校の教育活動を飛び抜けた活動を行った生徒に与えるようにしては。
- ・評価表の枠を C→B→A→S の順序にした方が、発展性が感じられてよいのではないかな。S の先にあるものを生徒に示すことができる。
- ・管理機関として、ルーブリックは東高独自でいくのか。他校と共有していくのか。他校でもルーブリックを策定しているのか。

→ 他校でも探究活動の評価としてルーブリックを策定している学校はある。東高のルーブリックは独自で行うものであるが、これまで運営指導委員より様々な助言をいただき、改善を進めてきたため、他校へ普及できるほど、かなり練りあがったものになってきた。

- ・ルーブリックの内容についてレベルが高く、よくできている。

③その他、全般について

- ・次年度は、WWL事業終了後の自走をどうしていくか、考えておく必要がある。予算がなくなった後、どうしていくか考えておく必要がある。
- ・生徒の様子を見ると、探究的な学びの効果が明らかに出ているので、取組自体は間違っていない。今後も頑張ってもらいたい。

令和4年度 WWL 第3回運営指導委員会／事業検証委員会 議事録

1 目 的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期 日 令和5年3月22日（水） 15：20～16：45

3 場 所 長崎ブリックホール 特別室2
長崎市茂里町2-38

4 各委員等

○運営指導委員

長崎大学 副学長（入試・地域教育連携担当）	中村 典生（欠席）
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹
株式会社子育ての家 代表取締役	小川 勇人
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香
長崎県教育センター 研修部長	竹嶋 潤一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広
---------------------	-------

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍（欠席）
------------------------	----------

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉（欠席）
------------------------	----------

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参 事
同 係 長
同 指導主事

高比良 裕（欠席）
中村 陽介（高比良参事の代理）
宮崎 明子

○長崎東中学校・高等学校

校長
高校副校長
中学校副校長
高校教頭
WWL推進室長
WWL推進室長補佐（高）
WWL推進室（中）

鶴田 栄次
辻 俊郎
飯盛 千景
久保田 幸成
鳥居 正洋
一ノ瀬 憲二
岡 雅子

5 内 容

15：20～16：45 運営指導委員会／事業検証委員会

- (1) 管理機関あいさつ
- (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (3) 本年度の取組の報告（長崎東中学校・高等学校）
- (4) 事業検証
- (5) 次年度の計画等について（管理機関、長崎東中学校・高等学校）
- (6) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (7) 諸連絡

6 出席者からの意見等

- (1) 令和4年度の取組（特に12月の第2回運営指導委員会以降の取組）について

①自己評価・客観評価について

- ・ベネッセコーポレーションのGPSテスト結果の表記について、「高1」「高2」ではなく、何年生の何年生時のものなのか経年推移がわかるように示してほしい。
- ・三菱みらい育成財団が実施している生徒の自己評価では、拠点校生徒のスコアがかなり高いが、全国からどれくらいの学校が選ばれているのか？
→ 50校
- ・同財団の自己評価では、「社会性」の項目の評価が高い。これは過年度と比較してどうなのか？他校の研究テーマと比較して拠点校のテーマが地域性や社会性に関してそれほど変わっているわけではないが、その理由として何か考えられるか？
→ 昨年度と同様の数値。
→ 高校の前期入試ではSDGsに関するプレゼンを選抜に取り入れたり、社会課題の解決に向けた導入期指導を充実させている。80数名が自主的に国際会議実行委員を務めるなど、意識が高い生徒が入学している。フィールドワークで多くの地元の方と関わっていることも要

因と思われる。

- ・同財団の「地域の魅力や資源について考える」という評価項目については、昨年より少し（４％）下がっている。探究活動の目的を「地域の問題を解決する」と生徒はとらえている可能性がある。探究の授業での声掛けでは、地域の「魅力」についても言及する必要がある。「問題点を見よう」という姿勢を癖づけてしまうと、グループの場合お互いの問題点を見てしまい、問題点の解決につながらないことがある。人に向けるべきことと物事に向けるべきメッセージは違うので、フォローがいるかもしれない。
- 今年下がった理由は、地域という視点よりもグローバルな視点でテーマを考えた班が多かったからかもしれない。SGH 指定時は普通科は地方創生、国際科はグローバル課題を中心にそれぞれ班編成をしていたが、今年は普通科と国際科を分けずに班編成を実施した。そのため普通科の中からもグローバル課題について英語で発表するグループが増えた。

②探究学習・発表会について

- ・社会課題を解決するという話と自分の興味を探究するという話では次元が違う。学校の方針として社会課題や SDGs にひもづけたいのはわかるが、実際に寄付講座を実施し生徒さんの相談を受けるなかで、学校の方針についていけない、無理して合わせないといけない、という切実なものがあった。
- ・入り口は自分の関心から入り、ゴールとして社会課題へつながっていく展開がよい。北海道の明日高校の事例では、「100mを速く走るためには」という生徒が出したテーマがあった。それが先生との対話によって、生涯体育や社会課題に発展していった。
- ・「男子生徒が化粧をする」という発表があったが、個人の悩みから探究が始まり、SDG s や社会課題につながっていく良い事例であった。
- ・やりたいことが見つからない生徒や勉強のために部活動をやめるべきか悩んでいる中３生もいる。
- ・そうした直面している悩みに取り組むことこそ社会課題といえる。
- ・社会課題や SDGs から先にテーマを選ばせるという指導になっている傾向があるのでは。
 - 個人の興味から問い立てに入り、最終的に SDGs にひもづけている。４月に年間スケジュールを示し、12 月の中間発表までテーマが変わっていく。
- ・たくさん実験して次々に真の問いが出ている発表があったが、まさしく探究らしいものであった。
- ・発表会という形式であったが、生徒同士のディスカッションを聞きたかった。反応ややりとりの中に学びが見えて、将来的な可能性も見える。メイン会場でのディスカッション、小分科会での討論、フロアとの意見交換が以前のようにあるとよい。
 - ３月は発表会、７月にディスカッションとすみ分けた。時間の制約、オンラインや動画発表など多様な発表形式のため、残念ではあったが、質疑応答もなしにした。昨日長崎で合同フィールドワークを実施した舟入高校とは生徒同士が話し合う機会を設けた。
- ・発表を聞いた生徒からの Forms でのリフレクションは発表校だけでなく、すべての生徒がみられるようにしたほうがよい。

③事業検証について

- ・報告資料には様々な取組やイベントが記載されているが、期日や内容だけでなく、目的・ねらい・ゴールや事業の主旨も記入すべき。どのような問題意識があつて、その事業を実施したのか分かるようにすべき。生徒が自主的に任意で参加したものなのか、全員が一律に参加したものなのかをもう少しわかりやすく記載してほしい。
- ・「平和」という言葉の意味やルーブリックなど細かなところまで議論できてよかった。7月の国際会議開催に向けて拠点校の準備も着々と進んでいる。

④次年度の計画について

- ・平和宣言策定のプロセスにおいて、すべての生徒に自分ならどんな文章やキーワードを入れたいか募集し、生徒個々の多様な考えをしっかりとカバーできるものにしてほしい。そうすることで、自分の意見が国連に届いたと実感できる。写真や絵などを得意とする生徒にも活躍の場がある仕組みを。生徒のパブリックコメントを吸い上げて、23年宣言、27年宣言というように広がりやその時代の生徒の価値観に合わせた改訂を望む。
- ・海外の高校生の探究発表に触れることは意義深い。今後どのような学校と共同していくのか？
 - 藻場の探究を行っている班は上海の培元中学、ジェンダーの探究を行っている班はタイ、航空機の探究を行っている班はアメリカの企業など、生徒がやりたい探究のテーマで自分たちでも連携先をみつけている。
- ・ハワイのULSとはどのような平和探究を実施するのか？
 - 高校生平和共同宣言、平和教育、環境などの探究を実施している生徒との意見交換やアリゾナ記念館でのフィールドワーク
- ・国際平和会議と「平和」を冠している理由は？会議のカテゴリーはSDGsに関連した「共生」「環境」「社会」「経済」になっているが、平和を広義の意味としてとらえているのか？
 - 広い意味の平和である。
- ・平和を冠すると、長崎では8月9日や核廃絶のこののみがテーマだと誤解させてしまうので、サブテーマをつけるとよいのでは。
 - 生徒が考えたもので、平和ということばで諸問題を問い立てたいという想い。
- ・国際会議は管理機関が主催するが、高校生平和共同宣言は誰の責任で発するのか？翻訳言語は？
 - 同様の事例を参考にする。英語、中国語、ロシア語、アラビア語、スペイン語、ウクライナ語など主要言語。

⑤ルーブリックについて

(学校側から)

- ・前回ご助言いただいたように、CBASと並びを換え、Sを超える評価の文言を探究活動を経験した高3生自身が考えられるように改訂した。STEAMのアートを意識して「エレガント」を文言に追加した。
- ・「論理的」「合理的」「整合性」といった文言がほしい。

- ・実際に使ってみて、生徒さんの実態をみて調整するとよい。
- ・「課題発見・解決力」の項目のAとS評価の「妥当性」を「合理性」に改訂する。

（５）教科による成果の普及

SGH 指定時（H27～R 元年度）より英語 4 技能統合型授業の研究開発を実践しており、これまで毎年研究発表を実施している。本年度の研究発表は以下のとおりである。

なお、次年度は本年度に引き続き、拠点校の一ノ瀬憲二教諭が第 48 回全国英語教育学会（香川）の課題研究フォーラムにおいて、実践発表を行うことが決定している。

期日	講師（教科）	主催・研修会名称	内容	形態・参加数
8/6	一ノ瀬（英語）	第 47 回全国英語教育学会	スピーキング活動の評価	遠隔 （約 70 名）
9/30	猿渡（数学）	長崎県教育委員会 教科別 ICT 研修会	ICT 活用の実践報告、情報交換、協議	対面 （約 30 名）
10/29	一ノ瀬（英語）	国際教育ナビ 「英語教員セミナー」	4 技能統合型授業による成果	遠隔 （約 100 名）
11/4	笹井（生物）	長崎県高等学校理科教育研究会生物部会 長崎県高等学校理科教育研究会	「生物基礎・生物の大学入試問題分析を踏まえた思考力・判断力・表現力を育む授業改善の取り組み」	対面 （約 40 名）
11/26	猿渡（数学）	（株）ラーンズ 共通テスト導入期指導を考える会	数学教育の不易と流行について	遠隔・録画 （約 100 名）
11/27	一ノ瀬（英語）	朝日出版社 「CNN セミナー」	CNN ニュースを用いたリスニングを軸にした多技能育成	対面・遠隔 （約 30 名）
12/24	一ノ瀬（英語）	第 26 回大会「デジタル教材勉強会」大阪	ディスカッションと英作文の統合型授業実践	遠隔 （約 40 名）

WWL 事業に係る成果普及のための実践発表については、第 2 章（３）②の項で記載した。

(6) アウトプット・アウトカム

【高度な課題研究から大学進学へ】

本年度特筆すべき評価を得た課題研究は下記3本である。いずれも文理を融合した内容で、複数の学問分野の視点でアプローチしたものであり、複数のSDGsに関わる研究であった。また、複数の大学・企業・官公庁・NPO等と連携しており、生徒が主体的に社会課題の解決に向けた探究学習を展開した成果であった。

研究テーマ（学年）	表彰・成果
「代替魚粉としてバツタを用いることは可能か」（高3）	・日本水産学会主催 全国高校生ポスター発表会 最優秀賞 ・株式会社トモノカイ主催 第1回「自由すぎる研究グランプリ」イノベーション大賞 最優秀賞
「海ゴミ問題解決に向けた啓発活動」（高3）	・第4回アジア・太平洋水サミットにて高校生代表発表、天皇陛下とご懇談 ・NPO法人みなとラボと協働し、海ゴミ削減啓発の絵本を作成・出版
「持続可能な藻場造成」（高2）	・大阪大学大学院国際公共政策研究科主催「第8回待兼山会議（国際公共政策カンファレンス）」優秀賞 ・SDGs Quest みらい甲子園 ファイナルセレモニー 最優秀賞

課題研究等が評価されて、総合型選抜および学校推薦による主な国立大学入試の合格一覧を下に記載する。

長崎大学医学部医学科（3名）
長崎大学教育学部（1名）
北海道大学水産学部（1名）
弘前大学農学生命学部（1名）
広島大学生物生産学部（1名）
九州大学教育学部（1名）
九州大学農学部（1名）
熊本大学文学部（1名）

【中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況】

(○実施・完了、△進行中(予定どおり)、一未実施、×未達成、※オンライン実施)

中期的目標(令和5年度末(2023)まで)

指標項目(上段①～④がアウトプット、下段①～④がアウトカム)	達成度・評価
①拠点校生徒が高度な学びに取り組んだ実績を大学の単位として早期認定	○
②拠点校・連携校・協働機関が海外において共同でフィールドワークを実施	○
③拠点校の毎年120名以上が修学旅行以外で海外研修等を行う多様な機会を整備	△ R4年度91名
④拠点校と県内連携校が生徒主体で運営する高校生国際会議の開催	△
①拠点校で課題研究に取り組んだ生徒の資質・能力の向上及び進路目標の明確化	○
②拠点校において海外の大学に進学する生徒数の増加	△
③拠点校の高1・2年生の50%以上が、対外的なコンテスト・イベント等に参加	○(71.8%)
④対外的なコンテスト・イベント等において10グループ以上が上位に入賞	○(25)

※達成度の根拠

アウトプット

- ①長崎大学、広島大学
- ②3月にハワイにてULS(University Laboratory School)と合同平和フィールドワークを実施
- ③カナダ研修(80名)、ハワイフィールドワーク(2名)、ニューヨークフィールドワーク(1名)、オランダフィールドワーク(5名)、アメリカ語学研修(2名)、マルタ語学研修(1名)
- ④高校2年生88名で構成する国際会議実行委員会を立ち上げ、小委員会を定期的に開催し、ハワイ、オランダ、中国、ウクライナなど20名程度参加を見込んでいる。また本校を卒業した5名の大学生をメンターとして活用することも計画的に進んでいる。

アウトカム

- ①高校3年生による客観評価・自己評価の向上。②3名(ベルギー、台湾、カナダ)で過去最多。
- ③386/537=71.8% 長崎県教委主催の長崎WWLフォーラム、WWL探究発表会を含め外部大会参加。
- ④上記③大会を含め外部大会で多数入賞。(③④の詳細は次項の主要プログラム・表彰を参照)

長期的目標(令和12年度末(2030)まで)

指標項目(上段①～④がアウトプット、下段①～③がアウトカム)	達成度・評価
①生徒の実績を大学の単位として早期認定する仕組みを連携校にも拡大	○
②拠点校・連携校・協働機関による海外フィールドワークと、WEB会議等によるその事前・事後学習を体系化し、課題研究のモデルを構築	△
③拠点校・県内連携校の毎年300名以上が海外で研修等を行う多様な機会を整備	×
④高校生に加え、大学・行政・企業・NPO等が参加する高校生国際会議の定着化	△
①探究活動の成果の一部が政策提言やビジネスモデルとして社会実装される	○
②拠点校・県内連携校において毎年10名以上が海外の大学に進学	×
③令和3年度以降の拠点校、県内連携校の卒業生のうち10名以上が自らNPO、ソーシャルビジネス、グローバルビジネスを展開	×

【主要プログラム・表彰】

(1) 拠点校が生徒へ準備したプログラム

①複数の学年対象

期日	内容・講師	参加人数
6/29	ワールドワイドチャンネル（識者による講演会） NPO 法人 Red Wood Japan 代表 信吉正治氏 他 8 名	高 1 （280） 高 2 （275）
7/6	マゴソスクール講演会 マゴソスクール主宰 早川千晶 氏	中 2 （120） 高 1 （280）
9/21	外務省高校講座 本校卒業生 吉井美穂 氏	高 1 （280） 高 2 （81）
11/9, 10	探究フィールドワーク	高 1 （280） 高 2 （280）
1/18	探究ピアサポート （高校の先輩による中学生への探究アドバイス）	中 3 （120） 高 2 （200）
1/27	長崎県文化振興・世界遺産課 主催 孫文と梅谷庄吉 講演会 講師：小坂文乃 氏（梅谷庄吉曾孫）	中 1～3 （360） 高 1・2 （540）
3/22	WWL 探究発表会（長崎ブリックホール）	高 1 （270） 高 2 （270）

②中学校

期日	内容・講師 等	参加人数
5/23	新聞づくり講座 朝日新聞 長崎総局記者 石倉徹也 氏	中 1 (120)
8/9	平和集会	中全(360)
10/26	イングリッシュデイ	中全(360)
12/12	英語発表会	中全(360)

③高 1 学年

期日	内容・講師 等	参加人数
5/20	プラネタリーヘルス WWL 基調講演会 長崎大学経済学部 准教授 山口純哉 先生	280
11/30	プレゼンテーション講座 長崎大学キャリアセンター 准教授 矢野香 先生	280
12/13	企業説明会 長崎新聞社他 14 社	280

④高 2 学年

期日	内容・講師 等	参加人数
5/11～ 10/26	2022 日中国交正常化 50 周年記念事業 9/15 長崎市内中国文化研修旅行 10/19 総領事館研修報告会、10/26 福建省培元中学校交流会	20
6/15	高大連携出前講座 長崎大学 多文化社会学部 准教授 小松悟 先生 教育学部 教授 内野成美 先生、経済学部 教授 丸山幸宏 先生	280

	医学部（保健）准教授 坂本淳哉 先生 薬学部 准教授 向井英史 先生 情報データ学部 准教授 高橋将宜 先生 工学部（機械工学）准教授 下本陽一 先生 工学部（電気電子工学）准教授 柳井武志 先生 工学部（構造工学）教授 中原浩之 先生 工学部（物質化学）准教授 作田絵里 先生 環境科学部 准教授 深見聡 先生、水産学部 教授 高谷智裕 先生	
2/22	論文講座 講師：大分大学 准教授 麻生良太 先生	高 2 (270)

④高 3 学年

期日	内容・参加校（参加人数）	参加人数
7/4	WWL 長崎フォーラム 県内：長崎西(1)、長崎南(3)、大村(3)、壱岐(2)、対馬(3) 県外：広島女学院(3)、三島北(3) ※スライド発表、ポスター発表、パネルディスカッション	258

(2) 生徒が自主的に参加したプログラム等

①複数の学年対象

期日	内容・講師	参加人数
6/3	広島大学 WWL コンソーシアム事務局 ジェンダー入門講演会 大阪芸術大学客員教授 谷口真由美先生	高 1 (10) 高 2 (3)
7/10	長崎大学熱帯医学研究所オンラインセミナー 熱研夏塾「感染症研究のキャリアパス」 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 松野啓太先生 東京大学医科学研究所 竹島功高 先生 大阪大学微生物病研究所 小瀧将裕 先生 長崎大学高度感染症研究センター 古山若呼 先生 長崎大学熱帯医学研究所 宮崎真也 先生	中 3 (1) 高 1 (5) 高 3 (4)
8/9	山口大学知的財産センター、知的創造教育地域コンソーシアム（中国地域） 知的創造・キャリア教育セミナー 山口大学知的財産セミナー准教授 陳内秀樹 先生	高 1 (4) 高 2 (7)
3/4	寄付講座 株式会社子育ての家 代表取締役 小川勇人氏	中 3 (13) 高 1 (16) 高 2 (13)

②高 1 学年

期日	内容・講師 等	参加人数
8/9～ 8/10	京都大学 SDGs リーダー育成プログラム	6

③高2 学年

期日	内容・講師 等	参加人数
5/23	長崎原爆資料館 基調講演 長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授 中村桂子 先生	5
5/28	広島県教育委員会 高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトに係る学校の枠を超えた生徒の探究活動	5
7/23	長崎大学高度感染症研究センター市民公開講座 「ウイルス学研究に魅せられて」 長崎大学感染症高度研究センター准教授 浦田秀造 先生	3
7/27～ 7/29	Ja japan (ジュニアアチーブメントジャパン)・十八親和銀行 金融教育プログラム オンラインジョブシャドウ	8
8/3～ 8/4	広島平和フィールドワーク、高校生平和探究交流 広島市立舟入高等学校、広島県立西条農業高等学校 他7校	2
8/18	SHIBUYA QWS 東京大学企画 グレーター東大塾「健康と医療」 講演会「医療は人を幸せにできるか？」 東京大学名誉教授 養老孟司 先生、医学系研究科 鄭雄一 先生	1
10/15	CIF 講演会「VR (バーチャルリアリティ) と物語が核廃絶に向けて果たす役割」 映画『On The Morning You Wake』制作関係者	3
12/16	広島市立舟入高等学校「高校生平和共同宣言」協働事業	15

【各種表彰】

大会名・成果物	対象生徒 (人数)
ミドルベリー国際大学院大学ジェームズマーティン不拡散研究センター 2022CIF (クリティカル・イシューズ・フォーラム) 優秀賞	高2 (3)
株式会社トモノカイ主催 第1回「自由すぎる研究グランプリ」イノベーション大賞	高3 (1)
日本水産学会主催 全国高校生ポスター発表会 最優秀賞	高3 (4)
長崎県教育委員会主催 長崎県英語ディベート大会 第3位	高1 (4) 高2 (2)
長崎県教育委員会主催 第31回 長崎県英語スピーチコンテスト 優勝	高2 (1)
衛星設計コンテスト実行委員会主催 第30回 衛星設計コンテスト 日本ロケット協会宙女賞	高2 (3)
長崎県教育庁高校教育課 主催 高校生アントレプレナーシップゼミ 最優秀賞、優秀賞	高2 (2)
山口大学知的財産センター主催 第3回 全国知財創造実践甲子園 審査員特別賞	高2 (4)
JICA 主催 国際協力高校生エッセイコンテスト2022 佳作	高2 (1)
大阪大学主催 第8回待兼山会議 (国際公共政策カンファレンス) 優秀賞	高2 (4)
株式会社 TREE 主催 SDGs QUEST みらい甲子園 最優秀賞	高2 (4)
企業「みなとラボ」と共同作成 絵本『ペットルと黒いかげ』作成・出版	高3 (4)

Nagasaki Higashi

World-Wide Report

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなG人材の育成



2022年度 第13号

October 28, 2022

海洋ごみ問題について探究しているチームが絵本を制作しました。

高3生徒4名(小倉葵、坂本ひなた、筑紫莉里花、堀川咲希子)が、これまで行ってきた探究学習の成果として海洋ごみ問題啓発のための絵本を制作しました。この絵本は、一般社団法人みなとラボの協力、日本財団の援助を受け制作されたものです。タイトルは『解決できなかったわたしたちの問題 ～海とごみと高校生～/ペットボトルと黒いかげ』で、両面が表紙という特徴的な絵本になっています。

生徒たちが実際にに行った探究活動やそれに伴い見えてきた現実が左開きのページで進み、子どもたちに海洋ごみについて知ってもらうための物語が右開きのページで進む構成になっています。生徒の活動の紹介とともに未来の子どもたちへ伝えるメッセージ、2つの側面から海ごみ問題を考える本になっています。生徒たちの思いの詰まった渾身の1冊です。本校図書室や長崎県立ミライon図書館、長崎市立図書館でも近々読めるようになりますので、ご紹介いたします。

左開き表紙



右開き表紙



高3の代替魚粉を探究したチームが2つの賞をいただきました。

「バッタの代替魚粉利用に関する技術的及び社会的研究」を行っている高3探究チーム(黒岩夕綺・大渡玲央・大塚優斗・小川凜空)が2つの大会で大賞と最優秀賞を獲得しました。

1つ目は、探究の全国大会である第1回「自由すぎる研究グランプリ」で、イノベーション大賞を受賞しました。この大会は1次審査では大学生のべ1,000人、2次・最終審査では企業全8社の社員の方により審査をしています。下記のQRコードから大会ホームページに入れますので、具体的な内容はこちらからご覧ください。受賞後、主催者が来校されトロフィーの授賞式も行われました。その際の動画も、ホームページにありますのでぜひご覧ください。

2つ目は、9月5日(月)に宮崎市で行われた日本水産学会の高校生ポスター発表において、最優秀賞を受賞しました。全国から集まった12の研究の中での受賞です。今後、この研究内容は日本水産学会誌に掲載される予定です。



← 日本水産学会



自由すぎる研究
グランプリ
Web ページ

(7) 次年度の課題・計画

①海外との共同探究について

昨年度までは、本校と海外連携校との共同プログラムがコロナ禍のためほとんど実施できなかった。本年度末にはハワイ大学附属高校（U L S）の生徒とアリゾナメモリアルにて平和共同フィールドワークを実施することができた。また、カナダ語学研修に 80 名と欧州（オランダ）派遣プログラムに 5 名が参加し、国際会議開催の基盤を整備することができた。同窓会基金より U L S から 2 名とオランダ（長崎市の姉妹都市であるライデン市）から 2 名の生徒を招聘する予定である。

次年度はシンガポール・マレーシア修学旅行を再開するとともに、ベトナム（ハノイ市、ニャチャン市）において長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点、ベトナム国立疫学衛生研究所（N I H E）、J I C A ベトナム、パスツール研究所等と共同し、感染症等に関する高度な研修を計画している。

②国際会議、AL ネットワークに向けた取組

次年度 7 月 28 日に長崎ブリックホールで開催することを決定し、高校 2 年生の総合的な探究の時間や週 2 時間の「自主的な学びの時間（E-Time）」を軸にして活動を進めていく。連携校との協働においては、実務者間によるネットワークの構築とともに、県内高校生に一人一台配布されているタブレットを活用し、マイクロソフト Teams やビジネスチャットツール Slack を使用した代表生徒によるネットワークづくりをさらに進めていきたい。国際会議の日程や内容等の連絡調整、各探究プログラムの共同活動などを生徒自身の手で行うことができるよう、全教員で支援する体制をつくっていく。海外の高校・大学との協働においても、長崎県国際課をはじめとした各機関と連携を密にしながら、中国や韓国とのネットワークの構築を進めたい。

③高大接続による「高度で深い学び」の推進

次年度は、長崎大学に加えて広島大学との WWL 連携プログラムを推進したい。また、拠点校から今年度以上に大学の先生方の各講演を生徒が拝聴できる機会を増やし、生徒の成長に寄与したい。またオンラインで配信することで、他校への普及をさらに推進する。

④学校設定目標を踏まえた自己評価の改善と活用

本年度末の事業検証委員会および運営指導委員会にて、新年度に向けた校内ループブリックの改定を実施した。このことによって、これまで以上にスクールポリシーや学校設定目標との連動性を推進できるものとする。運営指導委員会で助言いただいた S 以上の評価（∞）のキーワードについて、優れた探究学習を実践した高校 3 年生からアイデアを募集したい。また、3 月の合同探究発表会にて採用している発表ループブリックについても、これまでの審査員経験者からの助言を参考に、審査基準や得点割合等について、改善を進めたい。

⑤職員研修の充実化と普及

次年度も校内・校外職員対象研修会においては、従来実施している探究学習の「問い立て」や探究シラバス等を主とする実践的な事例を年度当初に企画し、成果普及を行いたい。今年度は公立 13 校、私立 2 校の職員計 33 名が外部より参加した。

本年度は「教科の探究化」を推進すべく、新規事業としてベネッセコーポレーションと京都市立堀川高校との共同プログラムを立ち上げた。次年度は九州全県の教員を対象に、探究的な学びや新しい評価を組み込んだ授業研究会に発展したプログラムを実施する。

⑥自走化への方策

運営指導委員からも指摘があったが、2年後の自走化へ向けた準備が必要である。具体的には、海外フィールドワークを継続実施するために、生徒自己負担金に加えて、公益財団法人長崎東同窓会奨学会「未来人材育成基金」からの資金援助を交渉・調整したい。また、各種講演会の謝金支出はPTA費を充当するなど、できるだけ新規に生徒負担金が増えない方策を考えたい。必要であれば、プロジェクトチームを立ち上げ、上記の検討課題や発展的なカリキュラムについて審議することを検討している。

参考：教育課程表（中学、令和4年度入学生【普通科】【国際科】）

長崎県立長崎東中学校

教育課程表

（1）教育課程

	中学1年		中学2年		中学3年	
	年間時数	(週時数)	年間時数	(週時数)	年間時数	(週時数)
国語	140	(4)	140	(4)	105	(3)
社会	105	(3)	105	(3)	140	(4)
数学	140	(4)	140	(4)	175	(5)
理科	105	(3)	140	(4)	140	(4)
音楽	45	(1.3)	35	(1)	35	(1)
美術	45	(1.3)	35	(1)	35	(1)
保健体育	105	(3)	105	(3)	105	(3)
技術・家庭	70	(2)	70	(2)	35	(1)
外国語(英語)	140	(4)	140	(4)	140	(4)
道徳	35	(1)	35	(1)	35	(1)
特別活動	35	(1)	35	(1)	35	(1)
コミュニケーション	35	(1)	35	(1)	35	(1)
総合的な学習の時間	85	(2.4)	70	(2)	70	(2)
合計	1085	(31)	1085	(31)	1085	(31)

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	現代の国語	2	○	2			
	言語文化	2	○	3			
	論理国語	4			2	3	2
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4			3	3	3
	*国語探究				※(2)		
地理 歴史	地理総合	2	○	2			
	歴史総合	2	○	2			
	世界史探究	3			(3)	(3)	
	日本史探究	3			(3)	(3)	
	地理探究	3			(2)		3
公民	公共	2	○		2		
	倫理	2				(4)	
	政治・経済	2				(4)	
数学	数学Ⅰ	3	○	3			
	数学Ⅱ	4		1	3		
	数学Ⅲ	3			(1)		3
	数学A	2		1	1		
	数学B	2			1	3	2
	数学C	2				3	2
	*数学探究				※(2)		
理科	#科学と人間生活	2			(2)		
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4			※(2)		(4)
	化学基礎	2		2		(2)	
	化学	4			※(2)		4
	生物基礎	2			(2)	2	
	生物	4			※(2)		(4)
	地学基礎	2			(2)	(2)	
保健 体育	体育	7～8	○	3	2	2	2
	保健	2	○	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	○	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○	3			
	英語コミュニケーションⅡ	4			3		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4
	論理・表現Ⅰ	2		3			
	論理・表現Ⅱ	2			2	2	2
	論理・表現Ⅲ	2					
	*英語探究				※(2)		
家庭	家庭基礎	2	○	2			
	家庭総合	4					
情報	情報Ⅰ	2	○	1	1		
	情報Ⅱ	2					
※国際理解	* I G R			1			
	ホームルーム	3	○	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	○	1	1	1	1
履修単位合計				34	34	33	33

・ *は学校設定科目。I G Rは「Integrated Global Research」の略。

・ ※の選択科目のうち、2科目を選択（各2単位）

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	現代の国語	2	○	2			
	言語文化	2	○	3			
	論理国語	4			2	2	2
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4			3	3	3
	*国語探究				※(2)		
地理 歴史	地理総合	2	○	2			
	歴史総合	2	○	2			
	世界史探究	3			★(3)	3	
	日本史探究	3				(3)	
	地理探究	3			(2)		3
公民	公共	2	○		★2		
	倫理	2				(3)	
	政治・経済	2					
数学	数学Ⅰ	3	○	3			
	数学Ⅱ	4		1	3		
	数学Ⅲ	3			(1)		3
	数学A	2		1	1		
	数学B	2			1	3	2
	数学C	2				3	2
	*数学探究				※(2)		
理科	#科学と人間生活	2			(2)		
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4				※(1)	(4)
	化学基礎	2		2		(2)	
	化学	4				※(1)	4
	生物基礎	2			(2)	2	
	生物	4				※(1)	(4)
	地学基礎	2			(2)	(2)	
保健 体育	体育	7～8	○	3	2	2	2
	保健	2	○	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	○	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
英語	総合英語	3～15	※※	3	2		
	英語理解	2～8			2	2	2
	英語表現	3～10		3		2	2
	時事英語	2～8	※※		1		
	異文化理解	2～8				2	2
	*英語探究	2～8			※(2)		
家庭	家庭基礎	2	○	2			
	家庭総合	4					
情報	情報Ⅰ	2	○	1	1		
	情報Ⅱ	2					
*国際 理解	*I G R			★1			
	*日本語探究					★1	
	*地歴特論					★1	
	*サイエンス特論				★※(2)		
	*中国語				★※(2)		
	ホームルーム	3	○	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	○	1	1	1	1
履修単位合計				34	34	33	33

・★は専門科目とみなす。(合計5単位以内)

・*は学校設定教科・科目。I G Rは「Integrated Global Research」の略。

・※の選択科目のうち、2科目を選択(各2単位)、ただし化学と物理/生物は合わせて2単位とする。

・※※は原則履修科目